

# 沖繩県主要水系調査書

(沖繩本島北部地域)

昭和 61 年 12 月

沖繩県企画開発部  
土地利用対策課

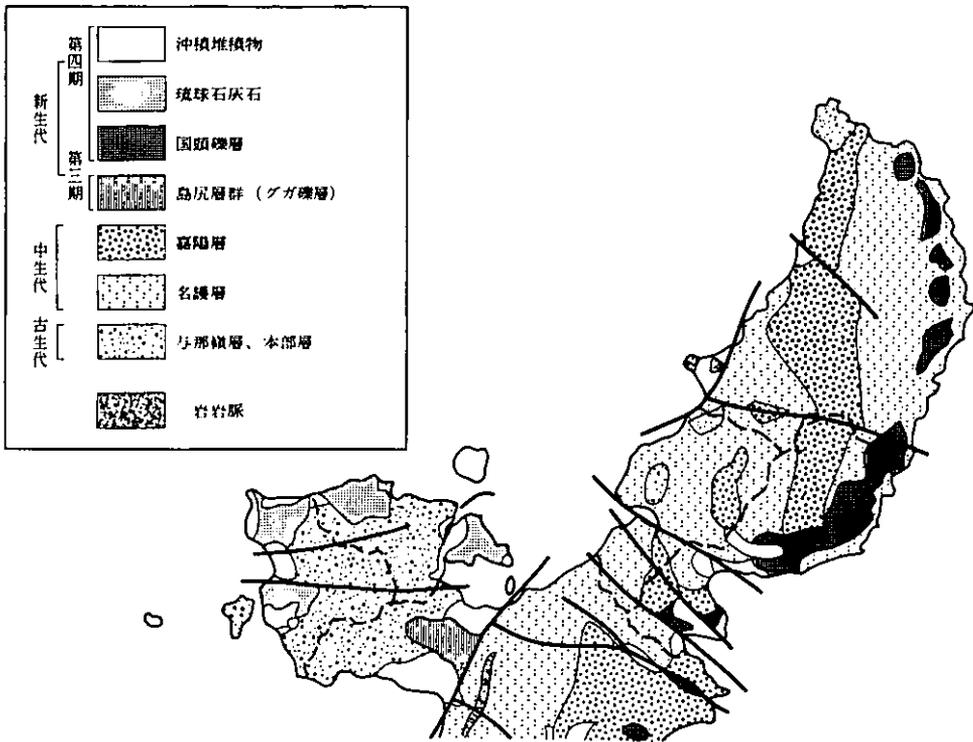
## 正 誤 表

ページ数	列	行	誤	正
3		上26	沖縄県土木建築部	沖縄県土木建築部河川課
〃		上27	脱 落	沖縄県農林水産部耕地課
4		上20	保安林	保安林・保安林指定予定地
5		上17	保安林は、国有林と民有林とを分けて表示した。	保安林は、国有林と民有林とに分け、機能を水源かん養、土砂流出及びその他の3機能に細分して表示した。
調査編 11		上17	国管理のダム	国管理のダム
40		下表 A欄	水浴及びB以下の欄	及びB以下の欄
〃		下表 B欄	脱 落	水道3級・水産2級及びC以下の欄に掲げるもの
41	表5-3 左1	上 2	福地川	福地ダム
〃	表5-3 右1	上 2	脱 落	沖縄県告示 昭和50.3.6
50		下 4	比謝川総合開発事業	比謝川総合開発事業
53		下 6	小資源開発	水資源開発
資料編	資料表 目 次	下15	脱 落	IV-1 農業用取水口・排水口及び生活用排水口
	〃	下11	IV-1-4 農業用生活用排水口一覧表	IV-1-4 生活・農業用排水口一覧表
1	表 左1	下 2	農業開発事務所4ヶ所	農業開発事務所（他4ヶ所）
〃	表 左2	上 2	統計	総計
51	上表 左1	上 4	北部ダム事如所	北部ダム事務所
71		上 2	脱 落	IV-1 農業用取水口・排水口及び生活用排水口
72		上 1	農業用水口一覧表	農業用取水口一覧表
78		上 1	農業用生活用排水口一覧表	生活・農業用排水口一覧表
118		上 2	脱 落	東村・大宜味村

154	左 2	上 2	辺土・上原	辺土上原
155	左 1	上 2	右張りアース	石張りアース
158	左 4	上13	国頭村字比蔵前	国頭村字比地比蔵前
”	”	上18	国頭村字川田	東村字川田

調書編 25ページ 訂正図

図3-2 地質の概況



## 序 文

わが県では、井戸を中心に集落が発達したこともあって、古来、水との関係が深く、その利用及び保全には県民独特の英知が生かされてきておりました。水は島人にとって、まさに宝であり、信仰の対象であったのです。

しかし、一方で「島ちゃび（離島苦）」という言葉がありますように、水で非常に苦しんできました。干ばつ、台風などの自然災害に、絶えず悩まされてきたのであります。

近年の人口の増加による水需要の増大は、従来の水利用を超え、それへの対応は、県民の課題となつてきております。そのため、わが県におきましては、河川の開発を中心にして地下水の再利用など水資源の総合的な開発保全を進めているところでありますが、限られた水資源を有効に利用するためには、水の利用の実態を把握しておくことが重要なことであります。

ところで、水に関する資料は、各機関によってそれぞれの必要に応じて調整・保管されており、必ずしも系統的に整備統合されておらず、資料そのものが有効に利活用されているとはいえない状況にあります。

本調査は、国土調査法に基づく水調査の一環として、沖縄県における2級水系の流域及びその周辺地域の概況、利水並びに利水施設の状況、水文、水質等に係る資料を収集・整理し「沖縄県主要水系調査書」及び「利水現況図」としてまとめるものであります。

本書は、沖縄本島北部地域の福地川をはじめとする、10水系の2級水系について調査した結果を基に作成されたもので、この成果が広く利用され、水資源の開発・保全及び利用の高度化に大いに貢献できることを期待するものであります。

終わりに、本調査の実施にあたって、御協力を頂いた沖縄総合事務局をはじめ、関係機関及び市町村等の関係各位に対し、深く感謝の意を表するものであります。

昭和 61 年 12 月

沖縄県企画開発部長

池 田 光 男

# 総 目 次

## 調 書 編

調査書の概要 .....	1
(1) 収録資料 .....	2
(2) 利水現況図の概要 .....	4
調査流域の概要 .....	9

## 資 料 編

資料表 .....	1
(参考)資料の出典 .....	168

# 調 査 書 の 概 要

## 1. 趣 旨

本県では水資源開発計画、水利用計画、治水計画等の適正かつ合理的な策定にとって不可欠な水に関する基礎資料を整備するため、2級河川水系の流域及びその周辺地域を対象として、水調査を実施している。

この調査は、治水、利水、水文関係の既存の資料を収集し、地図と簿冊にまとめるものであるが、本調査書は、その成果物であり、利水現況図と対をなすものである。

## 2. 記 載 区 域

与那川、辺野喜川、安波川、比地川、奥川、福地川、新地川、有銘川、大保川、田嘉里川の各流域及びその周辺地域。

## 3. 記 載 内 容

- (1) 水文観測所の諸元、及び観測記録、水利施設の諸元及び水利記録、流域の概要等である。
- (2) 水文観測所、水利施設等には、本調査書と対をなす利水現況図との関連づけのため、対照番号を付してある。

## 4. 作 業 分 担

- (1) 次のとおりである。

沖縄県企画開発部土地利用対策課一調査全般、編集、印刷

沖縄県土木建築部河川課一資料収集、利水現況の原稿図の作成

- (2) 資料の収集にあたっては次の機関の協力を頂いた。

沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部河川課

“ 北部ダム事務所

“ 北部ダム統合管理事務所

“ 農林水産部土地改良課

沖縄県環境保健部環境衛生課

公害対策課

沖縄県農林水産部農林建設課

耕地課

沖縄県企業局

国頭村

大宜味村

東村

(財)日本気象協会沖縄支部

## 5. 記 載 時 点

記載した資料は、60年度に収集し、61年度に編集・印刷したものであり、記載時点は、昭和60年9月であるが昭和61年12月までの変化は努めてフォローした。

## (1) 収 録 資 料

本調査に収集した諸資料は主としてつぎの諸調査項目について、収集・編集したものである。

### I) 降 水 量 資 料

降水量観測所は、下記の資料に基づき降水量観測所総括表、一覧表に整理し取りまとめた。

沖縄総合事務局開発建設部河川課  
" " 北部ダム事務所  
" " 北部ダム統合管理事務所  
農林水産部土地改良課  
気象庁沖縄气象台  
沖縄県土木建築部河川課  
沖縄県企業局  
(財)日本気象協会沖縄支部

### II) 水 位 ・ 流 量 資 料

水位・流量観測所は、下記の資料に基づき、水位・流量総括表及び諸元一覧表に整理し取りまとめた。

沖縄総合事務局開発建設部河川課  
北部ダム事務所  
北部ダム統合管理事務所  
農林水産部土地改良課

### III) 水 質 資 料

水質調査地点は、下記の資料に基づき、水質調査地点総括表一覧表に整理し取りまとめた。

沖縄総合事務局開発建設部北部ダム事務所  
北部ダム統合管理事務所  
沖縄県環境保健部公害対策課

### IV) 取 水 口 ・ 排 水 口 資 料

農業用取水口及び排水口は、下記の資料等に基づき、取水方法別、排水方法別などの総括表、農業用取水口一覧表、農業用排水口一覧表に整理し取りまとめた。工業用取水口及び排水口は、下記の資料等に基づき取水方法及び排水方法別総括表、工業用取水口一覧表、工業用排水口一覧表に整理し取りまとめた。

記

沖縄県土木建築部河川課  
沖縄県企業局

国頭村  
大宜味村  
沖縄県土木東村

V) 主要井戸資料

主要井戸は、「沖縄水資源開発調査報告書（地質調査所1972）」の他に現地調査をし、農業用井戸、工業用井戸、上水道井戸；その他の用途別に分類整理し、主要井戸（用途別）一覧表に整理し取りまとめた。

VI) 簡易水道等資料

簡易水道等資料は、下記の資料を基にし、水道用水（簡易水道）総括表、地区一覧表に整理し取りまとめた。

記

沖縄県環境保健部環境衛生課  
沖縄県企業局  
国頭村  
大宜味村  
東村

VII) 工業用水使用状況資料

工業用水の使用状況は、「沖縄県の工業（工業統計調査）」とヒヤリング調査を基に工業用水使用状況調査一覧表に整理し、取りまとめた。

VIII) ダム資料

ダムは堰培部の高さ15m以上のものについて下記の資料を基に、ダム総括表、ダム一覧表に整理し取りまとめた。

記

沖縄総合事務局開発建設部河川課  
“ 北部ダム統合管理事務所  
沖縄県土木建築部

IX) 水力発電所資料

水力発電所は、沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所の資料をもとに水力発電所総括表、水力発電所一覧表に整理し取りまとめた。

X) 溜池資料

溜池は、沖縄県農林水産部耕地課・農林建設課等の資料を基に溜池総括表、溜池一覧表に整理し取りまとめた。

## (2) 利水現況図の概要

### 1. 利水現況図

この地図は、沖縄県が作成した資料図（収集資料を整理し図示した図面）をもとに、編集図化したものである。この地図には水利用と関係の深い各種観測施設および保安林の区域を図示している。

本地域の利水現況図は、2万5千分の1四六版2面からなっている。

### 2. 利水現況図の表示事項

この地図は9色刷りで、次の事項を表示した。

- (1) 河川，湖沼
- (2) 用排水路等
- (3) 取水，排水施設  
ダム，取水口，樋門，樋管，ポンプ場，排水口
- (4) 井戸  
深井戸，浅井戸
- (5) 利水関連施設  
浄水場，配水池，水力発電所
- (6) 受益地区等  
用水路，用水，水道等受益地区
- (7) 治山治水関連施設および区域等  
保安林
- (8) 土地利用  
水田，畑地（かんがい施設を有するもののみ）
- (9) 観測施設および観測定点
- (10) 水系流域界
- (11) 行政界  
市町村界

### 3. 各事項別の表示の基準

次の基準に従って表示した。

- (1) 河川，湖沼  
河川法の適用される二級河川を河川の幅が0.6mm以上の場合は2条線，0.6mm未満の場合は一条線で表示した。

(2) 用水路及び水管

目的別に色分けで表示した。

(3) 取水、排水施設

各施設とも目的別に色分けし、該当河川の略記号および対照番号を付記した。ダムは堤高15m以上のものを表示した。また、有効貯水量が50,000 m<sup>3</sup>以上のダムについては、名称および貯水量を付記した。

なお、調査書に水位調節ダムとして分類されているものは、多目的ダムとして表示した。

(4) 井戸・湧水

目的別に色分けし、深井戸と浅井戸を区別（その基準は深度30m）し、地区ごとに海の部分に抜き出して表示した。

(5) 利水関連施設

浄水場、配水池は目的別に色分けされた用水路の色と同じとし、用水路とつなぐようにした。

(6) 受益地区等

地図には工業用水、簡易水道の受益地区を目的別に色分けで表示した。受益地区は対照番号を付した。

(7) 保安林

保安林は、国有林と民有林とを分けて表示した。

(8) 土地利用

水田およびかんがい施設を有する畑地について表示した。

(9) 観測施設及び観測定点

各種観測施設を自記と普通に分けて表示し、対照番号、名称、所属を付記した。又、降水量観測については、年平均降雨量もあわせて表示した。

(10) 水系流域界

水系毎に流域界を表示した。流域界で囲まれた内部に河川名と流域面積を表示した。

(11) 行政界

行政界と水系流域界、その他の界線が一致する場合は行政界を基図に合わせ、水系流域界及びその他の界線は若干ずらして表示した。

## 4. その他

(1) 目的別色分け

図の理解を容易にするため、水の利用目的や関係別に記号類を次のような色に統一した。

農業用水関係	緑
農業排水関係	青
工業用水関係	赤
水道用水関係	橙

多目的用水関係	紫
治山・治水関係	茶
観測施設、行政界	黒
河川・湖沼	青

農業排水路とその他の河川の図上の表現は同じである。

(2) 調査書対照番号

次のものには調査書と対照できる対照番号を付した。

I) 取水、排水施設

対照番号は記号と同じ色で付した。番号の順は目的別に一連とし、水系順、本川より支川へ、下流より上流へ付すことを原則とした。

(イ) ダム

ダムの名称と所属の略号を（ ）内に書き入れた。

(ロ) 自然取水・排水、樋門、樋管、ポンプ場

水系の頭文字をつけ、水系別に対照番号を付した。頭文字は、2級水系の場合は、大文字と小文字、その他の水系は小文字であらわした。

(例) 2級水系…福地川 Fku      その他河川…佐手川 sat

II) 井戸・湧水

対照番号を記号と同じ色で付した。番号の順は深井戸、浅井戸の区別なく、市町村の頭文字をつけ、目的別、市町村別に一連とした。

III) 簡易水道受益地区

地区番号を受益地区の中央に、目的別の色で書いた。

IV) 観測施設

種類別に一連の対照番号とし、所属を示す頭文字を（ ）内に書いた。所属を示す記号は、次のとおりである。

沖繩総合事務局開発建設部北部ダム事務所（北ダム）

北部ダム統合管理事務所（管）

農林水産部土地改良課（土改）

気象台（気）

沖繩県土木建築部河川課（県）

沖繩県企業局（企）

沖繩県環境保健部公害対策課（環）

(3) その他の注記

(2)のほか、次のものを注記した。

(I) 市町村名

(II) 2級河川名

(Ⅲ) 主な用排水路名

(Ⅳ) 発電所名

(Ⅴ) 流域面積

(4) 編集に使用した資料

編集は主として1/2万5千の地形図上に所要事項を記入した資料図及び所定の様式に基づき、調査し収集した資料によって行った。

図は、概ね60年9月の状態を表わした。



# 調 査 書 編

## 調 査 流 域 の 概 要

## 調査流域概要目次

第1章 流域の概要	9
第2章 各河川の概要	12
2-1 主要河川の概要	14
第3章 地形及び地質、地下水、植物および動物	23
3-1 地 形	23
3-2 地 質、土 壤	24
3-3 地下水の分布	25
3-4 植物および動物相	27
第4章 経 済 状 況	29
4-1 人 口	29
4-2 産 業	30
4-3 土 地 利 用	35
第5章 水文及び水質の概要	38
5-1 水 文	38
5-2 水 質	40
第6章 主要河川の利用状況（利水）	45
6-1 農 業 用 水	45
6-2 生 活 用 水	45
6-3 鉱 工 業 用 水	47
第7章 沖縄北部河川総合開発計画	48
7-1 長期水需級計画	48
7-2 沖縄北部河川総合開発計画の内容	49
7-3 利 水 計 画	53
7-4 治 水 対 策	54
第8章 西系列水源開発事業計画	59
8-1 県内の水需要の特徴	59
8-2 水利用の現況	59
8-3 水の供給施設	60
8-4 西系列水源開発事業の概要	61
第9章 治水事業の概要	64
9-1 河川改修事業	64
9-2 砂 防 事 業	65

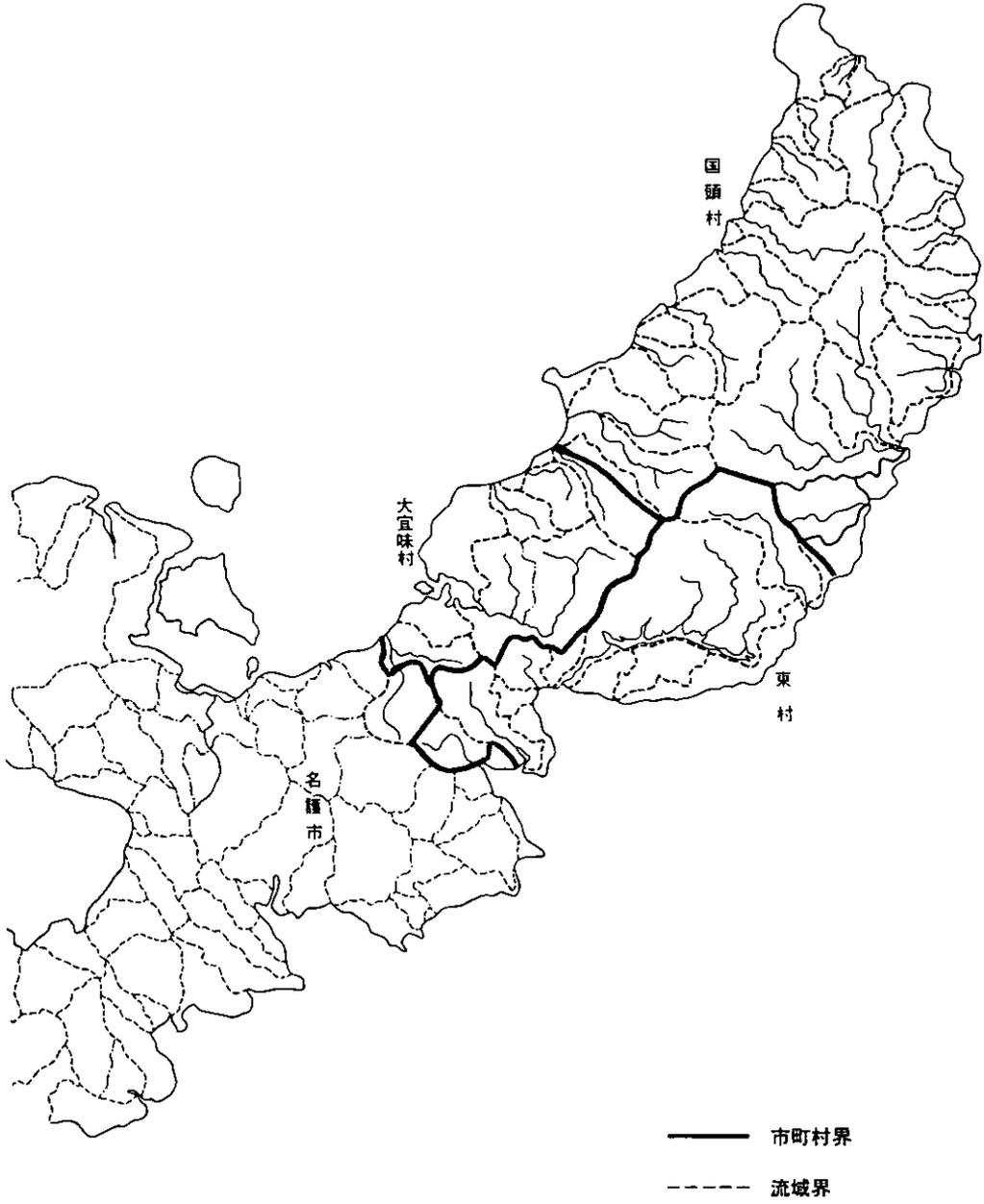
## 第1章 流域の概要

本調査対象地域は国頭村，大宜味村，東村の3村からなり，沖縄本島の中でも急峻な山地となっているところである。この調査対象地域は，小河川の流域で構成され，特に県内の二級河川指定61河川のうちで本地域には19河川で約1/3が集中している。また本地域は沖縄本島における重要な水源地帯になっており福地ダム，安波ダム，普久川ダム，新川ダムなど西系列水源開発事業として多目的ダムが建設されており，さらに東系列水源開発事業の一環として辺野喜ダムが建設された。

いわば，この地域は多目的ダムによる河川総合開発事業の中心的な地域であり，県内水資源の最も重要な水源地帯である。

本地域は与那覇岳(498 m)を始めとしてフェンチチ岳，伊湯岳(446 m)，西銘岳(420 m)，津波山(264 m)などの山地が中央部に連なり，海岸近くまで山地や台地が広がっている。そのため河川勾配が急でかつ流路延長が短かく，山地から直接海へ流れ込む流路の河川が多い。

流 域 図



## 1. 国頭村

国頭村は18の水系と22の主な中小河川から形成されており、このうち最大の水系は安波川水系で与那覇岳、フェンチヂ岳を分水嶺に安波川河口に至る流域面積42.1㎢、河川延長7.1㎞である。その他に大きな水系としては辺野喜川水系、比地川水系、与那川水系、奥川水系などがある。西系列水源開発事業のダム群としては安波ダム、普久川ダムなどの国管理のダムがあり、東系列として辺野喜ダムが昭和61年完成した。

さらに国頭村の中小河川は、地形的な特性から砂防指定地に指定されている河川が多い。

## 2. 大宜味村

大宜味村は14の水系と17の中小の河川から構成される。村内で最も大きい流域を持つ水系は、大保川水系であり村域東部の山地から村中央部に位置する塩屋湾に流入するまでの流域を持っており、その流域面積23.64㎢は、村土の37%を占めるほどである。その他の水系で大きいものは田嘉里川、平南川の両流域である。

## 3. 東村

東村は12水系18の中小河川で形成されており、これらの水系のうちで福地川水系が最も大きく、1水系7河川からなりその流域面積は32.0㎢で村土の40.8%を占めている。福地川には有効貯水容量が $48,500 \times 10^3$  m<sup>3</sup>の規模を持つ県内最大の多目的ダムの福地ダムがあり、東系列のダム群である安波ダム、<sup>フン</sup>普久川ダム、新川ダム、辺野喜ダムと導水トンネルによって連結され、国管理の多目的ダムの中心ダムとして重要な役割を果たしている。

また、その他安波川水系、有銘川水系があり、安波川水系には安波ダムと<sup>フン</sup>普久川ダムがあり、重要な水資源となっている。



番号	河川名	指 定 区 間	指定延長	地域面積	指定年月日
4	普久川	左岸 国頭村字伊部以下安波川落合に至る	7,000	17.00	S15.12.10 認定
		右岸 "			
5	床川	左岸 国頭村字安波川瀬原国有林30林班い 小班地先から安波川合流点まで	2,300	6.9	S56. 1.17
		右岸 国頭村字安波川瀬原国有林29林班い 小班地先から安波川合流点まで			
6	比地川	左岸 国頭村字比地以下海に至る	6,450	18.81	S15.12.10
		右岸 "			
7	奥間川	左岸 国頭村字奥間以下比地川合流点まで	4,700	6.75	S15.12.10
		右岸 "			
8	奥川	左岸 国頭村字奥仲田原1037番地々先から 海に至る	3,000	10.88	S47. 5. 6
		右岸 国頭村字奥菊連原1053番地々先から 海に至る			
9	沢又川	左岸 東村字高江国有林16林班3小班地先 から福地川に至る	4,500	5.62	S50.11.27
		右岸 東村字高江国有林14林班ち小班地先 から福地川に至る			
10	大沢川	左岸 東村字高江国有林16林班小班地先 から沢又川に至る	2,250	0.8	S50.11.27
		右岸 "			
11	大泊川	左岸 大沢川合流点から海に至る	750	0.14	S50.11.27
		右岸 "			
12	藍川	左岸 東村字川田国有林5林班に小班地先 から福地川に至る	3,000	4.3	S55.11.27
		右岸 東村字川田国有林4林班ほ小班地先 から福地川に至る			
13	内福地川	左岸 東村字宮城国有林8林班ぬ小班地先 から福地川に至る	2,800	5.22	S50.11.27
		右岸 東村字宮城国有林6林班ろ小班地先 から福地川に至る			
14	福地川	左岸 東村字高江高江原466-1番地地先 から海に至る	12,100	36.00	S15.12.10
		右岸 "			
15	新川川	左岸 東村字高江高江原466番地の1地先 から海に至る	6,200	11.31	S47. 5. 6
		右岸 "			
16	有銘川	左岸 東村字有銘福地原386番地地先から 海に至る	1,800	3.33	S47. 5. 6
		右岸 東村字有銘福地原368番地地先から 海に至る			
17	大保川	左岸 大宜味村字根路銘棚原山2268番地地 先から海に至る	9,600	23.64	S15.12.10
		右岸 "			
18	田嘉里川	左岸 大宜味村字田嘉里赤久原1712番地地 先から海に至る	4,000	8.91	S47. 5. 6
		右岸 "			

安波川水系

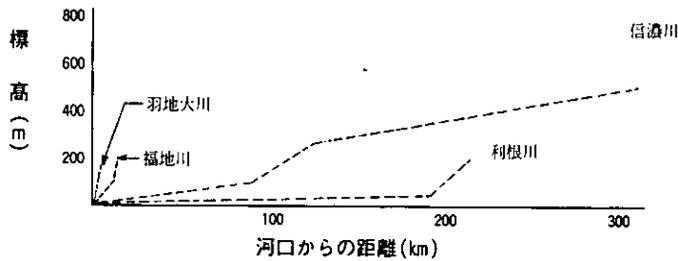
比地川水系

福地川水系  
福地川系河川

表 2-3 沖縄の河川と本土の河川

		河川数	平均流域 (km <sup>2</sup> )	平均河川延長 (km)
沖縄の二級河川(A)		61	12.1	4.9
全 国	一級河川(B)	13,439	17.9	6.4
	二級河川(C)	6,724	15.8	5.2
(A)/(B) (%)		0.45	67.60	76.56
(A)/(C) (%)		0.91	76.58	94.23

図 2-1 河川勾配



調査対象地域の二級河川は、表 2-2 に示すように国頭村の 5 水系 8 河川，東村の 3 水系 8 河川，大宜味村の 2 水系 2 河川の合計 10 水系 18 河川が指定されている。

## 2-1 主要河川の概要

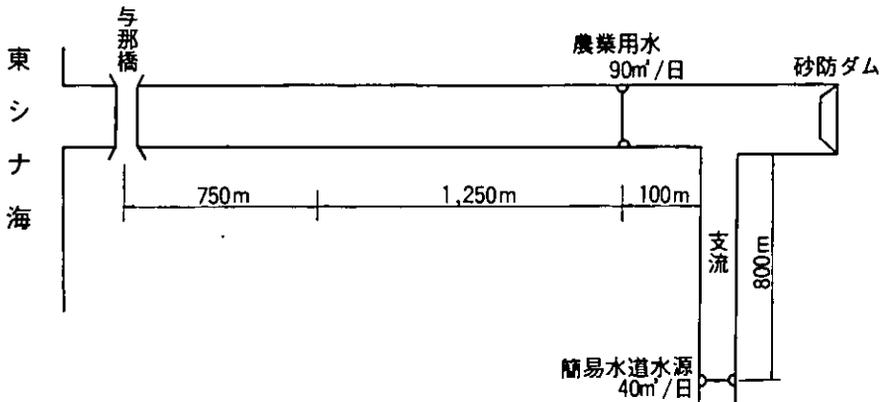
### 1. 与那川

与那川は、国頭村字与那に接して河口を持つ延長 4.4 km の川で戦前は上流の山林地帯に営林署や製材所などがあり林業が盛んであった。現在その跡地には琉球大学農学部の演習林がある。海岸線は河口部を中心に、大きく湾曲して入江状をなし、漂砂が堆積しやすく河口は塞閉の状態にある。このため平水程度程度の流水では掃砂力が小さく、河口付近で伏流水となり、海浜の発達が非常に早いと考えられる。そのため豪雨時には、集落および付近の耕地に浸水し被害をもたらすこともある。

昭和 46 年頃は水利施設として上流へ約 900 メートルと 200 m の 2 ケ所に農業用取水せきがあり、それぞれ水田 5 ha、田畑 4.4 ha を対象にかんがい用水路が設けられた。又、支流にも取水セキ 2 ケ所、砂防ダム 1 ケ所が設けられ、生活用水として 80 m<sup>3</sup>/日が取水されていた。

現在は図 2-2 に示すように田畑約 9.0 ha を対象にしたかんがい用水として約 90 m<sup>3</sup>/日、簡易水道の水源として約 40 m<sup>3</sup>/日が取水されている。

図 2-2 水利用モデル図



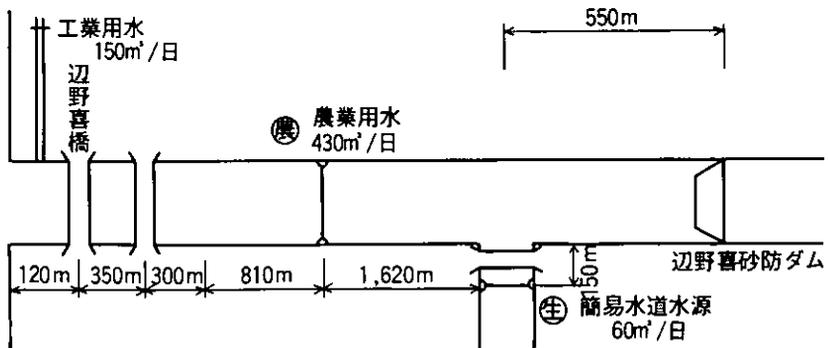
2. 辺野喜川

辺野喜川は国頭村字辺野喜に河口をもつ延長 8.0 km、流域面積 13.18km<sup>2</sup>の河川で、河口部の両岸約 300メートルの範囲に辺野喜部落が広がっている。部落は河川堤防より低い所に位置しているものが多く、年々の出水時には川沿いの家屋はたびたび水害を蒙ってきた。

47年以前は、15haの田畑が分布し、そのうち約 7 haの水田が上流の農業用取水セキからの取水によってかんがいされていた。

また、生活用水としては(最大) 44 m<sup>3</sup>/日が取水されていたが、現在は図-2-3 に示すように農業用セキから畑のかんがい用水として(最大) 430 m<sup>3</sup>/日の農業用水、簡易水道水源として(最大) 60 m<sup>3</sup>/日の生活用水が取水されている。また、辺野喜橋付近で合流する小さな支流からは北部生コン機によって工業用水約 150 m<sup>3</sup>/日が取水されている。

図 2-3 辺野喜川水利モデル図



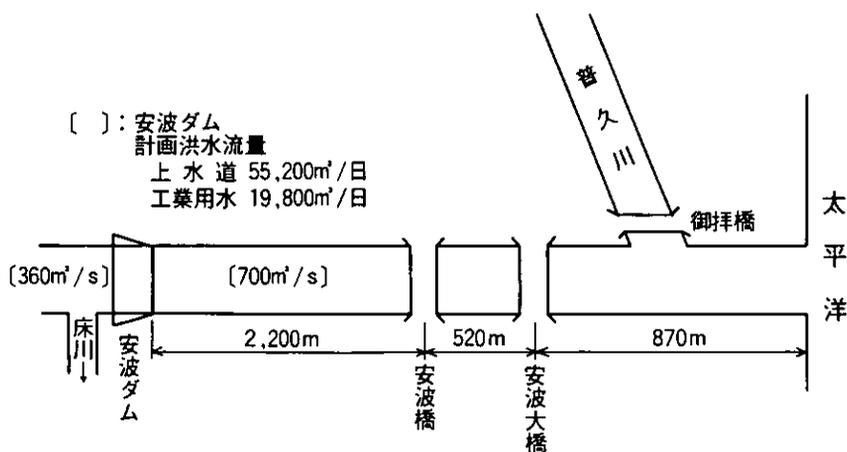
### 3. 安波川

安波川は安波集落の北側を流れ、河口部で普久川と合流する県内有数の水量を持つ河川である。安波川は河川延長 8.5 km、流域面積 42.09 km<sup>2</sup>の河川で支流に 2 級河川の床川を持っている。床川は河川延長 2.3 km、流域面積 6.9 km<sup>2</sup>の河川である。昭和 46 年頃の安波川の利水施設は河口から 165 m の地点に農業用取水セキがあったが水路が崩壊し使用されなかった。河口部に発達している農耕地は甘蔗が中心で水田耕作がなく、かんがいはほとんど行なわれていなかった。

現在安波川には国管理の安波ダムが昭和 58 年 3 月に完成し、開発水量として上水道 55,200 m<sup>3</sup>/日 工業用水 19,800 m<sup>3</sup>/日の計 75,000 m<sup>3</sup>/日の用水が計画されている。

現在のところ安波川からの農業用水、生活用水の水利施設はなく、安波ダム以外からの取水はされていない。

図 2-4 安波川水利モデル図



### 4. 普久川

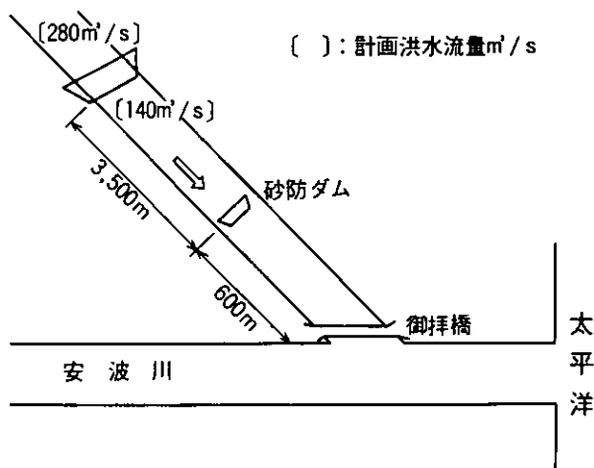
普久川は安波集落のやや北よりに位置し、安波川とは県道 2 号線にかかる御拝橋のすぐ下流で合流し、河口を一つにしている。この河川は御拝橋を起点として 300 m 上流までは縦断勾配も緩く、両岸にはある程度耕地が散在しているが、上流 4 km 付近まで河床勾配も段階的に変化し勾配が急になっている。普久川は河川延長 7.0 km、流域面積が 17.00 km<sup>2</sup>の河川で昭和 46 年頃まで、利水として、約 40 ha の果樹園に対してかんがいを実施しており、さらに御拝橋から 300 m の地点に建設された農業用取水施設により、沖縄県肉用育成センターが養牛用水として約 2,500 m<sup>3</sup>/日程度の取水を行っていた。また、支流からは生活用水が取水されていた。

現在は農業用水の取水は行なわれておらず、支流から簡易水道水源として約 80 m<sup>3</sup>/日の取水が行

なわれているにすぎない。

さらに普久川には国管理の普久川ダムが昭和58年3月に完成し、開発水量として上水道15,500  $\text{m}^3/\text{日}$ 、工業用水68,400  $\text{m}^3/\text{日}$ の用水が計画されている。

図2-5 普久川水利モデル図



## 5. 比地川

比地川は奥間川とともに河口部に広大な水田地帯を持ち、昔から農業用水として盛んに利用されてきた河川である。比地川は指定延長6.45km、流域面積18.81 $\text{km}^2$ を持つ河川であり、豊富な水量を利用した養鰻業が行なわれていた。

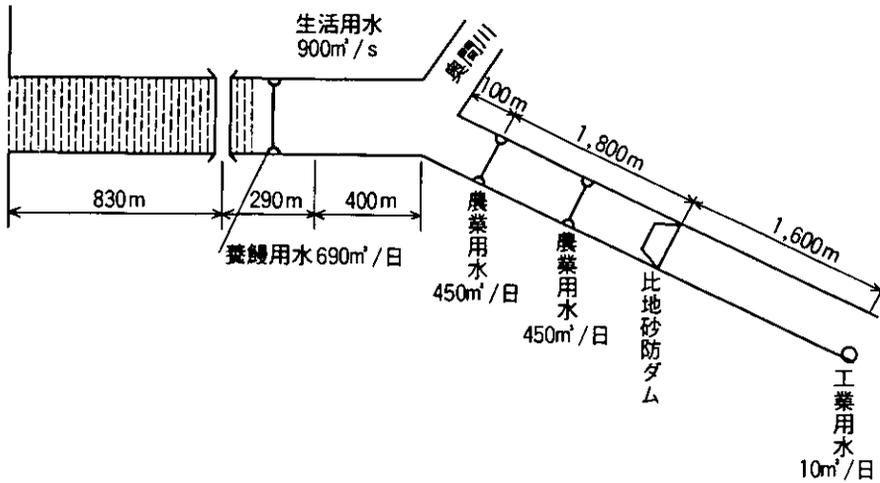
流域内の地質は第四紀国頭礫層が広く分布し、崩壊侵食が起きやすく、上流部においては土砂の流入が多いところである。

利水状況は昭和46年頃に、本流にかかる利水施設として取水セキ3ヶ所、砂防ダム1ヶ所があり、農業用水として最大4,979  $\text{m}^3/\text{日}$ 、生活用水(最大)として382  $\text{m}^3/\text{日}$ の計4,979  $\text{m}^3/\text{日}$ が利用されていた。

現在は生活用水として約900  $\text{m}^3/\text{日}$ 、農業用水として約900  $\text{m}^3/\text{日}$ 、養鰻用水として690  $\text{m}^3/\text{日}$ の合計2,490  $\text{m}^3/\text{日}$ が利水されている。

また、工業用水としては国場組半地砕石場の砕石洗浄用として上流の支流から10  $\text{m}^3/\text{日}$ が取水されている。

図 2-6 比地川水利モデル図



6. 奥間川

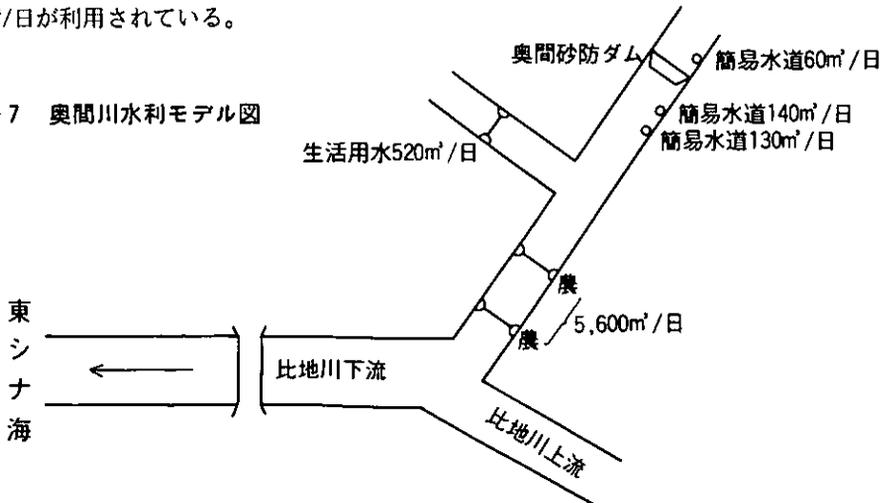
奥間川は比地川の比地橋上流約 700 m の地点から左北方へ別れて、比地集落の間を経て与那覇岳に到る指定延長 3.0 km、流域面積 10.88 km<sup>2</sup> の河川である。

奥間川は、大正初期の河川改修以前は奥間集落、及びその一帯の低地を横切りデルタ地帯を形成して河口付近で比地川と合流していたが、河川改修によって現在のように河道が変更された。1967年から1969年にかけて行なわれた比地川再改修によって合流点より下流は河川護岸が整備され、河道も大きく拡張された。

合流点より上流は通水断面が小さいため、豪雨時にはしばしば氾濫することもある。奥間川上流一帯の地質は、第四紀国頭礫層が広く分布する山地で地形的に平坦地が少ないため耕地がほとんどない。

昭和46年頃の奥間川からの利水は農業用水が(最大) 10,032 m<sup>3</sup>/日、生活用水(最大)153 m<sup>3</sup>/日が取水されていたが、現在は農業用水が5,600 m<sup>3</sup>/日、簡易水道水源として約850 m<sup>3</sup>/日が取水され合計 6,450 m<sup>3</sup>/日が利用されている。

図 2-7 奥間川水利モデル図



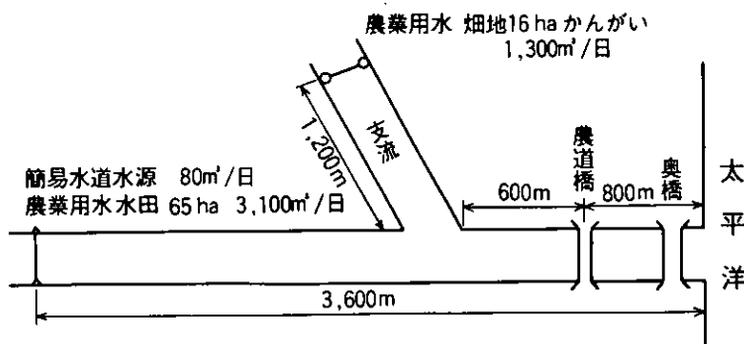
## 7. 奥 川

奥川は河口に近い県道70号線を起点として指定延長3.0 km, 流域面積10.80㎢の河川である。河口付近には約6.5 haの水田があり, 奥集落の水田面積の大部分を占めている。この河川は3 kmという短い川ではあるが, 林相がよく発達し山も深く水量が豊かである。河口から上流3,000 m付近までは縦断勾配もかなり緩いが, それより上流は急峻な山間部を流れていて河川の縦断勾配も急であるため豪雨時には短時間で大量の水が一度に流出する。近年の山林の伐採及び開墾や道路工事等ともなう土砂流出により, 河口部の緩勾配の河床部分に大量の土砂が堆積し, 河床の上昇を促進させている原因にもなっている。

昭和46年頃は, 奥川から農業用水として約3,110 ㎥/日取水され, 生活用水は支流から取水されていた。

現在, 奥川の本流では, 農業用水として約3,100 ㎥/日取水され, 本流以外の支流からも16 haの畑にポンプ揚水によって約1,300 ㎥/日のかんがいが行われている。また, 簡易水道水源として約80 ㎥/日取水されている。

図2-8 奥川水利モデル図



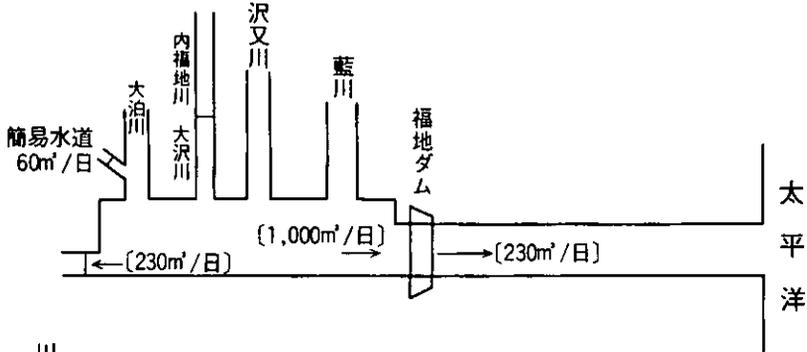
## 8. 福 地 川

福地川は河口を川田, 平良の両集落の間に持ち, 指定延長12.1 km, 流域面積が36.0 ㎢でその源は伊湯岳(449 m)に発し, 南流して太平洋にそそいでいる。

福地川は支流として沢又川(指定延長4.5 km, 集水地域5.62 ㎢), 大沢川(指定延長2,250 m, 集水地域0.8 ㎢), 大泊川(指定延長750 m, 集水地域0.14 ㎢), 藍川(指定延長3 km, 集水地域4.3 km), 内福地川(指定延長2.8 km, 集水地域5.22 ㎢)の5水系をもっており, その中流に福地ダムが建設された。このダムは49年に湛水した沖縄県で一番大きいダムである。その集水面積は32 ㎢, 総貯水量は, 5,500万 ㎥であり, 沖縄最大である。また, ダムは既設の新川ダム, 安波ダム及び普久川ダムから調整水路トンネルによって送水を受け洪水調節, 流水の正常な機能の維持, 上水道及び工業用水道への供給を目的とする多目的ダムである。

47年以前の福地川からの農業用水，生活用水の取水は把握されてなく明確ではないが，現在福地川からの農業用水の取水はされていない。また，宮城，川田，平良，慶佐次，有銘など各集落は福地ダムの取水口からの送水を受けて簡易水道源としている。また，高江地区は大泊川の支流から60 $\text{m}^3$ /日の取水を行なっている。

図 2-9 福地川水利モデル図



9. 新 川 川

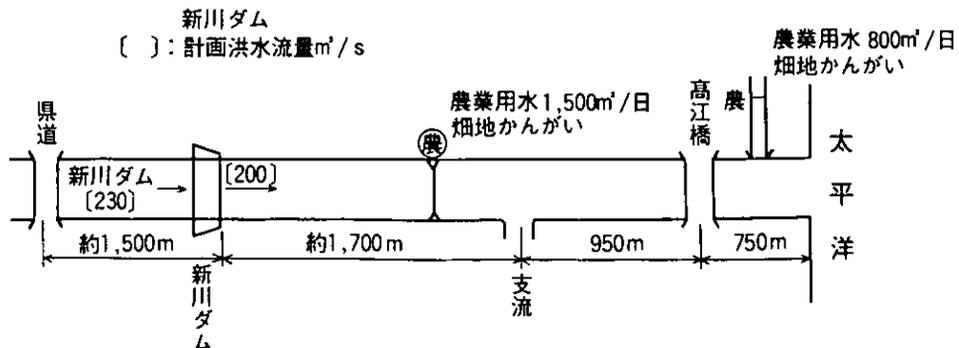
新川川は指定延長6.2 km，流域面積11.31 $\text{km}^2$ の河川である。この川の流域は河口部から上流に至るまで兩岸に急傾斜が続く標高150～200 mの山地帯になっている。河川による沖積地もほとんどなく，従って農耕地も少ない。

以前は新川川の川沿に嵩江小中学校があり，学校を中心に新川部落が存在していたが，しだいに交通の不便な新川部落から嵩江部落に移転した。

現在，新川川からは農業用水を河口から約2 kmの地点でポンプ揚水して21.8haの畑に（最大）1,500 $\text{m}^3$ /日のかんがいを行なっている。さらに高江橋下流の支流から農業用水800 $\text{m}^3$ /日の取水が行なわれている。

昭和52年に建設された新川ダムは新川川の河口から約3 km上流地点に位置し，調整水路トンネルによって連結した福地ダムに，上水13,200 $\text{m}^3$ /日，工業用水4,800 $\text{m}^3$ /日の送水を行っている。

図 2-10 新川川水利モデル図



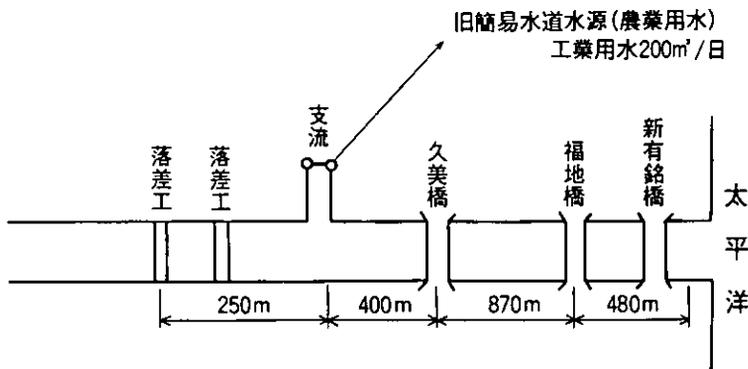
## 10. 有 銘 川

有銘川は河口を名護国頭線の新有銘橋を河口として指定延長 1.8 km, 流域面積 3.33 km<sup>2</sup>の河川である。

河口付近の両岸には有銘集落が位置し、河川に沿って47年以前は約30haの水田が発達していたが、現在は畑に変わっていることもあり、現存のかんがい面積は不明であるが、有銘川地区土地改良区の畑39haに対して、旧簡易水道の水源を使用してかんがいを行なう計画がある。また、生活用水（簡易水道は2～3年前までは有銘川の上流から取水していた）についても、現在は広域簡易水道が引かれ、福地ダムの取水口から取水され送られている。

さらに旧簡易水道の施設から工業用水として東生コン協が(最大)200 m<sup>3</sup>/日の取水を行なっている。

図 2-11 有銘川水利モデル図



## 11. 大 保 川

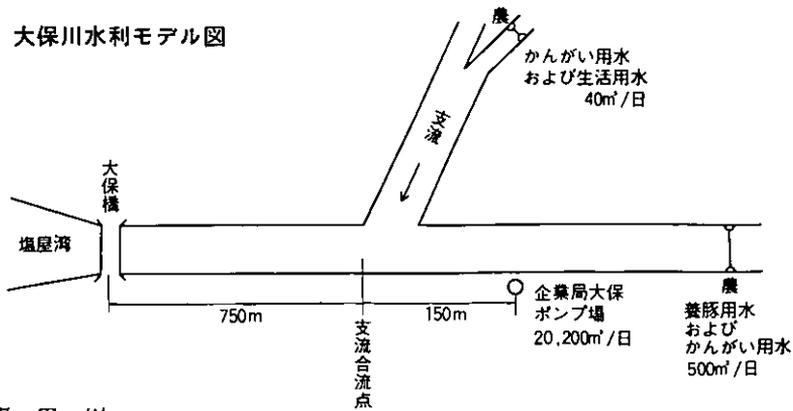
大保川は、大宜味村のほぼ中央に位置する塩屋湾の最奥部に河口をもち、指定延長 9.6 km, 流域面積 23.64 km<sup>2</sup>で北部の河川でも規模の大きい河川の一つである。

大保川は河口に向かって徐々に幅が広がってゆく三角江である。その河口付近には粘土、シルト質の土砂が堆積して湿地帯を形成しており、昔は水田地帯であったが、現在は畑に変わっている。

大保川の中流域は、ほぼ直角に折小曲がった流路をもって穿入、蛇行しており、ここを境に上流域と下流域に分けられる。

この川には大保橋の上流約 900 mの地点に県企業局のポンプ場があり、20,200 m<sup>3</sup>/日(昭和59年取水量)の上水道水源として取水が行なわれている。それ以外では、大保川上流にある大宜味村養豚組合が養豚用水および畑地かんがい用水として500 m<sup>3</sup>/日を、また押川区が支流からかんがい用水および生活用水として40 m<sup>3</sup>/日を取水している。

図 2-12 大保川水利モデル図



12. 田 嘉 里 川

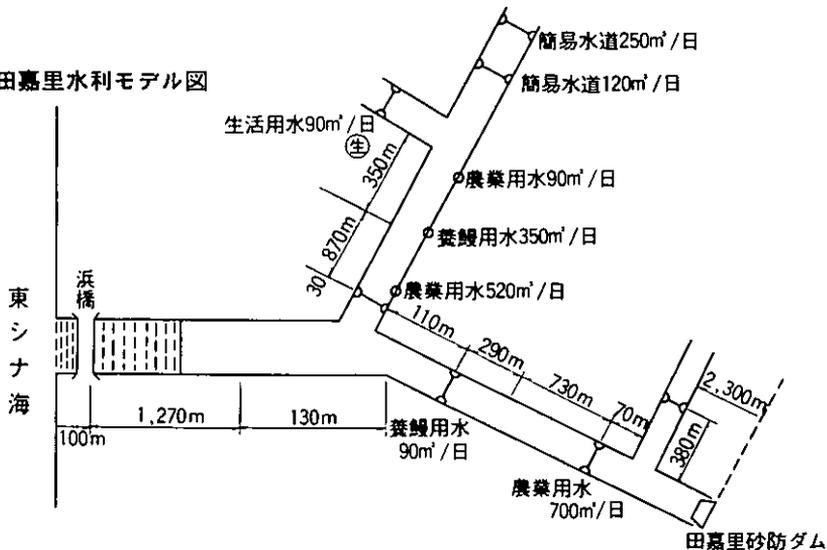
田嘉里川は、大宜味村と国頭村の村界に位置し、その川に沿って田嘉里集落が細長く散在している。田嘉里川は指定延長 4.0 km、流域面積 8.91 km<sup>2</sup>の規模の河川で、大正末期に農業用水施設が施工されるなど、水利用がよく行なわれている。また、この河川は他の河川に比べて土砂の流出が少なく、下流附近の河床も荒廃していない。

上流域一帯の山地は、イジュ、琉球松、イタジイ等の天然林が広く分布し、その中に小規模な果樹、パインアップルの開墾地が点在している。

昭和46年頃の田嘉里川からの取水は取水セキ 3ヶ所、砂防ダム 1ヶ所、簡易ポンプ場 1ヶ所計 5ヶ所、また支流には 4ヶ所に河川施設（取水セキ）があり、それらの施設で本流からは農業用水（最大）3,102 m<sup>3</sup>/日、支流からは生活用水 160 m<sup>3</sup>/日、農業用水（最大）が、2,074 m<sup>3</sup>/日が取水されていた。

現在は、国頭村浜区、大宜味村田嘉里、謝名城の簡易水道水源として支流から 590 m<sup>3</sup>/日、農業用水として約 1,300 m<sup>3</sup>/日、養鰻用水として 450 m<sup>3</sup>/日の合計 2,340 m<sup>3</sup>/日が田嘉里川から取水されている。

図 2-13 田嘉里水利モデル図



### 第3章 地形及び地質，地下水，植物および動物

#### 3-1 地 形

本島北部は昔から「山原(やんばる)」と呼ばれているように、山と急峻な谷壁をもった谷底平地(原)が相互に入り込んだ特有の景観をもっている。山が海までせまり、山間の川が深い谷を形成し、下流に小規模の平地をつくり出している。これら小さな平地と河口付近に耕地と集落が発達するのが特徴である。また近年では、山地の緩斜面を利用した農地の拡大が図られている。

本調査地域の3村は北部の中でも特に山地・丘陵地が多く全面積の85%を占めている。標高区分でみると、標高400mを越える地域が2.0%、標高100m以上の地域が65.5%を占めている。このように本調査地域は山地が多いが、これらの山頂及び山麓には、小起伏の緩斜面や丘陵・台地が段状に発達しており、遠望すれば台状地形を呈する。

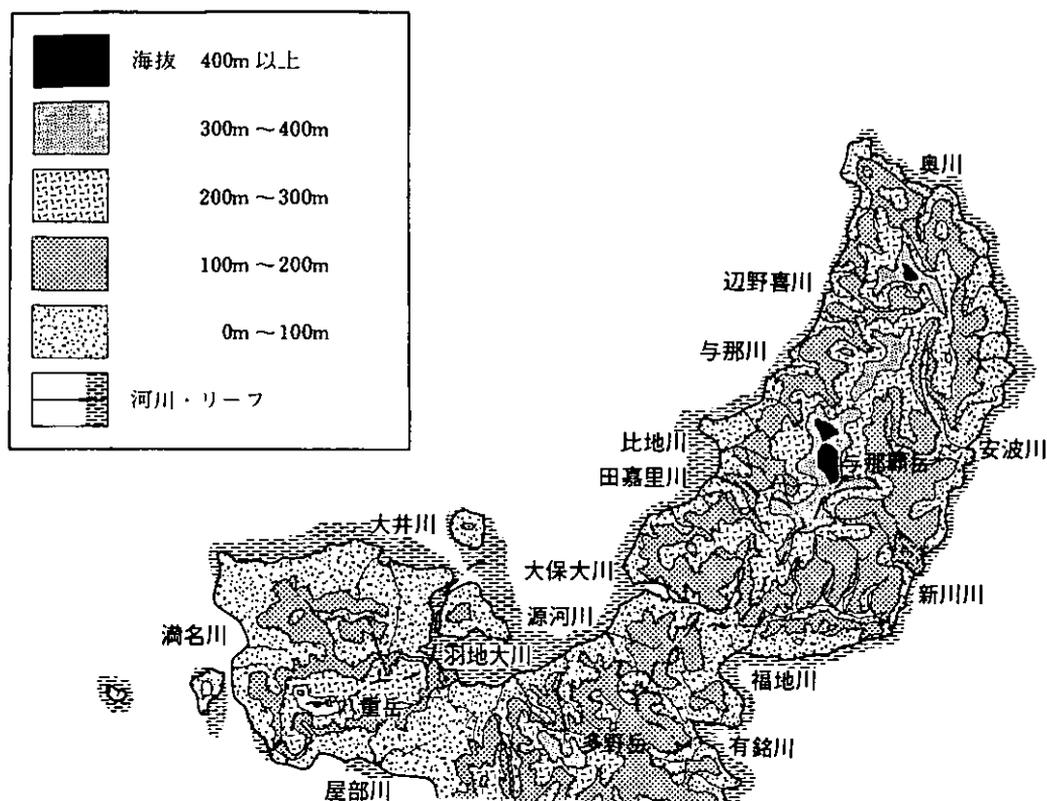
これらの山地は、河川により深く開析され、谷は狭い急峻な谷壁をもっているため、深い谷間という印象を与えている。これらの中小河川の下流部には、それぞれわずかな平坦地がみられるが、いずれも河口付近で沿岸流等により浜堤が発達している。

また、比地川、奥間川河口では、浜堤列の形成により広い海岸平地が形成されているのが特徴的である。

表3-1 調査地域の地形区分と高度区分

区 分		国 頭 村		大 宜 味 村		東 村		合 計	
		面 積	比 率	面 積	比 率	面 積	比 率	面 積	比 率
地 形 区 分	山 地	75.93 km <sup>2</sup>	39.0%	21.43 km <sup>2</sup>	33.4%	7.9 km <sup>2</sup>	10.1%	105.26 km <sup>2</sup>	31.2%
	丘 陵 地	96.59	49.7	37.14	57.9	47.79	61.0	181.52	53.9
	高位段丘	10.99	5.7	1.86	2.9	8.90	11.4	21.75	6.4
	中位段丘	1.42	0.7	—	—	6.90	8.8	8.32	2.5
	低位段丘	0.93	0.5	0.19	0.3	0.31	0.4	1.43	0.4
	低 地	8.64	4.4	3.53	5.5	6.58	8.4	18.75	5.6
	計	194.50	100.0	64.15	100.0	78.38	100.0	337.03	100.0
標 高 区 分	0~100m	58.54	30.1	25.28	39.4	32.44	41.4	116.26	34.5
	100~200m	73.91	38.0	25.40	39.6	31.74	40.5	131.05	38.9
	200~400m	59.52	30.6	13.47	21.0	10.11	12.9	83.10	24.6
	400~600m	2.53	1.3	—	—	0.39	0.5	2.92	0.9
	湖沼ダム	—	—	—	—	3.70	4.7	3.70	1.1
	計	194.50	100.0	64.15	100.0	78.38	100.0	337.03	100.0

図3-1 高度及び水系分布



国土庁「土地分類図」

### 3-2 地質・土壌

調査地域の地質は粘板岩、千枚岩、片岩類から成る名護層群（中生代）や砂岩、泥岩互層、礫岩から成る嘉陽層（中生代？）で構成されて急峻な山地を形成し、階段状の山麓の台地上には第四紀更新世の国頭礫層が広く分布している。

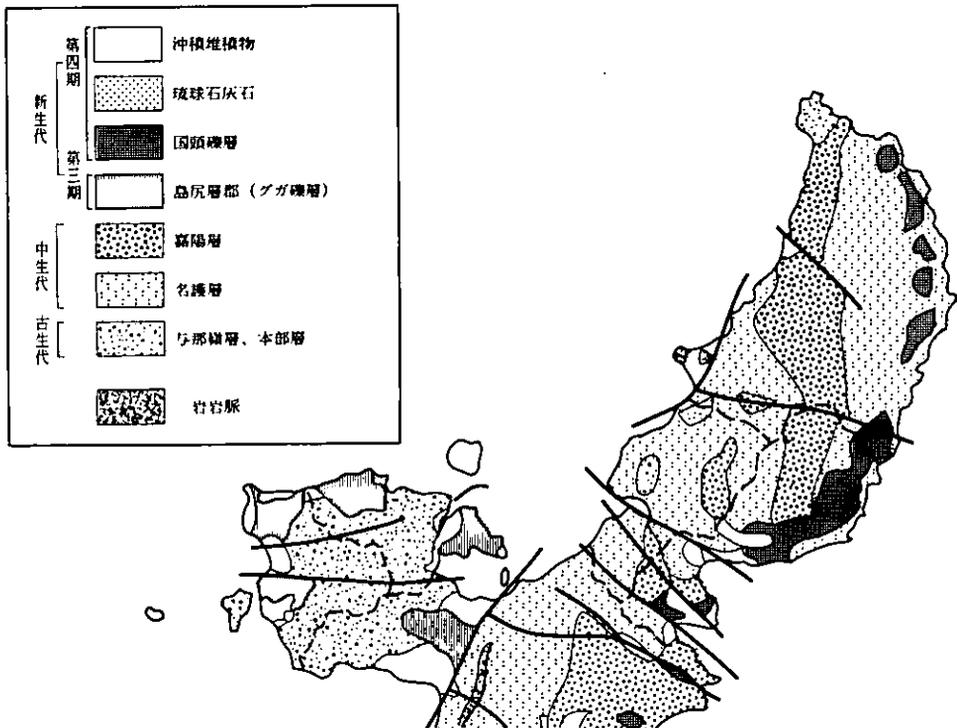
これら山地に分布する土壌の大部分は、国頭マージと呼ばれる酸性の赤黄色土からなり、パイン、茶、果樹等の栽培の適地となっているが、一方では近年大規模な土地造成に伴って赤土が流出し、河川や珊瑚礁の海域を汚染するなど環境悪化の一因となっている。

また、谷底平地などの低地には、沖積土壌が分布し、稲などが栽培されている。

### 3-3 地下水の分布

地下水は帯水層の分布および地質構造に支配される面が大きく、その分布および賦存の状態もそれぞれの構造によって異なった形態を示す。また、水量水質についても、それらの特徴がよく反映されている。

図3-2 地質の概況



したがって地下水区の区分は、水理地質的な環境の違いから便宜的に区分すると沖縄本島北部は次の4つの地帯に分類できる。

- a. 新しい琉球石灰岩で広く覆われた地帯
- b. 新しい砂礫層が堆積している地帯
- c. 古期石灰岩が多く分布する地帯
- d. 千枚岩などの古期岩層が広く分布する地帯

本調査地域である国頭村、大宜味村、東村のほとんどが千枚岩、粘板岩などの古期岩層からなるd地帯に属しており、急峻な山地地形を呈している。地下水はこれらの古期岩層の割目や風化層など

に若干の地下水として浸透，流動がみられるが一般的には難透水層と考えられ，水理地質的な基盤とみなされる。従ってこの地帯の雨水は，石灰岩地帯や砂礫層の地帯と異なり，地下に浸透する量は少なく，短時間で飽和の状態に達し，地形の谷部を表流水となって流下し，これが集まって河川を形成している。

調査地域の中で，a地帯はパッチ状に極小面積分布するのみでほとんど無視できるため，地下水の賦存する可能性がある地帯としては，河口の周辺および国頭礫層が比較的厚く堆積しているb地帯が考えられる。そのため，昔の集落井戸はこのような地帯に集中するが，湧出量が少なく現在では使用されず各区の拝泉井戸として残されているのみであり，生活用水は簡易水道に依存している。

図3-3 水理地質の区分



また、C地帯が大宜味の押川、国頭の半地、辺土岬周辺に分布するが範囲が小さく、量的な期待をするには限界があると思われるが、半地地区の簡易水道の水源や押川の生活用水はこれらの地域の水井戸が使用されている。

調査地域の地下水の湧出量は一般的に非常に少ないと推測されるが、その利用形態は、

- ① 平地あるいは山麓近くに掘さくした浅井戸形式のもので、地下水面が地表面よりも低く、ポンプ、ツルベなどによって利用するもの。
- ② 古期岩類などの不透水性基盤近くの礫層から湧出するもので地下水が下整合面等に沿って浸出しているものを利用しているもの。
- ③ 古期岩類地帯の崖錐に堆積した角礫層から湧出するもの、地下水面と地形面が交差している所、あるいは崖錐の下底近くに湧出しているものを利用しているもの。
- ④ 表流水の源となる谷部の最上流部に湧出する源流と呼ばれるもので、古期岩類などの不透水性基盤の上面から流出しているもの。

の4つの湧出タイプにまとめられる。

### 3-4 植物および動物相

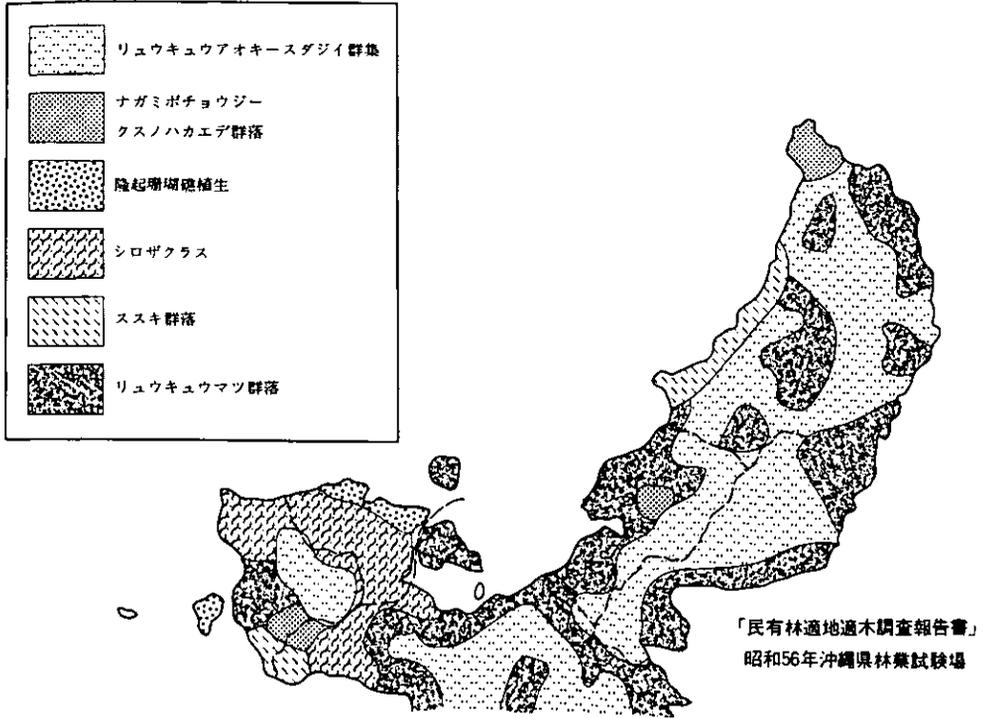
調査地域における植生を概観すると、照葉樹林、照葉二次林が広く分布し、一部リュウキュウマツ群落が見られる。リュウキュウマツ群落は主として国頭村域に多くみられる。

本島北部地域は沖縄県においても西表島と共に自然度の高い植生相をもっており、リュウキュウアオキースタジイ群落が見られ、その他与那川、辺野喜川流域周辺などにリュウキュウマツノボタン群落が見られ、ナガミボチョウジクスノハカエデ群落が塩屋湾の北岸、辺土岬一帯及びネクマチヂ岳一帯の山麓に主に分布している。

海岸域や沖積低地では、ほとんど耕作地植生となっており、そのほとんどが畑地雑草群落である。他にはチガヤススキ群落、水田雑草群落等があり、また集落の屋敷周辺には屋敷林としてフクギが多くみられ海岸線にはモクマオウの植栽が見られる。

本地域には多種多様な野生動物も棲息するが、なかでも“ノグチゲラ”や“ヤンバルクイナ”は本県の固有種として有名であり、各々国、県の天然記念物に指定されている。又貴重な植物群としては安波の“タナガールグミ”植物群落、与那覇岳天然保護区域、慶佐次川の“マングローブ”林等があり国の天然記念物に指定されている。その他、“ケナガネズミ”、“トゲネズミ”、“ジュゴン”、“アカヒゲ”、“リュウキュウヤマガメ”、“イイジマシクイ”、“カンムリウミスズメ”等が国、“フタオチウ”、“コノハチウ”、“テナガコガネムシ”が県の天然記念物に指定されている。

図3-4 現存の植生の構成概念



## 第 4 章 経 済 状 況

### 4-1 人 口

本地域の人口は、県人口が増加する中であって年々減少が続いている。昭和30年を100として昭和55年をみると昭和30年の56.6%と、約半分であり、本地域は沖縄本島の中でも特に過疎化の進んだ地域である。人口の推移を村別にみると図4-1にみるように国頭村は昭和50年を境として増加傾向に転じたが、大宜味村、東村は、依然として減少傾向にある。

また、人口構成から調査地域の人口をみると0～14歳の幼少人口の割合は沖縄県全体の29.4%に対して21.1%と低く、15才～64才の生産年齢人口は沖縄県全体の62.7%に対して62.2%とそれほどの

表4-1 人口の推移

	実 数					
	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年
国 頭 村	11,267	10,653	9,192	7,324	6,568	6,873
大 宜 味 村	7,648	6,497	5,552	4,535	4,178	3,626
東 村	3,285	3,165	2,721	2,425	2,300	2,067
合 計	22,200	20,315	17,465	14,284	13,046	12,566
沖 縄 県	801,065	883,122	934,176	945,111	1,042,572	1,106,559

	昭 和 30 年 を 100 と す る 指 数					
	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年
国 頭 村	100.0	96.4	81.6	65.0	58.3	61.0
大 宜 味 村	100.0	85.0	72.6	59.3	54.6	47.4
東 村	100.0	96.3	82.8	73.8	70.0	62.9
合 計	100.0	91.5	78.7	64.3	58.8	56.6
沖 縄 県	100.0	110.2	116.6	118.0	130.1	138.1

資料：国勢調査

差はないが、そのうち15才～44才の青年層を見ると沖縄県全体より低く、逆に45才～64才の年令層でかなり高くなっている。さらに65才以上の高年層は沖縄県全体の7.8%に対して16.7%と高く高齢化の進んだ地域であるといえる。

図4-1 村別の人口推移パターン

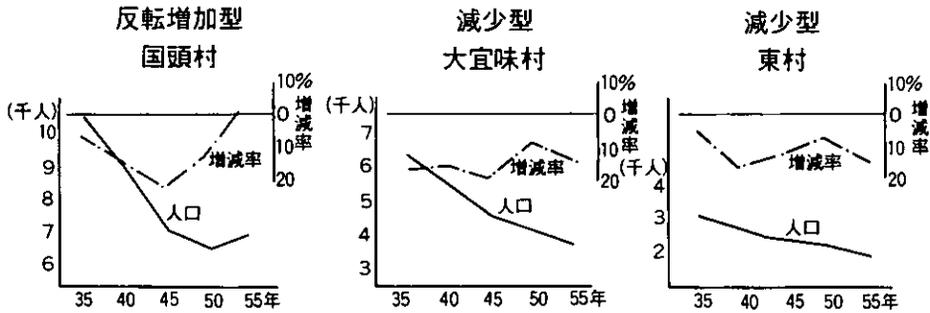


表4-2 年齢階層別人口

昭和55年

	総 数		0才～14才		15才～27才		30才～44才		45才～64才		65才以上	
	人 口	比年 %	人 口	比年 %	人 口	比年 %	人 口	比年 %	人 口	比年 %	人 口	比年 %
国頭村	6,873	100	1,458	21.2	1,575	22.9	1,077	15.7	1,774	25.8	989	14.4
大宜味村	3,626	100	629	17.3	795	21.9	394	10.9	973	26.8	835	20.4
東 村	2,067	100	562	27.2	435	21.0	297	14.4	499	24.1	275	13.3
計	12,566	100	2,649	21.1	2,805	22.3	1,768	14.1	3,246	25.8	2,099	16.7
沖縄県	1,106,559	100	325,393	29.4	274,865	24.8	224,467	20.3	194,842	17.6	85,819	7.8

## 4-2 産 業

### (1) 地域経済と産業構造

本地域の就業人口は、5,541人（昭和55年国調）で、産業別就業者の構成は、第1次産業35.5%、第2次産業31.7%、第3次産業32.8%で沖縄県全体の就業者構造が第1次産業12.6%、第2次産業21.5%、第3次産業65.9%と県全体では第1次、第2次産業の比率が低く第3次産業が非常に高いのに比べて、本地域は自然的、社会的、経済的条件を反映して他の地域とは構成比が大きく異なり、第1次、第2次産業の占める割合が高い。いわば第1次産業型の産業構造であるといえる。

就業者数の推移をみると昭和45年から昭和50年には減少するが、昭和55年に増加傾向を示している。産業別には第1次産業が55.0%（45年）から35.5%（55年）に低下し、第2次産業と第3次産業が19.3%、25.7%（45年）から31.7%、32.8%（55年）と比率が高くなっている。

(2) 農 業

農家数は1980年の農村業センサスによると1,679戸であるが、このうち専業農家は483戸(28.8%) 兼業農家が1,196戸(71.2%)となっており、専業農家の割合は県全体の22.5%より高くなっている。

また、3ha以上の経営耕地面積を持つ農家の占める割合は5.6%で県全体の3.6%に比べると高くなっている。農業の粗生産額(昭和57年「生産農業所得統計」)は、全体で約45億円であり、このうち農作物が28億円(63.5%)、畜産が16億円(35.6%)となっている。作物ではさとうきびが8.3億円(18.3%)次にパインアップルが7.3億円(16.1%)と中心をなしている。次に野菜2.2億円(4.8%)と続いている。

畜産は16.1億円で、そのうち豚が12.4億円(76.6%)でほとんどを占め、次に鶏1.9億円(12.0%)、肉用牛1.7億円(10.5%)とこれに続いている。

村別生産高を見ると国頭村かさとうきび、豚、肉用牛、パインアップル、大宜味村は豚、鶏、果実、東村が豚、パインアップルの順に高くなっている。

表4-3 専業・兼業別農家数(昭和55年)

(単位:戸,%)

市町村	総農家数	専業農家 男子生産年齢人口のいる世帯	兼業農家						構 成 比			
			計	第1種兼業農家 世帯主兼業	第2種兼業農家		専業農家	男子生産年齢人口のいる世帯	第1種兼業農家	第2種兼業農家		
					世帯主兼業	世帯主兼業						
国頭村	834	173	73	661	203	65	458	401	20.7	8.8	24.3	54.9
大宜味村	488	187	78	301	72	11	229	208	38.3	16.0	14.8	46.9
東村	357	123	77	234	113	25	121	106	34.5	21.6	31.6	33.9
計	1,679 (100.0)	483 (28.8)	228 (13.6)	1,196 (71.2)	388 (23.1)	101 (6.0)	808 (48.1)	715 (42.6)				
北部地域	10,461 (100.0)	2,854 (27.3)	1,416 (13.5)	7,607 (72.7)	2,698 (25.8)	518 (5.0)	4,909 (46.9)	3,912 (37.4)				
沖縄県	44,823 (100.0)	10,091 (22.5)	5,963 (13.3)	34,732 (77.5)	10,647 (23.8)	1,639 (3.7)	24,085 (53.7)	18,546 (41.4)				

注:男子生産年齢人口のいる世帯とは、専業農家のうち男子16~64歳の世帯員のいる世帯のこと。

資料:昭和55年「農業センサス」

表4-4 経営耕地面積規模別農家数 (昭和55年)

(単位: 戸, %)

市町村	総農家数	例外規定	0.5ha 未満	0.5~0.7	0.7~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0~2.5	2.5~3.0	3.0~5.0	5 ha 以上
国頭村	834	6	429	133	104	89	34	18	5	6	10
大宜味村	488	3	253	62	54	59	24	15	6	9	3
東村	357	6	68	26	31	48	45	35	33	55	10
計	1,679 (100.0)	15 (0.9)	750 (44.7)	221 (13.2)	189 (11.2)	196 (11.7)	10.3 (6.1)	68 (4.0)	44 (2.6)	70 (4.2)	23 (1.4)
北部地域	10,461 (100.0)	134 (1.3)	4,535 (43.4)	1,719 (16.4)	1,436 (13.7)	1,294 (12.4)	609 (5.8)	303 (2.9)	179 (1.7)	199 (1.9)	53 (0.5)
沖縄県	44,823 (100.0)	691 (1.5)	20,664 (46.1)	7,322 (16.3)	5,417 (12.1)	4,624 (10.3)	2,531 (5.6)	1,181 (2.6)	766 (1.7)	951 (2.1)	676 (1.5)

資料: 昭和55年「農業センサス」

表4-5 市町村別産業別就業者数の推移

(単位：人、%)

	昭和45年			昭和50年			昭和55年					
	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
国頭村	3,064	1,729(56.4)	455(14.8)	880(28.7)	2,528	901(35.6)	655(25.9)	972(38.4)	3,164	959(30.3)	1,114(35.2)	1,091(34.5)
大宜味村	1,790	914(51.1)	477(26.6)	399(22.3)	1,433	444(31.0)	495(34.5)	494(34.5)	1,426	484(33.9)	449(31.5)	493(34.6)
東村	1,006	578(57.5)	200(19.9)	228(22.7)	1,005	454(45.2)	302(30.0)	249(24.8)	951	522(54.9)	196(20.6)	233(24.5)
計	5,860	3,221(55.0)	1,132(19.3)	1,507(25.7)	4,966	1,799(36.2)	1,452(29.3)	1,715(34.5)	5,541	1,965(35.5)	1,759(31.7)	1,817(32.8)
合計	44,864	19,262(42.9)	8,112(18.1)	17,490(39.0)	48,173	12,595(26.1)	9,498(19.7)	26,080(54.1)	47,523	13,443(28.3)	10,491(22.1)	23,589(49.6)
沖縄県	357,440	78,873(21.5)	69,332(19.4)	211,235(59.1)	379,803	52,834(13.9)	78,983(20.8)	247,986(65.3)	428,729	53,931(12.6)	92,187(21.5)	282,611(65.9)

注)カッコ内は総数に対する割合である。

資料：国勢調査

表4-6 農業粗生産額及び生産農業所得

市町村	農業粗生産額													生産農業所得								
	小計	耕						畜				産										
		米	豆麦 雑穀 類	いも 類	野菜	果実 パイナップル	工芸 農産物	さとう きび	とうもろ こし	葉たばこ	その他	養蚕	小計		牛	豚	鶏	鶏卵	畜 産物 その他	加工 農産物		
																					肉用牛	鶏
国頭村	1,653	1,147	10	17	124	198	122	618	560	—	180	—	489	149	149	333	3	4	17	976		
大宜味村	1,177	623	—	13	52	231	101	177	119	—	150	—	531	4	4	348	172	76	7	23	514	
東村	1,699	1,105	—	30	43	521	507	153	150	—	358	—	594	16	16	556	19	19	3	—	757	
計	4,529	2,875	10	60	219	950	730	948	829	—	688	—	1,614	169	169	1,237	194	98	14	40	7,247	
	(100.0)	(63.5)	(0.2)	(1.3)	(4.8)	(21.0)	(16.1)	(20.9)	(18.3)	(—)	(15.2)	(—)	(35.6)	(3.7)	(3.7)	(27.3)	(4.3)	(2.2)	(0.3)	(0.9)		
北部	26,774	16,293	242	7	280	3,159	2,211	1,495	7,269	6,285	775	3,125	3	10,424	1,275	846	5,833	3,160	1,641	156	54	13,746
	(100.0)	(60.9)	(0.9)	(0.0)	(1.0)	(11.8)	(8.3)	(5.6)	(27.1)	(23.5)	(2.9)	(11.7)	(0.0)	(38.9)	(4.8)	(3.2)	(21.8)	(11.8)	(6.1)	(0.6)	(0.2)	
沖縄県	105,438	72,557	635	49	1,582	23,400	3,442	2,371	35,779	32,306	3,101	7,670	283	32,520	8,184	4,661	17,823	5,958	4,295	555	78	60,056
	(100.0)	(68.8)	(0.6)	(0.0)	(1.5)	(22.2)	(3.3)	(2.2)	(33.9)	(30.6)	(2.9)	(7.3)	(0.3)	(30.8)	(7.8)	(4.4)	(16.9)	(5.7)	(4.1)	(0.5)	(0.1)	

資料：昭和57年「生産農業所得統計」

(3) 水産物

本地域の漁業経営体数は129(昭和55年)、漁業従事者が156人(昭和55年)となっている。

また、漁獲量290tで生産額は2.4億円にすぎず、漁業経営体数及び漁業従事者も少なく、漁業の零細的なことを示している。

また、養殖漁業は大宜味村で盛んで、特にうなぎの養殖が盛んである。

表4-7 水産業の現況

昭和55年

	経営体数	漁船数(隻)		1隻当り t数	漁業従事者 (人)	漁獲量 (t)	生産額 (千円)
			合計t数				
国頭村	78	85	79	0.9	85	235	168,520
大宜味村	27	29	17	0.6	31	31	22,788
東村	24	30	15	0.5	40	74	53,211
計	129	144	111	0.8	156	290	244,519
北部地域	828	829	1,472	1.8	1,452	2,800	1,958,917
沖縄県	4,481	4,362	13,627	5.9	7,645	58,967	21,314,673

沖縄県農林水産統計資料

(4) 工業

本地域の事業所数は29事務所(昭和55年)であり、その半分の18事業所が国頭村に集中し、大宜味村が9事業所、東村は2事業所のみである。一方従業者数は392名で出荷額は3,695百万円となっている。また従業者数が20人を超える事務所は、国頭村3、大宜味村2、東村2の合計7事業所を数えるのみであり、零細で極めて弱い基盤であることがうかがえる。

表4-8 村別工業の変化

(単位:箇所,人,百万円)

	昭和50年			昭和55年			昭和55年/昭和50年		
	事業所	従業者	出荷額	事業所	従業者	出荷額	事業所	従業者	出荷額
国頭村	17	258	819	18	174	2,231	1.06	0.67	2.72
大宜味村	10	179	554	9	67	623	1.11	0.37	1.12
東村	3	15	42	2	151	841	0.67	10.01	20.02
計	30	452	1,415	29	392	3,695	0.97	0.87	2.61
北部圏	207	2,551	32,952	204	2,753	49,541	0.99	1.08	1.50
沖縄県	2,630	25,270	359,853	2,546	24,493	589,812	0.97	0.97	1.64

資料:沖縄県統計年鑑工業統計調査

## (5) 商 業

本地域の昭和55年の商店数は278店で、人口1,000人当りの商店数は22.1店であり、人口に対する商店数は他の地域に比べて少ない。本調査地域では各集落に共同売店を持っており、この売店が日常生活用品の供給の場であるという構造をもっており、村民の購入先が限定されているなど、一般の商店が発達しにくかった背景をもっていると考えられる。

表4-9 人口1,000人あたりの商店数

市 町 村	商 店 数	人 口(S55)	人口1,000人当り 商 店 数
国 頭 村	166	6,873	24.2
大 宜 味 村	72	3,626	19.9
東 村	40	2,067	19.4
計	278	12,566	22.1
北 部 地 域	3,346	105,237	31.8
中 南 部 地 域	30,183	872,089	34.6
離 島 市 町 村	4,258	129,233	24.3
沖 縄 県	37,787	1,106,559	34.1

## 4-3 土 地 利 用

本調査地域の面積は33,703haであり、県土全体の約15%を占める。土地利用の現況は森林が最も多く森林面積が27,063haで、地域の約8割を占める。森林の構成は国有林7,780ha(28.7%)、民有林のうち、県有3,364ha(12.4%)、市町村有9,754ha(36.1%)、私有林6,167ha(22.8%)となっている。森林の占める割合は沖縄県で49%、北部地域で65%となっており、他の地域に比べて森林の占める割合が高くなっている。

それに対し、農用地は表-4-11に示すように沖縄県が26.1%(58,791ha)で、最も農用地率の高い南部地域では38.2%(13,187ha)、また、農地率の低い北部地域で17.1%(14,078ha)であるのに比べて、本調査地域は8.9%(3,003ha)にしかすぎず、極めて平地が少ないことを示している。

本地域は広大な森林を背景に、海岸、河口及び狭い谷底地に集落や農耕地が分布するとともに、台地上の緩斜面にも農耕地が展開していることから、土地利用の面からこれら森林の機能と調和した開発が必要な地域である。

表4-10 森林面積

昭和59年 (単位: ha, %)

	市町村面積	森林面積						森林率
		総数	林野庁所管 国有林	民有林				
				総数				
				総数	県有	市町村有	私有	
国頭村	19,450	16,496	4,146	12,350	3,235	5,753	3,363	85
大宜味村	6,415	4,881	—	4,881	2	2,943	1,937	76
東村	7,838	5,686	3,634	2,052	127	1,058	867	73
計	33,703	27,063	7,780	19,283	3,364	9,754	6,167	80
北部	82,223	53,534	8,003	45,531	4,288	24,943	16,300	65
中部	27,119	4,618	13	4,605	48	1,160	3,398	17
南部	34,568	9,298	99	9,199	39	5,863	3,296	27
沖縄県	225,087	110,099	34,233	75,863	4,541	43,190	28,135	49

昭和60年「県土利用のすがた」  
沖縄県企画開発部土地利用対策課

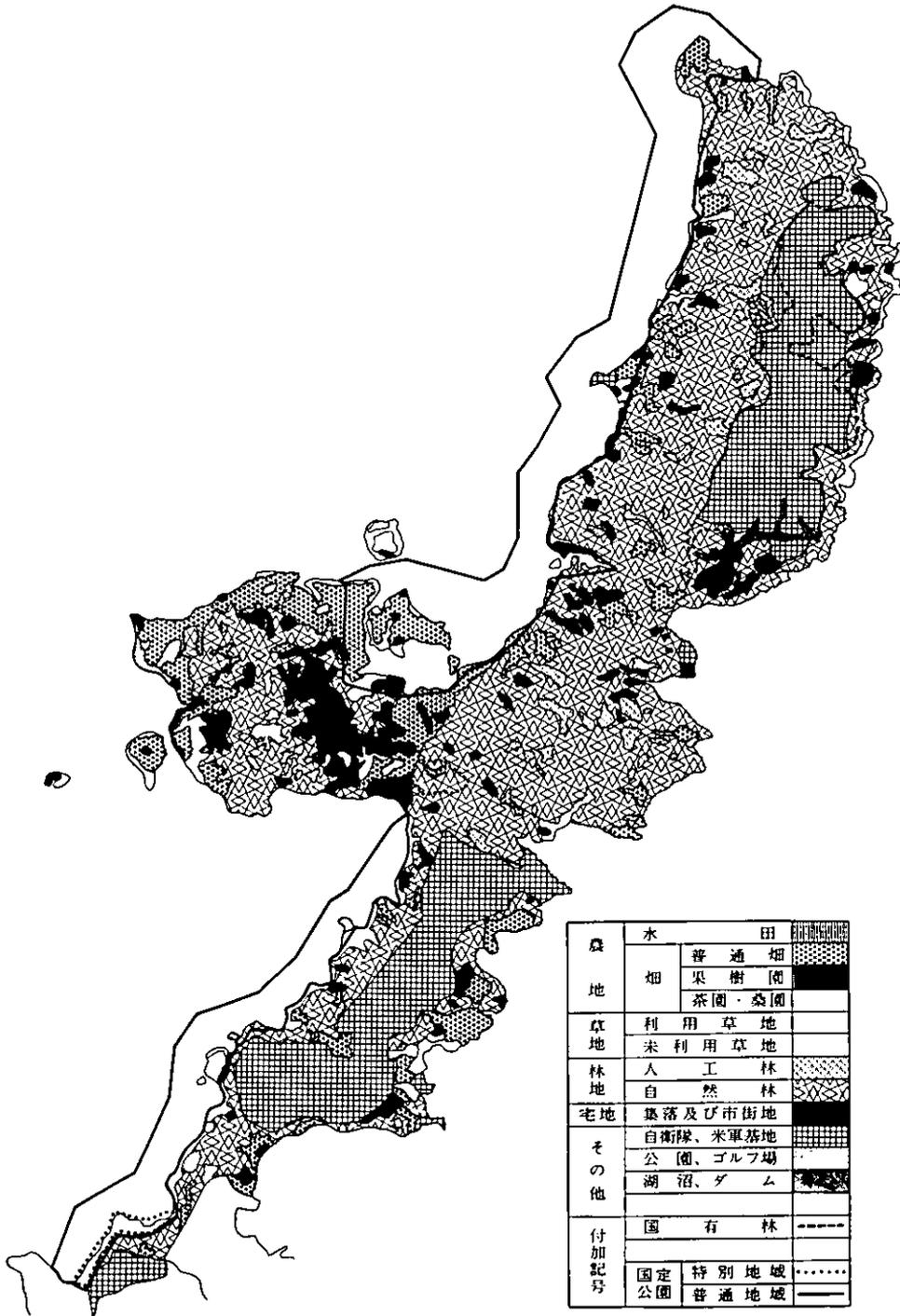
表4-11 現況農用地等面積

昭和59年 (単位: ha, %)

	市町村面積	農地						計	混 牧 林 地	農 業 用 施 設 地	遊 体 農 用 地	合 計	農 用 地 率
		農地				放 採 牧 地							
		田	畑	樹園地	計								
国頭村	19,450	18	730	266	1,014	264	1,278	—	16	137	1,431	7.4	
大宜味村	6,415	12	131	369	512	10	522	—	6	20	548	8.5	
東村	7,838	—	891	15	906	6	912	—	10	102	1,024	13.1	
計	33,703	30	1,752	650	2,432	280	2,712	—	32	259	3,003	8.9	
北部	82,223	472	9,357	1,998	11,827	388	12,215	—	259	1,604	14,078	17.1	
中部	27,119	77	5,517	116	5,710	29	5,739	—	103	5,842	6,477	23.9	
南部	34,568	28	11,929	111	12,068	18	12,086	—	121	12,207	13,187	38.2	
沖縄	225,087	1,242	43,830	3,615	48,687	5,664	54,351	184	540	55,075	58,791	26.1	

昭和60年「県土利用のすがた」  
沖縄県企画開発部土地利用対策課

図4-2 土地利用現況図



「土地分類図」国土庁

## 第5章 水文及び水質の概要

### 5-1 水 文

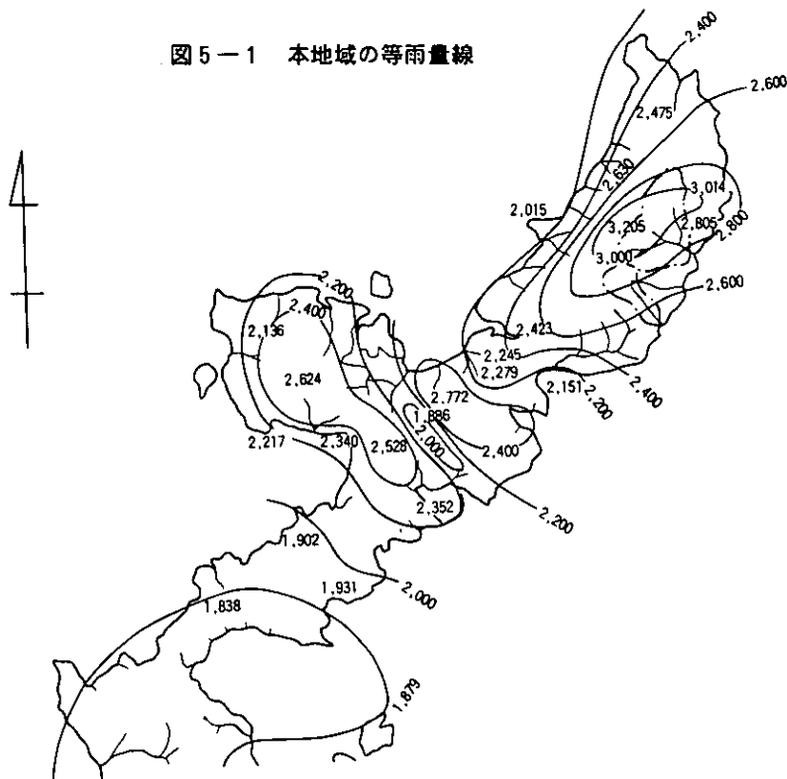
#### (1) 気象特性

沖縄本島は、温暖な亜熱帯海洋性気候帯に属し、冬期が温暖で年較差が小さく、四季が本土に比べて不明瞭である。東アジア季節風帯に属し、冬期には北東～北西の風が、夏季には南方向からの風が卓越する。年平均気温は約 $21.4^{\circ}\text{C}$ であり、最寒月は1月、最暖月は7月で気温の年較差は $11^{\circ}\text{C}\sim 13^{\circ}\text{C}$ であり、本土に比べて較差が小さい。

降水量は、図5-1に示すように山地地形の多い北部地域では年 $2,000\text{mm}$ を越える地域が殆んどであり、本調査地域は $2,200\sim 3,200\text{mm}$ の年平均降水量となっている。

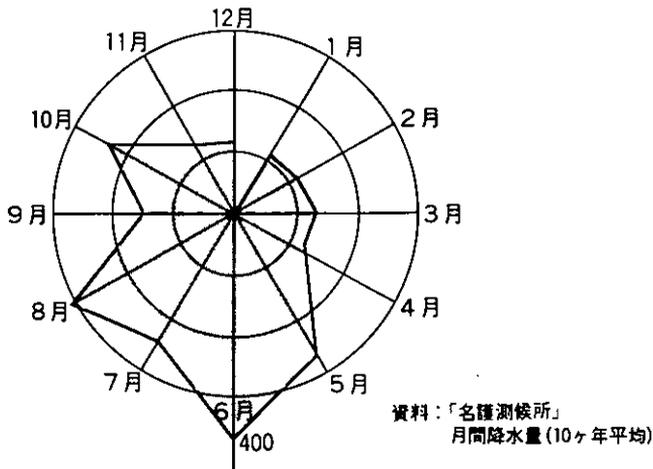
降雨パターンは5月の梅雨期、8,9月の台風シーズンに多く、冬期の12～3月に少なくなるのが特徴である。そのため梅雨期、台風期の降水量がこの地域のみならず、島全体の水収を支配する最も大きい要因となっている。

図5-1 本地域の等雨量線



昭和45年～55年の10ヶ年平均  
沖縄気象台

図5-2 月間降雨量



(2) 河川の流況特性

沖縄本島は、南北に120 km、東西に8 kmの細長い島であり主要河川の大部分が北部に集中している。これらの河川延長は平均7.5 kmである。したがって降雨時には急激に増水し、一挙に流出する傾向が強く、濁水量と豊水量の水位差が大きく、河川の利用に際しては、年間を通して安定的な水量を確保することが課題となっている。

また、地形的条件から流域面積が小さく、かつ急勾配の河川であるため降雨時には増水し、川沿いの低地に洪水による被害をもたらすこともしばしばであり、本土の河川に比べて治水上、利水上問題の多い河川が多い。

イ、流域特性

水位計が設置してある33水系の流域特性の平均値は表5-1に示すとおりである。

表5-1 流域特性 (33水系平均値)

流域面積 (km <sup>2</sup> )	本流長 (km)	平均幅 (km)	形状係数	密集度	河川勾配	周囲長 (km)
16.07	7.51	2.03	0.31	0.68	0.015	19.74

(注) 平均幅：流域面積÷本流長  
 形状係数：平均幅÷本流長  
 密集度： $2\sqrt{\pi} \times$ 流域面積÷周囲長

昭和55年度 沖縄県水文特性調査報告書  
 沖縄総合事務局開発建設部河川課

ロ、主要河川の流況

北部主要河川の昭和38年～57年の最大水量、豊水量、平水量、低水量、濁水量、最小水量の平均値は表5-2の示すとおり、河況係数は極めて大きい。

表5-2 流況表

(単位: m/s)

河川名	最大	豊水	平水	低水	渇水	最少	備考
福地川	103.86	1.267	0.729	0.477	0.254	0.01	ダム地点 38年~57年平均
新川川	36.62	0.365	0.183	0.114	0.060	0.00	"
安波川	83.53	1.393	0.845	0.595	0.401	0.00	"
普久川	31.99	0.519	0.214	0.142	0.093	0.03	"
辺野喜川	30.39	0.701	0.400	0.268	0.161	0.00	"
漢那福地川	5.41	0.080	0.051	0.038	0.024	0.01	"

沖縄県企画開発部開発室「沖縄のダム事業概要」

## 5-2 水質

## (1) 調査地域の環境基準の水域

本調査地域で県内公共用水域が該当する水質汚濁にかかわる環境基準の水域類型の指定を受けている河川は福地川（河口から福地ダム及び福地川上流）、新川川（河口から新川ダム、新川ダムから上流）、安波川（河口から安波小中学校後方堰堤およびその上流）、普久川（安波川合流点から御拝橋上流400mの沢までと、御拝橋から上流400mの沢から上流）および辺野喜川（辺野喜橋から上流）の5河川である。

これらの河川の環境基準の類型指定は、表5-3に示すとおりで該当類型はAないしBで、達成期間はIで「直ちに達成」することとされており、上乘せ排水基準はない。

利用目的の適応性	基準値				
	水素イオン濃度 (PH)	生物化学的 要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)	天腸菌群数
A 水道4級・水産1級 水浴及びB以下の欄 に掲げるもの	6.5以上	2mg/l以下	25mg/l以下	75mg/l以上	1,000MPN
	8.5以上				100ml以下
B	6.5以上	3mg/l以下	25mg/l以下	5mg/l以上	5,000MPN
	8.5以下				100ml以下

※(注) 「I」は直ちに達成  
「ロ」は5年以内で可及的すみやかに達成  
「ハ」は5年を超える期間で可及的すみやかに達成

表 5-3 県内公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域の指定状況

名称	水域	該当 類型	達成 期間	暫定目標	指定機関 指定年月日
福地川	福地ダム及び福地川上流	A	イ		
北部東海岸流入河川	新川川	河口から新川ダム	A	イ	沖縄県告示 昭和52. 4. 25
		新川ダムから上流	A	イ	
	安波川	河口から安波小中学校後方堰堤まで	B	イ	“ “
		安波小中学校後方堰堤から上流まで	A	イ	“ “
普久川	安波川合流点から御拝橋上流 400 m の沢まで	B	イ	“ “	
	御拝橋上流 400 m の沢から上流	A	イ	“ “	
辺野喜川	辺野喜橋から上流	A	イ		沖縄県告示 昭和57. 7. 12

図 5-3 環境水質監視調査水域測定地点図

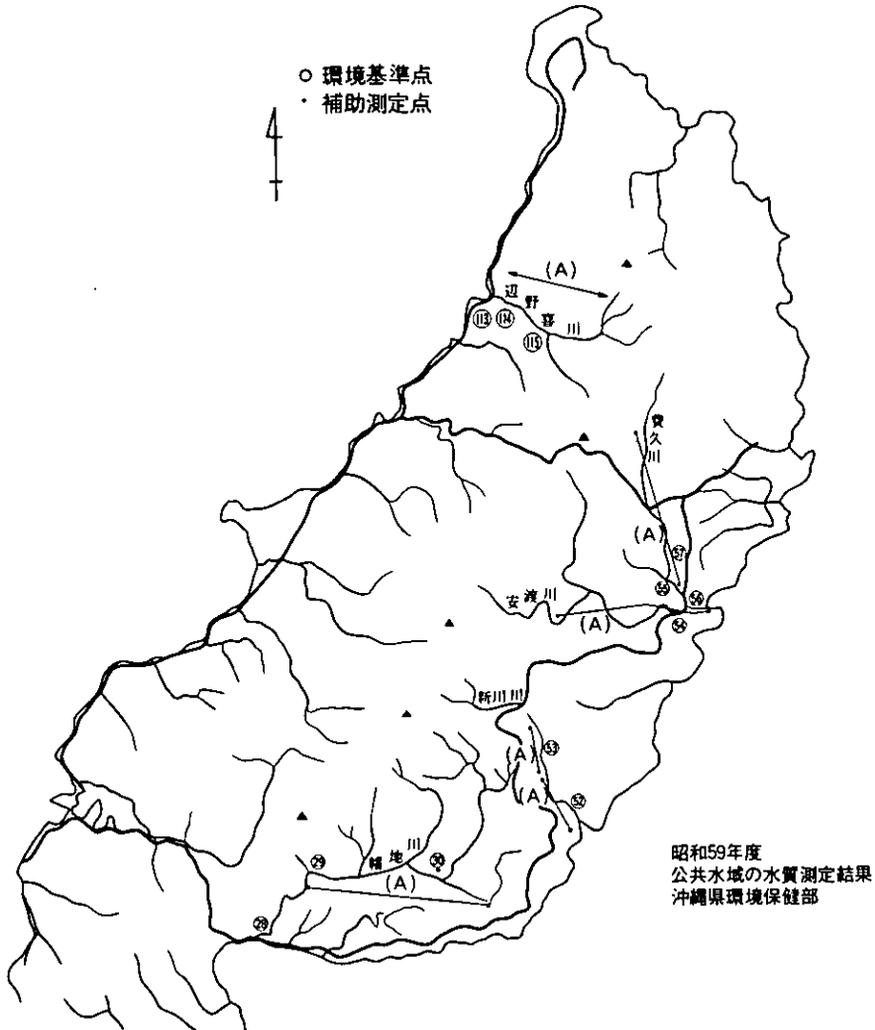


表 5-4 福地ダム (年平均値)

項 目	55	56	57	58	59
PH	7.5~7.7	7.0~8.1	6.7~8.4	6.9~7.8	7.1~7.6
BOD	0.6	0.8	1.2	0.9	8.0
COD					
SS	9	2	2	1	11
DO	8.5	8.0	7.8	7.9	8.0
大腸菌群数	$34 \times 10^2$	$4.2 \times 10$	$1.8 \times 10^2$	$2.6 \times 10$	$3.1 \times 10^2$

表 5-5 新川川下流の高江橋 (年平均値)

項 目	55	56	57	58	59
PH	7.8~8.4	8.0~8.6	7.5~8.4	7.5~8.2	7.7~8.3
BOD	1.2	0.8	0.8	0.6	3.8
COD					
SS	6	1	4	1	13
DO	10	9.6	9.2	9.0	8.9
大腸菌群数	$10 \times 10^3$	$1.1 \times 10^3$	$1.9 \times 10^3$	$0.3 \times 10^2$	$1.5 \times 10^3$

表 5-6 安波川 安波大橋 (年平均値)

項 目	55	56	57	58	59
PH	7.5~8.3	7.3~7.8	7.5~8.1	7.5~8.2	7.7~7.9
BOD	1.8	0.8	2.6	0.8	1.3
COD					
SS	27	17	48	9	4
DO	9.0	7.6	7.8	7.9	8.3
大腸菌群数	$2.3 \times 10^3$	$6.8 \times 10^3$	$9.9 \times 10^2$	$1.2 \times 10^5$	$2.9 \times 10^3$

表 5-7 普久川 御拝橋 (年平均値)

項 目	55	56	57	58	59
PH	7.6~8.3	7.7~8.2	7.6~7.9	7.4~7.9	7.7~7.9
BOD	0.8	0.8	1.3	0.7	1.3
COD					
SS	3	6	5	2	4
DO	9.4	8.9	8.2	8.8	8.3
大腸菌群数	$3.9 \times 10^2$	$1.9 \times 10^3$	$1.6 \times 10^2$	$10 \times 10^3$	$2.9 \times 10^3$

表 5-8 辺野喜川 辺野喜橋 (年平均値)

項 目	55	56	57	58	59
PH	7.1~7.9	7.2~8.0	7.5~8.0	7.1~8.1	7.6~8.1
BOD	0.5	1.2	2.1	0.8	0.9
COD					
SS	1	36	61	13	9
DO	9.1	8.4	7.7	8.5	7.9
大腸菌群数	$2.3 \times 10^3$	$9.4 \times 10^3$	$9.7 \times 10^2$	$1.3 \times 10^4$	$3.4 \times 10^3$

主要地点の水質の経年変化は表5-4~表5-8に示すとおりであるが、福地ダムは流域が森林地で汚濁の要因が少なく環境基準を上廻っている。新川川の下流においても、流域の大部分が森林で河道に沿ってわずかに畑が分布することもあり、汚濁の要因が少なく環境基準を上廻っている。安波下流の安波大橋ではB類型に指定されているが、水質は57年のSS(48mg/ℓ)と58年の大腸菌( $1.2 \times 10^5$ )が基準より高い値を示している。

これは、安波川下流域に、農地と集落が河川沿いに立地していることもあり、生活排水等の影響が顕れたものと考えられる。また、辺野喜川についても56年度及び57年度はSSと大腸菌が基準を上まわっており、やはり河川沿いに立地する集落と農地からの生活排水による影響が顕れたものと考えられる。

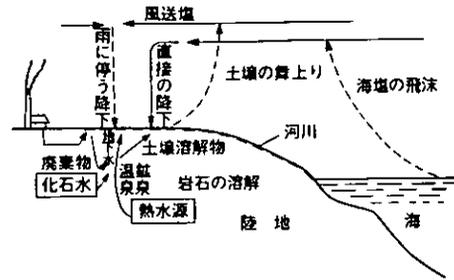
## (2) 沖縄本島北部地区の表流水の一般的水質

沖縄本島北部地区の表流水は、その流域が粘板岩や千枚岩を主とした古生層地域を流れるものが多い。

沖縄本島北部地区の表流水は、本土の河川表流水よりも塩素イオン( $\text{Cl}^-$ )、ナトリウムイオン( $\text{Na}^+$ )、マグネシウムイオン( $\text{Mg}^{2+}$ )が多く含まれるが他方硝酸イオン( $\text{NO}_3^-$ )、硫酸イオン( $\text{SO}_4^{2-}$ )、カリウムイオン( $\text{K}^+$ )、カルシウムイオン( $\text{Ca}^{2+}$ )およびシリカ( $\text{SiO}_2$ )が少ないと

いう特徴をもっている。Cl<sup>-</sup>、Na<sup>+</sup>、Mg<sup>2+</sup>など海塩の主成分であるイオンが多いのは、直接または間接的に海の影響を受けているからと考えられる。これは、沖縄本島が周囲を海に囲まれた細長い島であるという自然的条件や自然環境の影響を受けているものと考えられる。一般に河川の溶存成分の起源については、河川水の成分の循環を模式的に示した図5-4によって考えることができる。

図5-4



沖縄本島では、サンゴ礁の発達により海から舞い上がった海塩の飛沫や、海からの

距離や季節風により大気中の風送塩の濃度が濃く、降雨に溶けて地表に降下するなどによって河川水に加えられる塩分の影響が比較的大きいことが想定される。つまり本土の河川は、流域が比較的大きく、海からの距離など海の影響を受けにくく、河川流域の岩石、土壌、温泉、火山などの地質的因子が河川水の成分に影響を与えているのに対し、沖縄本島では、河川の流程が短かく、短時間で流れてしまうために、石灰岩地帯を流れてくる河川を除いては、地質的因子よりも、海から運ばれた海塩の影響を、より大きく受けていると判断される。SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>、および SiO<sub>2</sub> が少ないことも同じ理由によるものであると考えられる。

水に溶けている化学成分の量は、本土の河川水の平均値よりも、本島北部地区の表流水の方が40%~50%多くなっている。本島北部の表流水のK/Naの重量比は、0.048で海水の0.0380値に比較的近似しているのが特徴である。本土の河川水の平均では、0.178で、流域の岩石の溶解流出による影響が表われているのに対し、本島の河川水は流程も短かく、そのため岩石の溶出の影響よりも海塩の影響をより大きく受けていることが理解される。

本土の河川水の平均値よりも少ないSO<sub>4</sub><sup>2-</sup>については、火山の影響がないことなどが考えられ、本島北部の表流水のSO<sub>4</sub><sup>2-</sup>の大部分は海塩起源であると思われる。また、SiO<sub>2</sub>の少ないのも流路の短いことに原因し、岩石からの溶出が少ないことによるものと思われる。

表5-9 沖縄本島北部地区（本部半島を除く）河川表流水の水質

	PH	RpH	Nアルカリ度 CaCO <sub>2</sub> (ppm)	Cl (ppm)	NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> (ppm)	SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> (ppm)	Na <sup>+</sup> (ppm)	K <sup>+</sup> (ppm)	全鉄 (ppm)	Ca <sup>2+</sup> (ppm)	Mg <sup>2+</sup> (ppm)	全硬度 CaCO <sub>3</sub> (ppm)	SiO <sub>2</sub> (ppm)	COD (ppm)
沖縄北部地区表流水の水質範囲	7.1 ~ 7.2	7.5 ~ 6.4	13.7 ~ 60.9	19.4 ~ 33.7	0.00 ~ 0.34	3.7 ~ 10.7	13.5 ~ 25.0	0.4 ~ 1.3	0.02 ~ 1.00	3.4 ~ 19.5	0.9 ~ 5.1	16.2 ~ 63.0	13.0 ~ 23.4	0.14 ~ 2.04
沖縄北部地区表流水の平均水質 (11河川水)	7.21	7.62	27.5	25.4	0.12	7.7	1.78	0.85	0.180	7.17	3.13	30.8	16.0	0.67
本土河川の平均水質 (小林純)			25.5	5.8	1.15	10.6	6.7	1.19	0.24	8.8	1.9	29.8	19.0	

「沖縄水資源開発調査報告」1972

## 第6章 主要河川の利用状況（利水）

調査地域の主要2級12河川の利水状況は表6-1のとおりである。（但し、ダム関係の利水は含まれていない。第7章で説明）。

主要12河川の利水状況は、農業用水 12,290 ㎥/日、鉱工業用水 360 ㎥/日、生活用水は簡易水道 1,370 ㎥/日、上水道 12,800 ㎥/日、生活雑用水 700 ㎥/日となっており、また農業用水についてはかんがい用水 11,140 ㎥/日、養鰻用水 1,150 ㎥/日となっている。

わが県においては、日本復帰後、西系列の河川開発事業等の整備に伴って、水利権が整理されてきたが慣行水利権については、ほとんど設定されていないのが現状である。これについては様々な要因が考えられるが、古来、主要な集落が湧水や井戸を中心に発達し、その湧水や井戸が信仰の対象であったこと、農業が畑作を中心に行われてきたことや共同作業を中心とする共同意識の強い社会であったことなど、特有の文化・社会構造を持っていたことが反映されているものと思われる。

しかも、過去においては雑穀、イモ類、又最近では県の基幹作物であるさとうきび、パイナップル等比較的乾燥に強い作物が畑作の中心であったことや、比較的水に恵まれた地域における稲作も天水を利用する天水田であったことなど、水の状況に応じてかん水を行う受動的な栽培方法が一般的であったことにも起因していると考えられる。

### 6-1 農業用水

#### (1) 農業用水

農業用水が利用されている河川は与那川 90 ㎥/日、辺野喜川 450 ㎥/日、比地川 900 ㎥/日、奥間川 5,600 ㎥/日、田嘉里川 450 ㎥/日、新川川 2,300 ㎥/日、大保川 40 ㎥/日、奥川 4,400 ㎥/日で、これらの河川のうち、水田に利水しているのが比地川と奥間川で 6,500 ㎥/日となっており下流域の水田および畑地に用水されている。これらの水田は調査地域で最も発達しているところである。その他の河川は畑地のかんがい用水となっている。

調査地域の台地状の屋根には広く畑地が分布しているが、これらの畑地へのかんがいは、必要に応じ河川から小型のタンク車に取水し、畑地に運んで放水するというかん水方法がとられていることが多い。これらによる水利用量等の実態は不明である。

#### (2) 養鰻業用水

北部地域の中でも田嘉里川流域ではうなぎ養殖が行われており、600 ㎥/日が、養殖用水源として利水されている。

## 6-2 生活用水

### (1) 上水道

調査地域の2級河川から上水道水源として利水しているのは大保川だけであり、沖縄県企業局が、大保ポンプ場から1日平均12,800 m<sup>3</sup>/日(昭和59年)の取水を行っており、中南部の都市域に送水されている。

### (2) 簡易水道

調査地域は上水道施設が整備されておらず、3村ともに簡易水道を生活用水として利用している。これらの水源は各集落周辺の中小河川の表流水であるが、このうち2級河川は、与那川(40 m<sup>3</sup>/日)、辺野喜川(60 m<sup>3</sup>/日)、安波川(80 m<sup>3</sup>/日)、奥間川(450 m<sup>3</sup>/日)、田嘉里川(530 m<sup>3</sup>/日)、福地川(支流50 m<sup>3</sup>/日)の6河川(合計1,370 m<sup>3</sup>/日)である。

### (3) 生活用雑用水

生活用雑用水として取水が行われているのは比地川と奥間川で、それぞれ180 m<sup>3</sup>/日、520 m<sup>3</sup>/日の利水が行われている。

### 6-3 鉱工業用水

鉱工業用水として取水されているのは、与那川（150 ㎥/日）、比地川（10 ㎥/日）、有銘川（200 ㎥/日）の3水系の3事業所のみである。そのうち与那川、有銘川が生コンの洗浄用水、比地川が砕石場の洗浄および雑用水として使用している。

表6-1 主要2級河川水利状況

番 号	河川名	所在市 町村名	河口に近 の集落名	流域面積 (本流のみ) km <sup>2</sup>	河川延長 (本流のみ) km	平均観 測配	水利現況内訳						合計	
							生活用水(平均)		工業用水(平均)		農業用水(常時)		㎥/sec	㎥/日
							㎥/sec	㎥/日	㎥/sec	㎥/日	㎥/sec	㎥/日		
1	与那川	国頭村	与那	11.99	4.4	1/90	簡 0.0004	簡 40	0.0017	150	農 0.0010	農 90	0.0032	280
2	辺野喜川	〃	辺野喜	13.18	8.0	1/140	〃 0.0007	〃 60			農 0.0050	農 450	0.0059	510
3	安波川	〃	安波	42.09	8.5		〃 0.0009	〃 80					0.0009	80
4	昔久川	〃	安波	17.00	7.0		〃 0.0009	〃 80					0.0009	80
5	比地川	〃	比地、奥間 平地、雑地	18.81	6.45		雑 0.0021	雑 180	0.0001	10	農 0.010 農 0.008	農 900 農 690	0.0202	1,780
6	奥間川	〃	比地 奥間	6.75	4.7	1/80	簡 0.0052 雑 0.0060 計 0.0112	簡 450 雑 520 計 970			農 0.0650	農 5,600	0.0762	6,570
7	奥川	〃	奥	10.88	3.0	1/280	簡 0.0009	簡 80			農 0.0510	農 4,400	0.0519	4,480
8	大保川	大宜味	大保	23.64	9.6	1/220	上 0.1481	簡 12,800			農 0.0005 農 0.0060 計 0.0065	農 40 農 500 計 540	0.1546	13,340
9	田喜里川	〃	田喜里	8.91	4.0	1/320	簡 0.0061	〃 530			農 0.0070 農 0.0051 計 0.0121	農 450 農 600 計 1,050	0.0182	1,580
10	福地川	東村	川平 出良	36.00	12.1		簡 0.0005	〃 50					0.0005	50
11	新川川	〃	高江	11.31	6.2						農 0.0274	農 2,300	0.0274	2,300
12	有銘川	〃	有銘	3.33	1.8				0.0023	200			0.0023	200
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
							上 0.1481 簡 0.0156 雑 0.0081 計 0.1718	上 12,800 簡 1,370 雑 700 計 14,870			農 0.1669 農 0.0191	農 13,580 農 1,790	0.3622	31,250

(注) 生活用水 上：上水道 簡：簡易水道 雑：生活用雑用水  
農業用水 農：農業用かんがい用水 農：養蠶業用水

# 第7章 沖縄北部河川総合開発計画

## 7-1 長期水需計画

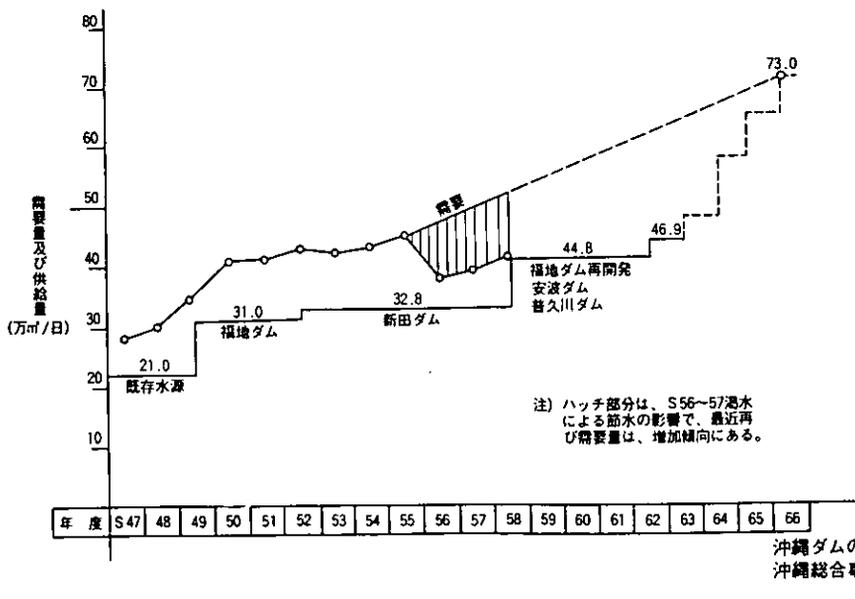
近年の人口の都市への集中や水洗トイレの普及などによって都市生活の高度化や生活様式の向上が進み、それに対応して年々水の需要量が増える状況にある。「沖縄県長期水需給計画調査報告書」(昭和55年度)によると、第二次沖縄振興開発計画の目標年次である昭和66年の都市用水の需要量は、1日当たり約73万 $\text{m}^3$ に増大するものと予測している。

表7-1に示すように、現在の都市用水の安定供給量は、河川取水を今後10ヶ年間に安定的に最小限取水できる量と評価した場合に約45万 $\text{m}^3$ となっている。従って昭和66年度に水需要と供給のバランスをはかるためには、さらに約28万 $\text{m}^3$ の水供給施設が必要とされる。このため多目的ダムの建設を中心とした新規の水資源開発を行い水需給バランスをはかるよう計画されている。

表7-1 昭和66年度水供給計画 (沖縄本島)

供給量									合計	需要量
現況					計画					
企業局	市町村自己水源	工場自己水源	国ダム	計	建設中のダム等	予備調査中のダム等	計	万 $\text{m}^3$ /日	万 $\text{m}^3$ /日	
万 $\text{m}^3$ /日 15	万 $\text{m}^3$ /日 4	万 $\text{m}^3$ /日 2	万 $\text{m}^3$ /日 24	万 $\text{m}^3$ /日 45	万 $\text{m}^3$ /日 7	万 $\text{m}^3$ /日 21	万 $\text{m}^3$ /日 28	73	73	

図7-1 水需給計画 (沖縄本島)



## 7-2 沖縄北部河川総合開発計画の内容

国及び県では、これまで洪水調整と水資源開発を兼ね備えた多目的ダムの建設を進めており、福地ダム、新川ダム、安波ダム、普久川ダム、辺野喜ダムの5ダムが完成している。

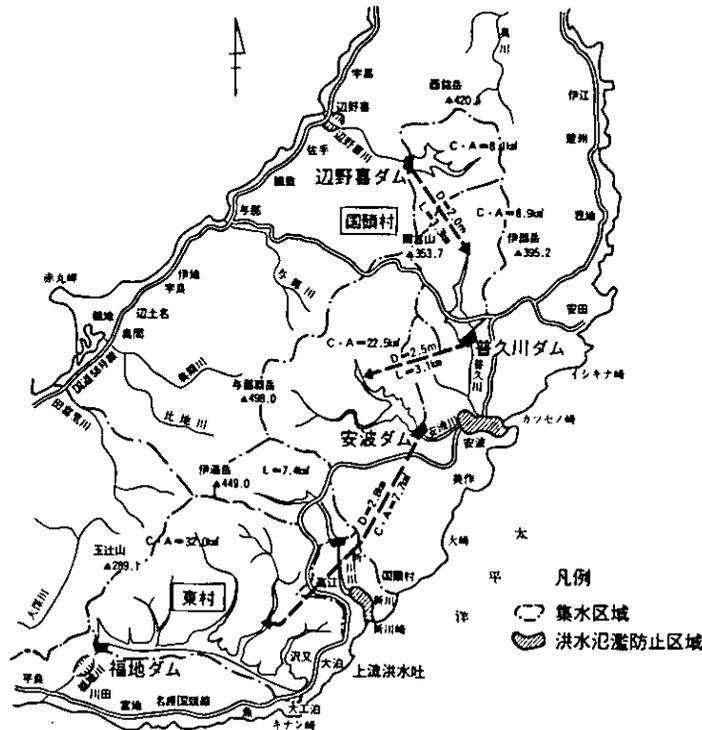
特に水の安定供給に大きく寄与する水質源開発は、水が豊で、しかもダム建設に適した地形が確保できる北部山地地域にその水源を頼らざるを得ない状況にある。

しかし、ダム建設の可能な場所は限られており、それぞれの建設地点で最大の効力が発揮できるように計画されなければならない。例えば小規模河川で大規模ダムの建設が望めない場合には複数ダムを建設し、それぞれ水路で連結し、単独ダムの場合に生じる無効放流をより大きなダムに導水し貯留するなどダム群としての統合管理により開発水量の増大を図ったり、複数の河川に取水ポンプを設置し豊水時の余剰水をダムに導水し貯留するなど、ダムで水供給の安定化を図るため、極限的な開発計画に基づいてダム建設が進められている。

図7-2に示すように、辺野喜ダムと普久川ダムは安波ダムの、また新川ダムは福地ダムの「取水ダム」として計画されており、安波ダム及び福地ダムの両ダムは取水ダムからの導水を貯留し水の安定供給をはかるための「貯留ダム」として位置づけられている。

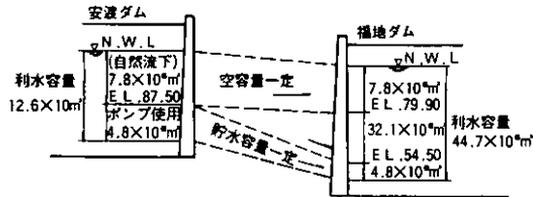
図7-2 北部ダム群統合運用図

計画平面図



また、福地ダムはその重要性から既設福地ダムの再開発を行い他の4ダムとあわせて日量259,000 $\text{m}^3$ の都市用水を開発する計画である。「取水ダム」の運用はダムへの流入量が調整水路の流下能力より小さい場合は調整水路を通して貯留ダムに貯留され、その逆の場合は流下能力以上の流入量は一時「取水ダム」に貯留され、流入量の減少するに従い、一時貯留された水も漸次「貯留ダム」に導入されるように計画されている。「貯留ダム」は福地ダム、安波ダムの無効放流を最小限におさえる統合管理計画により図7-3のような都市用水供給の安定化を図る運用を行っている。

図7-3 安波～福地統合運用模式図



安波～福地統合運用模式図

- ① 安波ダムから福地ダムへの導水が自然流下できる安波ダムの水位 (EL.87.5) までは、両ダムの空容量を同じとするよう、当日の流入量等を考慮して各ダムの補給量を決定する。
- ② 福地ダムの容量が安波ダムの自然流下可能水位以下の容量 ( $4.8 \times 10^4 \text{m}^3$ ) になるまでは、安波ダム流入量は、福地ダムへ導水する。
- ③ 両ダムともその容量が  $4.8 \times 10^4 \text{m}^3$  になれば両ダム共同一容量となるよう補給量を固定する。但し、安波ダムは自然流下が出来ないためポンプにより導水する。

「沖縄ダム事業の概要」

沖縄総合事務局開発建設部河川課資料

本調査地域外でも、漢那ダムが建設中であるが、その他に羽地ダム、比謝川総開発事業（瑞慶山ダム再開発）などの多目的ダムの建設計画を進めている。またその他沖縄本島13河川においても図7-4に示すように多目的ダムを中心とした総合開発計画の調査を実施している。

これまで建設されたダム、及び開発計画のある多目的ダムの諸元は表7-2に示すとおりである。

表7-2(1) 多目的ダムの諸元

ダ ム 名		福 地 ダ ム		新 川 ダ ム	安 波 ダ ム
		旧 計 画	再 開 発		
河 川 名		福地川	同 左	新川川	安波川
位 置		国頭郡 東村川田	同 左	国頭郡東村 高江小字高江原	国頭郡国頭村 安波小字川瀬原
目 的		F. N. W. I	F. N. W. I	F. N. W. I	F. N. W. I
ダ ム	型 式	R	R	G	G
	堤 高 (m)	91.5	91.7	44.5	86.0
	堤 頂 長 (m)	260	260	177	245
	堤 体 積 (10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> )	1,622.4	1,622.4	73.6	414.0
非越流部標高 (ELm)		89.5	90.0	164.5	113.5
貯 水 池	集水面積 (km <sup>2</sup> )	32.0	32.0	7.4	22.5
	湛水面積 (℥)	2.45	2.54	0.16	0.83
	総貯水容量 (10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> )	51,500	55,000	1,650	18,600
	有効貯水容量 (℥)	48,500	52,000	1,250	17,400
	洪水調節容量 (℥)	9,500	7,300	650	4,800
池	利水容量 (℥)	39,000	44,700	600	12,600
	サーチャージ水位 (ELm)	85.3	86.5	162.5	110.0
	常時満水位 (E℥)	81.1	83.5	158.0	103.5
洪 水 調 節	最低水位 (℥)	44.6	44.6	150.0	65.0
	計画高水流量 (m <sup>3</sup> /S)	1,000	1,000	230	700
	洪水調節流量 (℥)	650	770	30	340
用 水 供 給	最大放流量 (℥)	350	{ダム地点} 230 {上流地点} 230	200	360
	かんがい用水 (m <sup>3</sup> /日)	—	—	—	—
	水道用水 (℥)	73,600	86,800	13,200	55,200
工業用水 (℥)		26,400	31,200	4,800	19,800
基本計画決定年月日 ( ) : 変更		S48. 3.31	(S54. 1.31)	S48.11. 9 (S54. 1.31)	
工期 (実調—建設—完成)		—, —, 49	—, 53, (57)	46, 47, 51	46, 47, 57

F : 洪水用水  
N : 流水の正常な機能の維持  
A : かんがい用水

W : 水道用水  
I : 工業用水  
R : ロックフィルダム

G : 重力式コンクリートダム  
C : 複合ダム  
E : アースフィルダム

「沖縄のダム事業概要」  
沖縄総合事務局  
開発建設部河川課資料

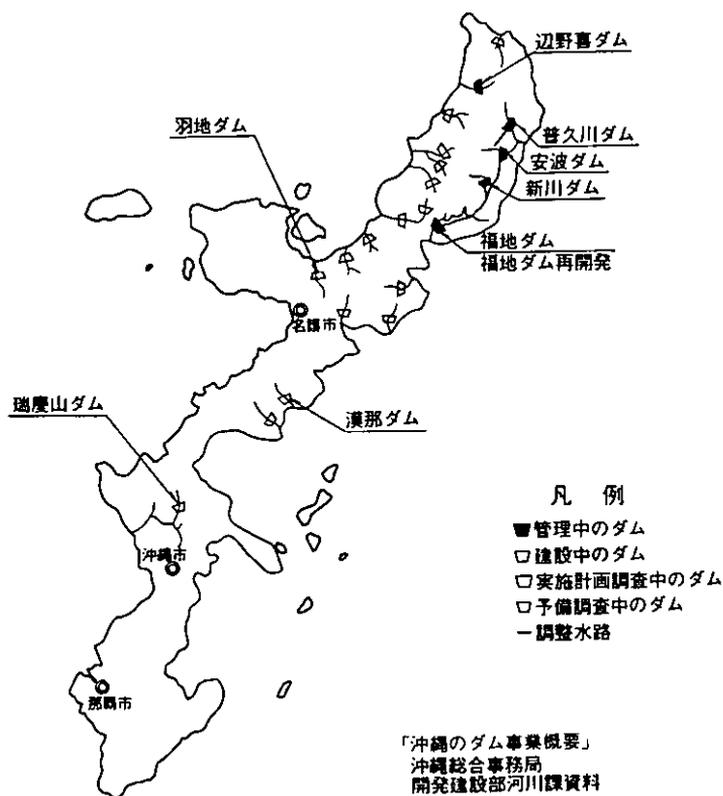
表7-2(2) 多目的ダムの諸元

ダム名		普久川ダム	辺野喜ダム	羽地ダム	漢那ダム	瑞慶山ダム	真栄里ダム
河川名		普久川	辺野喜川	羽地大川	漢那福地川	与那原川	宮良川
位置		国頭郡国頭村 安波小字原道原	国頭郡国頭村 辺野喜大川山	名護市 字親川、田井等	国頭郡宜野座村 字漢那	石川市字楚南 沖縄市字倉敷	石垣市 於茂登
目的		F. N. W. I	F. N. W. I	F. N. A. W	F. N. A. W	F. N. W	F. N. A
ダム	型式	G	C (R, G)	R	G	E	E
	堤高 (m)	41.5	R部35.0 G部42.0	66.5	41.0	35.0	27.0
	堤頂長 (m)	210	〃330.0 〃230.1	203.0	185.0	495	367
	堤体積 (10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> )	70.0	〃440 〃130	1,000	65	620	362
	非越流部 標高 (ELm)	136.5	〃184.0 〃183.5	73.5	33.0	68.5	45.0
貯水	集水面積 (km <sup>2</sup> )	8.9	8.1	10.9	7.6	4.7	4.82
	湛水面積 (%)	0.31	0.50	1.15	0.55	0.77	0.25
	総貯水量 (10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> )	3,050	4,500	19,800	8,200	7,100	2,300
	有効貯水量 (〃)	2,550	4,000	19,200	7,800	6,900	2,100
	洪水調節量 (〃)	1,600	2,400	3,600	1,150	1,000	800
池	利水容量 (〃)	950	1,600	15,600	6,650	5,900	1,300
	サーチャージ水位 (ELm)	133.5	179.5	68.7	30.0	65.5	41.5
	常満水位 (〃)	127.0	173.0	65.0	27.8	64.2	38.0
洪水調節	最低水位 (〃)	120.0	163.5	33.0	7.1	48.0	29.0
	計画高水量 (m <sup>3</sup> /S)	280	220	300	200	90	150
	洪水調節量 (〃)	140	170	240	130	80	90
用水供給	最大放流量 (〃)	140	50	80	90	30	60
	かんがい用水 (m <sup>3</sup> /日)	—	—	最大83,800	最大12,000	—	1,200
	水道用水 (〃)	19,900	15,500	12,000	11,500	26,400	—
基本計画決定年月日 ( ) : 変更	工業用水 (〃)	7,100	5,500	—	—	—	—
	S48.11.9 (S54.1.31)	S48.11.9 (S54.1.31)	S54.1.31	S59.9.7	S58.3.9	(基本協定) S58.3.1	(基本協定) S51.3.10 (S57.3.31)
工期(実調-建設-完成)	46, 47, 57	51, 53, 61	51, 56, (65)	53, 57, (63)	—, 57, (63)	47, 50, 57	

F: 洪水用水      W: 水道用水      G: 重力式コンクリートダム  
 N: 流水の正常な機能の維持      I: 工業用水      C: 複合ダム  
 A: かんがい用水      R: ロックフィルダム      E: アースフィルダム

「沖縄のダム事業概要」  
 沖縄総合事務局  
 開発建設部河川課資料

図7-4 沖縄本島多目的ダム位置図



### 7-3 利水計画

県内の水需要は、人口の都市集中、生活水準の向上、産業の進展に伴って著しく増大している。

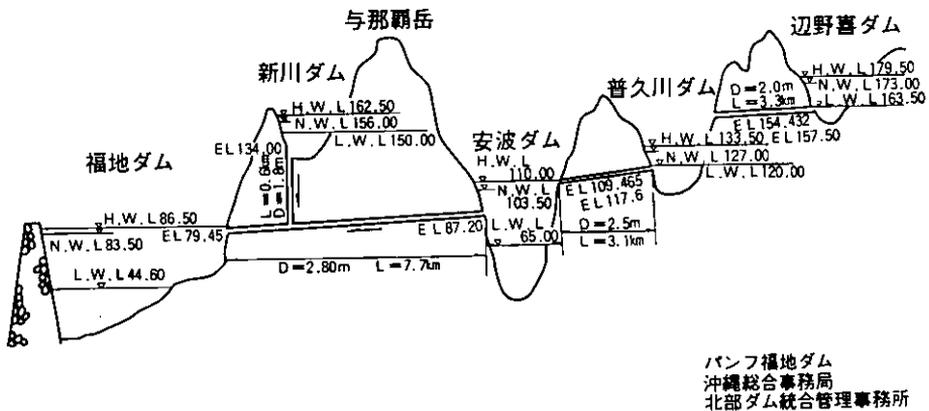
これらの水需要の伸びに対処するための小資源開発施設(多目的ダム)の建設が推進され、本調査地域に現在5ダムが建設され、約238,000  $\text{m}^3$ /日の用水が開発されている。このうち、辺野喜ダムは、試験湛水中である。(62年4月給水予定)

これらのダムは調整水路により結ばれた北部ダム群として統合管理されている。表7-3は北部ダム群の統合管理、運用後のダム別開発水量であり、完成すれば開発水量として上水190,600  $\text{m}^3$ /日工水と合わせて259,000  $\text{m}^3$ /日が開発されることになる。

表 7-3 北部ダム群統合運用後のダム別開発水量

施設名	開発水量 m <sup>3</sup> /日		計	備 考	完成年度
	上 水	工 水			
福地ダム	86,800	31,200	118,000		S. 58.
新川ダム	13,200	4,800	18,000	福地ダムと流域変更的統合運用結果	S. 52.
安波ダム	55,200	19,800	75,000	安波ダム単独運用結果	S. 58.
普久川ダム	19,900	7,100	27,000	安波ダムと流域変更的統合運用結果	S. 58.
辺野喜ダム	15,500	5,500	21,000	同 上	S. 61.
計	190,600	68,400	259,000		

図 7-5 利水計画縦断概要



## 7-4 治水対策

### (1) 災害の特性

沖縄は台風銀座とよばれるように、台風進路の転向点にあたるため、台風の襲来を受けることが多い。特に、台風が沖縄近海を通過する頃は、台風の勢力が最も強く、その速度も遅くなり暴風雨時間も長く日降雨量が400~500mmに及ぶ豪雨をもたらすこともしばしばある。

このため、河川は鉄砲水となって短時間に流出し、谷底地域は大災害を受けることも多く、特に沿岸部では台風通過による高潮と河川の増水が相まって被害を一層大きなものにすることもある。又、梅雨期に見られる前線性の豪雨により、山間部を中心とする土砂崩れ、河川の増水、低地部における人家密集地の浸水被害を受けることもある。

表7-4 沖縄近海に接近した台風の統計

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
台風発生数	15	7	12	23	29	44	113	142	136	99	66	28	714
沖縄県				5	8	14	38	55	45	14	15	1	195
那覇				3	4	6	18	33	23	10	6	1	104
宮古島				3	4	7	19	25	24	9	6	1	97
石垣島				3	5	9	24	31	24	7	6	1	110
南大東島				2	5	5	14	28	24	11	12	1	102
与那国島				2	3	8	19	27	23	6	6	—	94
久米島				2	3	6	19	31	19	9	6	1	96

(2) 治水対策

現在、統合管理されているダム、あるいはダムを建設、調査中の河川はいずれも河道の疎通能力が小さく、出水時には多大な被害を河間地に与えた経緯もあり、これらの河川の治水対策として、河川改修による洪水流量の確保とダムによる洪水調節が考えられている。河川改修方式による治水対策は人家、耕作地、公共施設等の土地利用と関連して計画規模に限界があり、計画流量以上の流量を上流ダムで洪水調節し、下流部での洪水の被害を軽減する方式が多く採用されている。

なお、本調査地域の各ダムの洪水調節は、ダムの集水面積がいずれも小さいために操作の簡単な自然調節方式が基本としてとり入れられている。

各ダムの洪水調節計画を示したのが表7-5である。

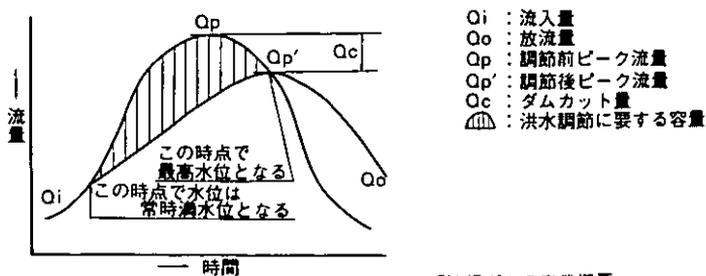
また、ダムの容量と洪水調節量を示したのが図7-8、7-9、7-10である。

表7-5 洪水調節計画

ダム名	放流方式	ダム地点流量		洪水調節容量 (m <sup>3</sup> )	下流基準点流量	
		流入量	放流量		ダム調節前	ダム調節後
福地ダム	自由越流	1,000	230	7,300,000	1,000	230
新川ダム	ゲート一定開度	230	200	650,000	340	320
安波ダム	"	700	360	4,800,000	1,240	820
普久ダム	"	280	140	1,600,000	1,240	820
辺野喜ダム	自由越流	220	50	2,400,000	290	150
羽地ダム	"	300	100	3,600,000	330	110
漢那ダム	"	200	90	1,150,000	210	100
瑞慶山ダム	"	90	30	1,000,000	710	660
真栄里ダム	"	150	60	800,000	—	—

自然調節方式とは、人工的に操作するゲートがなく、堤体に放流管を設ける穴あき式、堤体の一部に切り欠き部を設ける自由越流式、並びにゲートがあっても常時一定開度としている放流方式でゲート操作を行わないものをいいます。沖縄の河川は、集水面積が小さく、洪水の到達時間が短いので、この自然調節方式は特に有利です。下図はこの方式による洪水調節を行うので、この名があります。

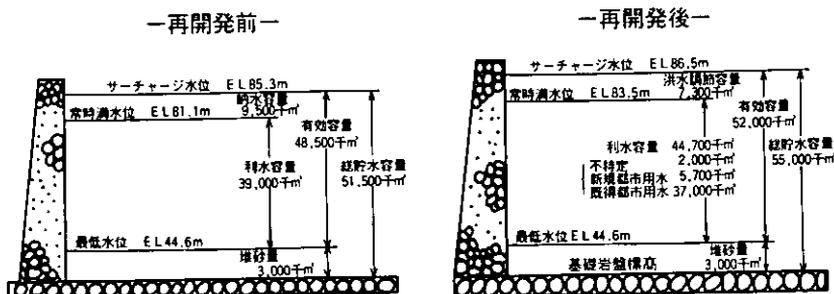
図7-6 洪水調節の概念図



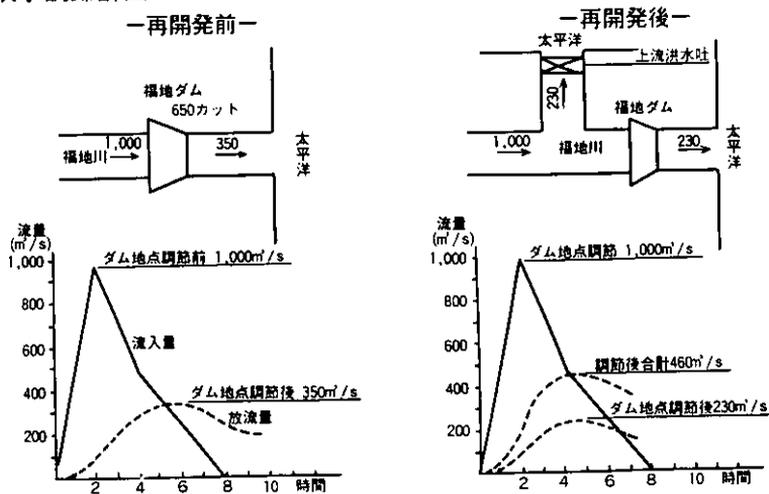
「沖縄ダムの事業概要」  
 沖縄総合事務局  
 開発建設部 河川課資料

図7-7 福地ダム 貯水池容量配分図

貯水池容量配分図



洪水調節計画

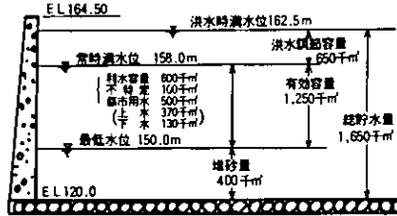


自由越流方式により計画洪水流量1,000m³/sのうち、再開発前650m³/s、再開発後770m³/sの洪水調節を行い、ダム地点調節後流量を230m³/sにします。

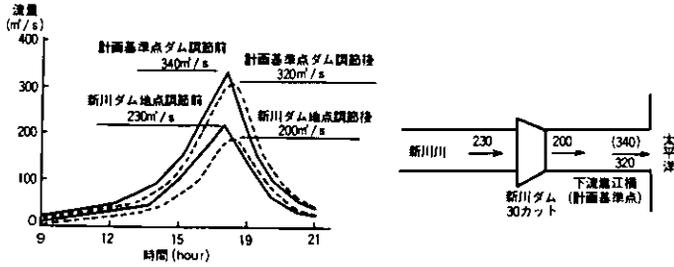
沖縄のダム事業概要  
 沖縄総合事務局開発建設部河川課

図7-8 新川ダム 貯水池容量配分図

貯水池容量配分図



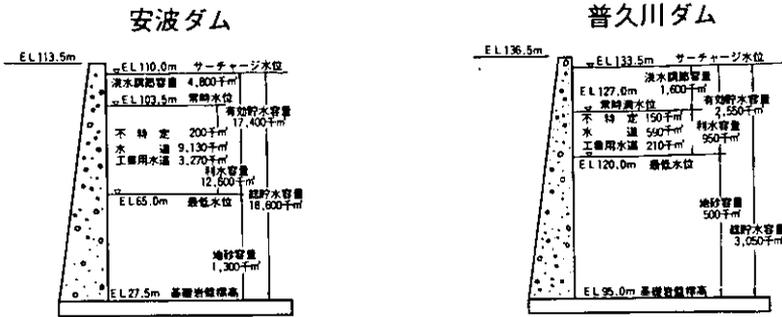
洪水調節計画



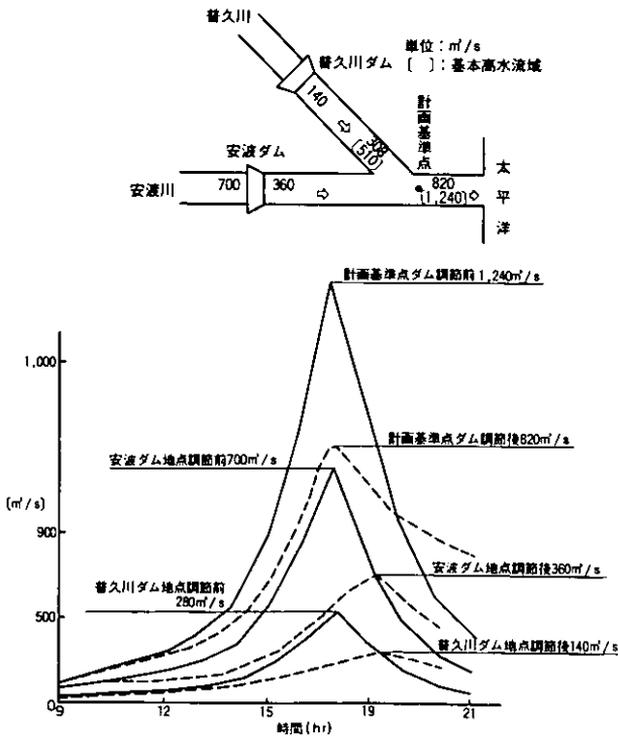
自由越流方式により計画洪水流量230 $\text{m}^3/\text{s}$ のうち、30 $\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行い、ダム地点調節後流量を200 $\text{m}^3/\text{s}$ にします。

「沖縄のダム事業概要」  
沖縄総合事務局開発建設部河川課

図7-9 安波ダム及び普久川ダム  
貯水池容量配分図



洪水調節計画



安波ダム及び普久川ダムでは、洪水吐ゲートの一定開度放流方式により洪水調節を行います。

安波ダムでは、計画洪水流量 700  $m^3/s$ のうち 340  $m^3/s$ の洪水調節を行い、ダム地点調節後流量を 360  $m^3/s$ にします。

普久川ダムでは、計画洪水流量 280  $m^3/s$ のうち 140  $m^3/s$ の洪水調節を行い、ダム地点調節流量を 140  $m^3/s$ にします。

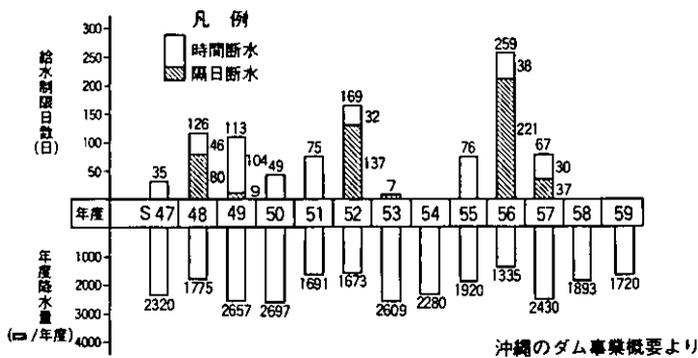
「沖縄のダム事業概要」  
沖縄総合事務局開発建設部河川課

## 第 8 章 西系列水源開発事業計画

### 8-1 県内の水需要の特徴

沖縄本島では、昭和47年の本土復帰以来これまで給水制限の行われなかった年は昭和54年、昭和58年、昭和59年のわずか3回を数えるのみであった。この原因は水需要に対する供給施設の不備と県内河川の水量の変動が大きいため必要な取水ができないことなどが考えられる。県内の河川取水量は河川の流量が多い時には需要量をまかなうことが可能であるが、降雨が少なく渇水になると不足が生じ、給水制限を余儀なくされてしまうことになる。とりわけ昭和56年～57年には延べ326日及び給水制限が行われたのは記憶に新しいところである。

図 8-1 年度降水量と給水制限日数



### 8-2 水利用の現況

県内における昭和54年度の総水需要量は年間2.9億 $m^3$ でその内の50%以上の約1.5億 $m^3$ が生活用水である。これは全国平均の生活用水の占める率の約3倍という高い値を示している。また昭和50年に比べて都市用水需要量の伸びは約8%で、これは全国の伸び率0.1%と比べて著しく高くなっている。

表 8-1 用途別水需要の推移

(単位: 億 $m^3$ /年)

地域区分	昭和50年					昭和54年					年平均伸び率(%)		
	都市用水			農業用水	合計	都市用水			農業用水	合計	都市用水		
	生活	工業	計			生活	工業	計			生活	工業	計
沖 縄	1.1	0.3	1.4	1	2.4	1.5	0.4	1.9	1	2.9	8.1	7.5	7.9
全 国	123	183	306	570	876	139	168	307	570	877	3.1	-2.1	0.1

(国土庁編21世紀の水需要)

また、沖縄本島における水道の普及率は約 98 %で、全国平均（昭和56年 91.9 %）よりかなり高い水準にある。さらに昭和58年度の沖縄本島における年平均の1日当たり使用量を見ると 420 千 $\text{m}^3$ /日（最大約 450 千 $\text{m}^3$ /日）となっており、これを1人当たりの使用量に換算すると 372  $\text{l}$ /人・日となりほぼ全国平均と同じ量となっている。

### 8-3 水の供給施設

昭和59年度時点での生活用水と工業用水を併せた都市用水の供給施設としては、国管理の福地ダム、新川ダム、安波ダム、普久ダムの他県企業局管理の瑞慶山ダム、天願ダム、金武ダムと6河川の表流水を取水するポンプ場及び地下水場水施設がある。用水を供給する県企業局の水供給施設は図8-2に示すとおりである。

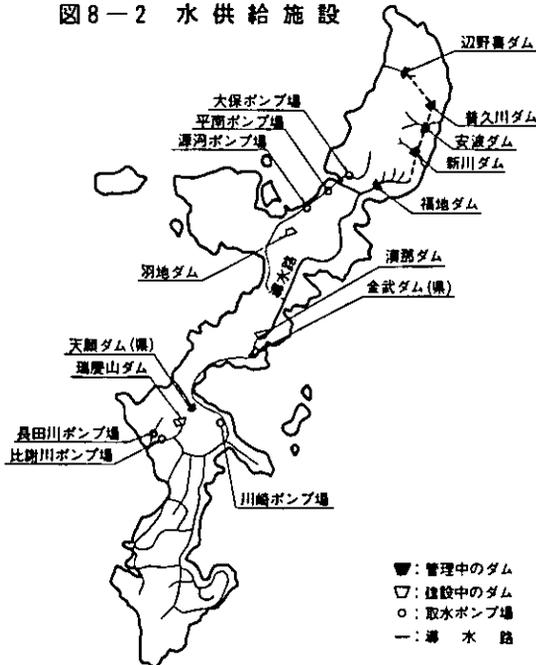
表8-2 沖縄本島の生活用水使用量の推移

項目 \ 年	S 47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58
最大	288	307	340	399	405	438	428	448	466	417	421	445
年平均	268	278	319	368	374	392	406	417	421	364	392	421

最大とは月最大時の日平均で示す

「企業局水量記録」・「沖縄県の水道」より

図8-2 水供給施設



沖縄ダム事業の概要

水供給施設一覧表

水源名称		河川名	流域面積 (ha)	施設能力 ( $\text{m}^3$ /日)	
河川表流水	川崎ポンプ場	天願川	20.2	55,300	
	比謝ポンプ場	比謝川	32.8	63,900	
	大保ポンプ場	大保川	26.5	37,400	
	平南ポンプ場	平南川	11.2	38,000	
	源河ポンプ場	源河川	15.8	58,000	
	長田ポンプ場	長田川	19.4	23,200	
	福地	福地川		25,000	
小計			125.7	300,800	
ダム	金武ダム	嶺首川	13.2	67,400	
	天願ダム	天願川	2.6	17,400	
	瑞慶山ダム	比謝川	4.7	22,100	
	小計			20.5	106,900
	福地ダム	福地川	32.0	100,000	
	新川ダム	新川	7.4	18,000	
安波ダム	安波川	22.5	27,000		
普久川ダム	普久川	8.9	75,000		
小計			70.8	220,000	
地下水(湧水)	嘉手納井戸群			48,600	
合計			217.0	676,300	

◎ 施設能力は安定供給可能量ではない。

#### 8-4 西系列水源開発事業の概要

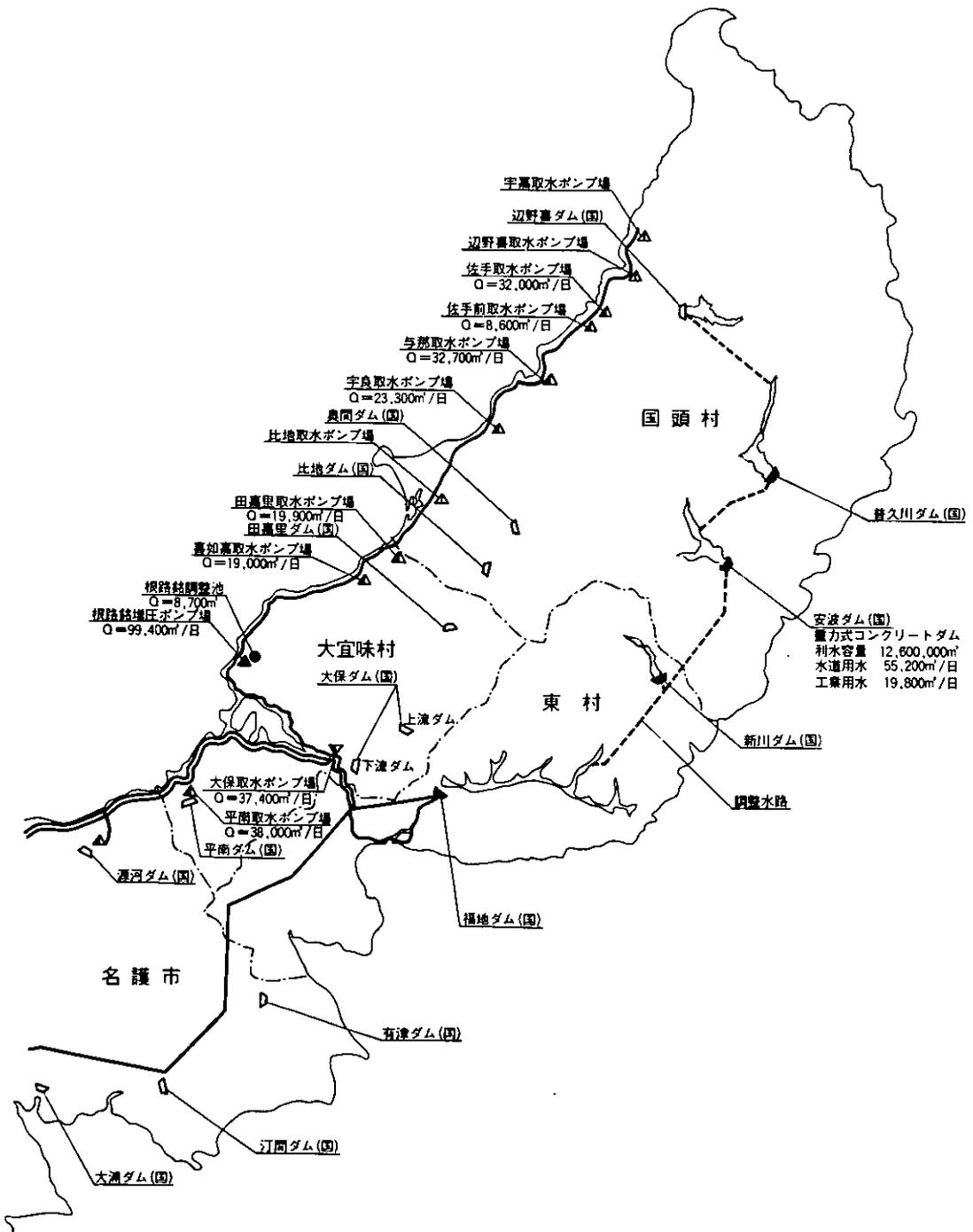
沖縄本島における慢性的な水不足を解消し、年々増大する水需要に対処するため、沖縄振興開発計画に基づき、国と県が一体となって水源開発が進められている。

沖縄本島北部の多目的ダムの開発は国直轄事業として建設が進められ、福地、新川、安波、普久川の4ダムに加えて辺野喜ダムが昭和61年度に完成し、昭和66年度まではさらにいくつかのダム建設が計画されているが、これらのダムが完成してもなお水源水量は不足が予測されることから、県（企業局）では、国によるダム開発と並行して新規の水源開発を行う西系列水源開発事業が進められている。

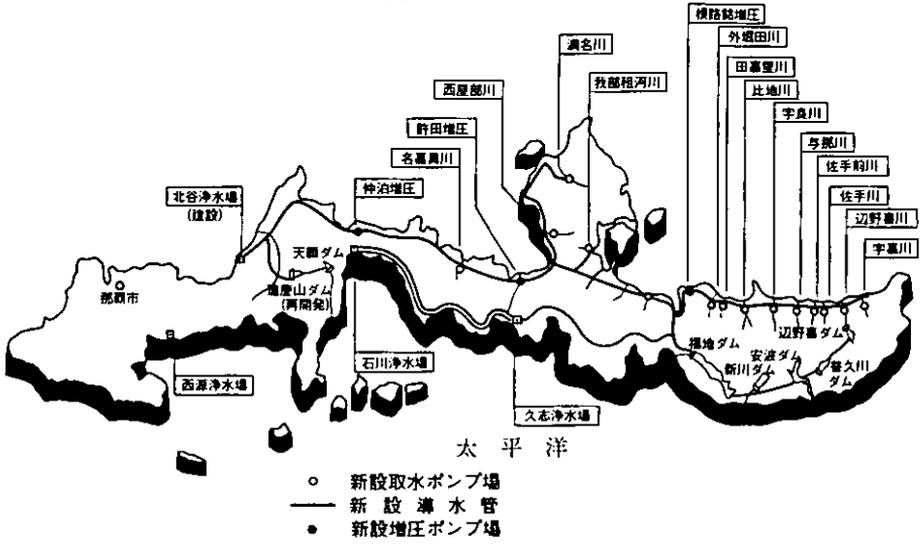
この事業は、沖縄本島北部西系列の中小13河川から豊水時の余剰水を取水し、再開発される瑞慶山ダムに貯留して、水の安定確保を図るもので、昭和55年度から事業が着手されている。

この計画の調査地域の概要は図8-3に示すとおりである。

図 8-3 西系列水源開発事業



### 西系列水源開発一覽図



沖縄県企業局資料より

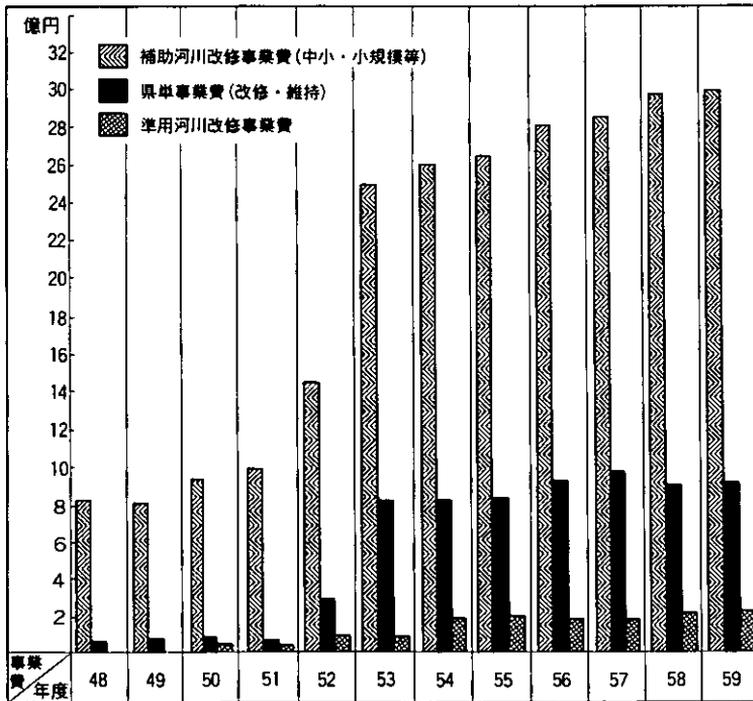
## 第9章 治水事業の概要

### 9-1 河川改修事業

本県は、大小300余の河川があるが、これら河川のうち特に44水系61河川を2級河川に指定し整備が進められている。

本県の河川改修事業費の推移を示すと図9-1のとおりである。

図9-1 河川改修事業費の推移



59年度版土木部建築部要覧

また、調査地域の河川改修事業計画は表9-1のとおりである。

表 9 - 1 河川改修事業一覧表

河 川 名		着工年度	全体計画		計 画 諸 元			58年度までの実績		
			事業量 (m)	事業費 (百万円)	流域面積 (km <sup>2</sup> )	計画高水流量 (m <sup>3</sup> /5)	河床勾配	事業量 (m)	事業費 (百万円)	推抄率 (%)
中・小河川	田 嘉 里 川	50	2,045	870	8.91	200	1/400~1/700	1,373	618	67.1
	奥 間 川	57	700	320	6.75	(170) 150	1/120~1/210	12	60	1.7
	奥 川	47	3,628	525	10.88	260	1/200~1/1,000	1,008	464	27.8
小規模河川	辺 野 喜 川	48	1,324	321	13.18	(290) 150	1/150~1/400	761	377	57.5
	安 波 川	52	3,000	400	42.09	(1,200) 820	1/300~1/750	456	372	15.3
	福 地 川	53	3,200	660	36	(1,000) 230	1,800	602	329	18.8
	有 銘 川	50	1,520	495	3.33	75	1/120~1/800	1,379	436	90.7
準用河川	兼 久 川	51	1,585	279	1.26	23	1/86~1/500	1,471	256	92.8
	ヌ - リ 川	52	1,440	500	3.9	100	1/200	551	236	38.3

昭和59年度版 土木建築部要覧より  
より作成

## 9-2 砂防事業

### (1) 砂防ダム

本県の砂防事業は、前述した地形的特性から、土石流危険渓流は、沖縄本島北部地区に集中している。本土復帰以来昭和58年度までに砂防ダム42基が施工されているが、そのうち29基が調査地域に設置されており、その内訳は国頭村に20基、大宜味村に4基、東村が5基となっている。調査地域の砂防指定の状況は、表9-2のとおりである。

表9-2 砂防指定一覧表

昭和59年3月末現在

番号	河川及び溪流名	指定面積 (ha)	指定年月日	所在地	建設省告示番号
1	大 保 川	78.70	S47.11.14	大宜味村	第1887号
2	有 銘 川 (1)	17.30	"	東 村	
3	" (2)	1.48	S49.1.7	" "	第5号
5	ウ イ ヌ 川 (1)	2.80	"	国 頭 村	
6	" (2)	2.28	S52.1.27	"	第64号
7	根 路 銘 川 (1)	3.60	S47.11.14	大宜味村	第1887号
8	" (2)	1.33	S49.1.7	"	第5号
11	宜 名 真 川	1.94	"	国 頭 村	"
15	佐 手 大 川	12.46	"	"	"
18	伊 地 川	10.63	"	"	"
20	武 見 川	5.80	"	"	"
22	チ ヌ フ ク 川	3.20	S53.1.10	"	第14号
23	ス ン バ 川	3.50	"	"	"
24	又 伊 名 川	9.97	"	"	"
27	宇 嘉 川	3.09	S54.4.18	"	第885号
28	佐 手 前 川	3.39	"	"	"
29	奥 間 川	3.73	"	"	"
34	ハ ル ミ チ 川	1.68	S55.1.30	"	第82号
35	伊 部 川	4.04	"	"	"
36	奥 川	2.68	"	"	"
37	武 見 川	1.52	"	"	"
38	又 伊 名 川	2.89	"	"	"
39	平 良 川	4.43	"	東 村	"
40	川 上 川	2.05	"	"	"
46	与 那 川	4.66	S56.1.21	国 頭 村	第55号
47	饒 波 川	2.00	"	大宜味村	"
51	宇良川・アーシジャ川	7.24	S57.12.2	国 頭 村	第1860号
52	フ ォ ー ギ マ タ 川	1.41	"	東 村	"
55	比 地 川	4.67	S58.3.23	国 頭 村	第762号

昭和59年度版土木建築部要覧より作成

(2) 地すべり防止区域

地すべり防止区域は、その地質的特性から沖縄本島南部に集中しており、調査地域では宜名真地区一箇所が指定されている。

図9-3 地すべり防止区域指定一覧表

昭和59年3月現在

番号	河川及び溪流名	指定面積 (ha)	指定年月日	所在地	建設省告示番号
8	宜名真 "	11.19	S58.3.31	国頭村	第919号

昭和59年度版 土木建築部要覧より

資 料 編

資 料 表

# 資料表目次

## I 降水量資料

I-1 降水量観測所（所屬別，水系別）総括表	1
I-2 降水量観測地点図	1
I-3 降水量観測所一覧表	2
I-4 降水量観測所月別降水量年表	4

## II 水位流量資料

II-1 水位流量観測所（所屬別，地域別）総括表	31
II-2 水位観測所地点図	31
II-3 水位流量観測所一覧表	32
II-4 流量観測所年別流況表	34

## III 水質資料

III-1 水質観測地点（所屬別，地域別）総括表	51
III-2 水質調査地点図	51
III-3 水質観測地点一覧表	52
III-4 水質分析資料	54

## IV 取水口排水口資料

IV-1-1 農業用取水口（取水方法別，河川別）総括表	71
IV-1-2 農業用取水口一覧表	72
IV-1-3 生活・農業用排水口（排水方法別，河川別）総括表	76
IV-1-4 農業用生活用排水口一覧表	78
IV-2 水道用取水口資料	
IV-2-1 水道用取水口（使用事項別，河川別）総括表	97
IV-2-2 上水道用（県企業局）取水口一覧表	98
IV-2-3 水道用（簡易水道）取水口一覧表	100
IV-3 工業用取水口資料	
IV-3-1 工業用取水口（取水方法別，河川別）総括表	105
IV-3-2 工業用取水口一覧表	106
IV-4 その他（養鰻用水，雑用水）取水口資料	
IV-4-1 その他（養鰻用水，雑生活用水）取水口（取水方法別）総括表	109
IV-4-2 その他（養鰻用水，雑用水）取水口一覧表	110

<b>V 主要井戸資料</b>	
V-1-1	主要井戸（村別，用途別）総括表…………… 113
V-1-2	主要湧水（村別，用途別）総括表…………… 113
V-2-1	使用目的別井戸一覧表（簡易水道）…………… 114
V-2-2	使用目的別湧水一覧表（簡易水道）…………… 116
V-3-1	使用目的別井戸一覧表（工業用水）…………… 118
V-3-2	使用目的別湧水一覧表（工業用水）…………… 120
V-4-1	使用目的別井戸一覧表〔雑用井戸および拝井泉（旧集落井戸）〕…………… 122
V-4-2	使用目的別湧水一覧表〔雑用井戸および拝井泉（旧集落井戸）〕…………… 128
<b>VI 上水道及び簡易水道（専用水道を含む）資料</b>	
VI-1	水道用水（事業別，主要項目別）総括表…………… 135
VI-2	簡易水道用水総括表…………… 135
VI-3	簡易水道地区一覧表…………… 136
<b>VII 工業用水使用状況資料</b>	
VII-1	産業中分類別水源別用水量…………… 140
VII-2	村別事業所数，従業者数…………… 141
VII-3	従業者規模30人以上工業用水量…………… 141
VII-4	工業用水使用状況調査一覧表…………… 142
<b>VIII ダム資料</b>	
VIII-1	管理中および建設中のダム…………… 145
VIII-2	ダム一覧表…………… 146
<b>IX 水力発電所資料</b>	
IX-1	水力発電所総括表…………… 149
IX-2	水力発電所一覧表…………… 150
<b>X 溜池資料</b>	
X-1-1	溜池総括表（県内農業用溜池）…………… 153
X-2	溜池一覧表…………… 154
<b>XI 河道横断の水門資料（水門、堰、砂防ダム）</b>	
XI-1	河道横断の水門一覧表…………… 156
XI-2	河道横断の堰一覧表…………… 158
XI-3	砂防ダム一覧表…………… 160

Ⅱ 参考資料

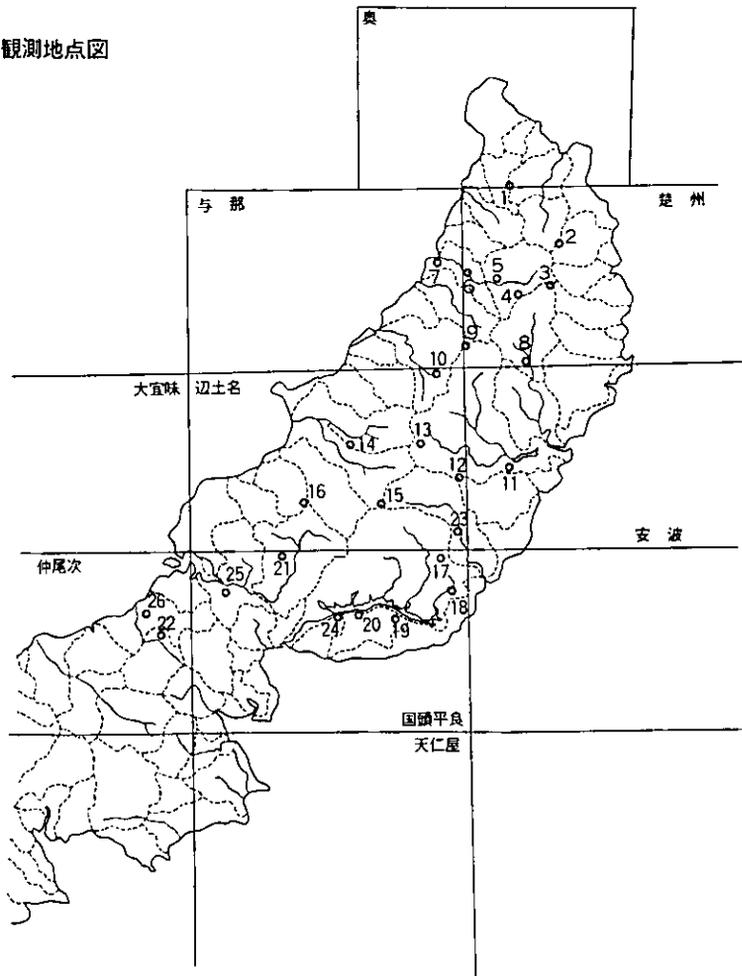
Ⅱ-1 土地改良区一覧表.....	162
Ⅱ-2 資料の出典.....	168

# I 降水量資料

I-1 降水量観測所(所属別)総括表

	沖繩県 統計	調査地域		
		2級河川	その他河川	合計
気象庁	24	2	0	2
沖縄建設部河川課	10	2	1	3
沖縄企業局	10	1	1	2
沖縄総合事務局	23	18	0	18
沖縄総合事務局農林水産部	7	1	0	1
八重山宮古総合事務所 農業開発事務所4ヶ所	14	0	0	0
合計	88	24	2	26

I-2 降水量観測地点図



I-3 降水量観測所一覽表

対照 番号	2.5万分1 地形図名	所 属 名	観測所名	水 系 名	第 一 次 支 派 川 名	該 当 河 川 名	所 在 地		観測器 の 種 類
							市 郡	町 村 字 番 地	
1	楚 洲	沖 縄 県 土木建築部	奥	奥 川		奥 川	国頭村奥球大荘		転倒マス型 (3ヶ月巻)
2	〃	沖縄総合事務所 北部ダム事務所	伊 江	〃		〃	国頭村字伊江県営林 (辺野喜) 57林班に小班		〃
3	〃	〃	楚 洲	辺野喜川		辺野喜川	国頭村字楚洲県営林 (辺野喜) 57林班に小班		〃
4	〃	〃	我 地	〃		〃	国頭村字我地県営林 (辺野喜) 57林班に小班		〃
5	〃	〃	辺野喜 (上)	〃		〃	国頭村地先(大川山)		〃
6	〃	〃	辺野喜 (中)	〃		〃	〃 (西 銘)		〃
7	与 那	〃	辺野喜 (下)	〃		〃	国頭村字穴場井原 (153.8)		〃
8	安 波	〃	普 久	安波川		普久川	国頭村字安田		〃
9	与 那	〃	フェンチヤ	〃		安波川			
10	辺土名	沖 縄 県 土木建築部	与 那	与 那 川		与 那 川	国頭村字与那東方山地		転倒マス型 (3ヶ月巻)
11	安 波	沖縄総合事務所 北部ダム事務所	安 波	安波川		安波川	国頭村字安波		〃
12	辺土名	〃	排 持 山	安波川 新 川 川		安波川 新 川 川	国頭村字安波29		〃
13	〃	気 象 庁	与那覇岳	安波川		安波川	国頭村字奥間与那覇岳		貯水型
14	〃	沖縄総合事務所 北部ダム事務所	比 地	奥 間 川		奥 間 川	国頭村字比地地方		転倒マス型 (3ヶ月巻)
15	〃	〃	伊 湯 岳	新 川 川		福 地 川	東村字宮城内福地原645		〃
16	〃	〃	田 嘉 里	田嘉里川		田嘉里川	大宜味村字田嘉里1679-24		〃
17	国頭・平良	〃	高 江 (福地ダム)	沢 又 川		沢 又 川	国頭村字高江原466-1		〃
18	〃	〃	車	大 沢 川		大 沢 川	東村字車		〃
19	〃	沖縄総合事務所 森林水産部	古 島	古 島 川		古 島 川	東村字いのがま		〃
20	〃	沖縄総合事務所 北部ダム事務所	福 地 I	古 島 川 福 地 川		古 島 川 福 地 川	東村字川田		〃
21	〃	〃	大 保	大 保 川		大 保 川	大宜味村字田港		〃
22	仲 尾 次	沖 縄 県 土木建築部	津 波	平 南 川		平 南 川	大宜味村字津波津波山 北西方開墾地		〃
23	辺土名	沖縄総合事務所 北部ダム事務所	新川 ダム事務所	新 川 川		新 川 川	東村字高江原466-1		〃
24	国頭・平良	〃	福 地 II	福 地 川		福 地 川	東村字川田上原1105-108		〃
25	国頭・平良	沖 縄 県 企業局	大 保 保 場	大 保 川		大 保 川			貯水型
26	仲 尾 次	〃	平 保 南 場	平 南 川		平 南 川			〃

標高 m	緯度 經度	観測時刻		観測開始 年月日	観測資料保存状況		備考
		定時	強雨時		期間	場所	
200	26°49'9" 128°16'4"	○	○	1 から移動 S 42. 3. 14	10	沖縄県土木建築部河川課	4)
230	26°45'8" 128°17'7"	○		S 51. 5. 1	9	沖縄総合事務局北部ダム事務所	2)
280	26°46'1" 128°17'3"	○		S 51. 5. 1	6	＊	＊
300	26°46'5" 128°16'5"	○		S 51. 5. 1	9	＊	＊
185	26°47'0" 128°16'0"	○		S 51. 5. 1	9	＊	＊
150	26°47'0" 128°15'0"	○		S 51. 4. 1	9	＊	＊
3.5	26°46'7" 128°14'0"	○		S 51. 5. 1	9	＊	＊
132	26°44'6" 128°16'9"	○		S 42. 4. .	11	＊	＊
		○			3	＊	5)
260	26°45'0" 128°13'9"	○		S 45. 4. 27	30	沖縄県土木部河川課	4)
150	26°42'2" 128°16'3"	○		S 45. 12. 31	11	沖縄総合事務局北部ダム事務所	2)
250	26°42'0" 128°14'5"	○		S 52. 3. .	3	＊	5)
375	26°43'4" 128°13'8"	○	○	S 34. 11. 1	26	気象庁沖縄気象台	1)
195	26°42'8" 128°11'5"	○		S 41. 4. 13	19	沖縄総合事務局北部ダム事務所	2)
340	26°41'1" 128°12'4"	○		S 49. 6. .	3	＊	5)
270	26°41'2" 128°10'2"	○		S 51. 7. 1	9	＊	2)
180	26°39'7" 128°14'2"	○		S 51. 2. 16	3	＊	5)
135	26°39'2" 128°44'4"	○		S 45. 12. 31	14	＊	2)
125	26°38'3" 128°12'8"	○		S 54. 2. 26	2	沖縄総合事務局農林水産部土地改良課	3)
120	26°38'4" 128°11'7"	○	○	S 42. 5. 11	9	沖縄総合事務局北部ダム事務所	2)
175	26°39'4" 128°9'3"	○		S 45. 12. 31	14	＊	＊
150	26°38'0" 128°6'2"	○		S 45. 12. 31	14	沖縄県土木建築部河川課	4)
180	26°39'6" 128°14'2"	○		S 49. 6. .	3	沖縄総合事務局北部ダム事務所	5)
100	26°38'6" 128°10'7"	○		S 52. 3. 31	3	＊	＊
4	26°39'2" 128°8'3"			S 51. 1. .	8	沖縄県企業局	
5	26°38'5" 128°5'6"			S 53. 3. .	7	＊	

1) 気象月報 2) 沖縄北部水位流量・雨量年表 3) 河川開発調査水文観測報告書 4) 水文観測業務報告書 5) 北部ダム統合管理事務所資料

I-4 降水量観測所降水量年表

対象番号	1					所 属 名		沖繩県 土木建築部河川課		水 系		奥 川		該当河川名		奥 川	
観測所名	奥					1/2.5万地形図名		奥		所 在 地		国頭村字奥(流火山荘内)					
年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	最多日数 (月日)	雨 天 日数 ≥0.5mm	雨 天 日数 ≥1.0mm	
1955	182.0	205.0	128.0	298.0	466.0	354.0	284.0	258.0	39.0	417.0	174.0	63.0	2,868.0				
1956	209.7	298.7	164.2	343.9	301.8	224.1	106.2	158.7	512.3	88.9	134.7	223.9	2,776.1				
1957	94.5	209.6	271.8	102.7	236.1	784.0	62.2	150.7	729.8	23.7	189.4	83.0	2,937.3				
1958	114.7	274.8	130.8	150.9	339.1	186.1	161.7	82.4	54.4	217.9	97.1	154.9	1,964.8				
1959	148.3	278.4	97.7	562.1	127.6	224.8	75.2	256.8	191.0	1,050.2	356.7	80.3	3,449.1				
1960	162.4	44.4	227.0	185.0	332.8	296.8	114.5	319.8	97.4	113.2	104.7	249.4	2,247.4				
1961	33.9	168.3	140.1	235.5	372.8	140.1	209.3	117.3	188.3	168.4	123.7	198.6	2,096.3				
1962	168.2	108.7	263.7	(124.5)	318.8	241.6	252.6	149.4	114.6	130.6	(302.6)	94.6	2,269.9				
1963	51.1	(欠)	(欠)	(欠)	73.9	72.9	113.3	204.9	89.3	187.1	150.3	302.1	(1,244.9)				
1964	249.8	106.0	77.2	31.2	540.1	905.1	158.3	154.7	111.8	31.0	12.6	(欠)	2,377.8				
1965					欠		測										
1966					欠		測										
1967		欠		測		532	46	355		289	87	198					
1968	82	167	277		欠		測										
1969	(80)	154	253	68	583	767	179	256	156	1012	143	39	3,690				
1970	132	80	256	192	427	205	378	430	226	173	308	326	3,133				
1971	111	43	78	218	100	120	7	252	194	136	307	323	1,909				
1972	232	255	72	130	483	336	750	123	57	44	217	277	2,976				
1973	220	226	74	238	341	377	342	313	244	170	103	49	2,697				
1974				177	319	331	155	456	368	600	83	129					
1975	220	(208)	230	182	233	481		183	109	278							
1976	40	118	133	100	315	415	387	79	264	285	196	95	2,427				
1977	201	105	98	77	152	238	163	62	84	47	176	160	1,563				
1978	122	102	234	225	340	254	273	418	289	447	34	200	2,968				
1979	218	167	293	275	416	165	147	113	277	129	208	54	2,462				
1980	145	202	155	477	206	36	146	130	241	116	514	42	2,410				
1981																	
1982																	
総 計	1,414.6	1,693.9	1,500.5	2,033.8	3,109.0	3,429.0	1,537.1	1,852.7	2,127.9	2,428.0	1,654.8	2,172.5	24,954.3				
年 数	10	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	9					
平 均	141.5	188.2	166.7	226.0	310.9	343.0	153.7	185.3	212.8	243.0	165.5	241.4	2,578				

- 既往最多年降水量 3,449.1mm(昭和 34 年)
- ◇ 最小年 ◇ 1,244.9mm(昭和 38 年)
  - ◇ 最多月 ◇ 1,050.2mm(昭和 38 年 10 月)
  - ◇ 最小月 ◇ 12.6mm(昭和 43 年 11 月)
  - ◇ 最多日 ◇ mm(昭和 年 日)
  - 最多3時間 ◇ mm(昭和 年 日 時~ 日 時)
  - 最多1時間 ◇ mm(昭和 年 日 時)

(注) 欠測を含むものは、値を( )で括っている。



対照番号	3	所属名	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	水系	辺野喜川	該当河川名	辺野喜川
観測所名	楚洲	1/2.5万地形図名	楚洲	所在地	国頭村字楚洲集営林(辺野喜)57林班 12小班		

年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	最多日量 (月日)	雨天日数	
															≥0.5mm	≥1.0mm
1976	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)	406.5	379.0	414.0	98.0	368.0	348.5	272.5	190.0	2,476.5	5月26日 200	119日	114日
1977	314.0	143.0	136.0	87.0	192.0	300.0	232.5	107.0	247.0	117.5	182.5	245.5	2,309.0	12月12日 95.5	174日	158日
1978	160.5	144.0	336.5	251.0	449.5	319.0	295.0	503.0	297.5	600.0	93.0	225.5	3,674.5	10月13日 215.5	219日	185日
1979	199.5	187.0	312.5	342.5	553.5	250.0	182.5	229.0	474.5	154.5	349.0	77.0	3,311.5	9月27日 183.5	199日	167日
1980	169.5	269.5	176.0	523.5	209.5	60.0	111.5	159.0	423.0	133.5	608.5	55.5	2,899.0	9月10日 213.0	204日	179日
1981	89.5	209.5	249.5	170.5	456.0	78.5	183.0	93.5	113.0	264.0	222.0	93.5	2,222.5	10月21日 146.5	188日	162日
1982	161.0	182.5	243.5	262.5									(849.5)			
1983				観測終了			4月									
総計	1,094.0	1,135.5	1,454.0	1,637.0	2,267.0	1,386.5	1,418.5	1,189.5	1,923.0	1,618.0	1,727.5	887.0	17,737.5			
年数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6				
平均	182.3	189.3	242.3	272.8	377.8	231.1	236.4	198.3	320.5	269.7	287.9	147.8	2,956.2			

既往最多年降水量 3,674.5mm(昭和 53 年)  
 ♪ 最小年 ♪ 2,222.5mm(昭和 56 年)  
 ♪ 最多月 ♪ 608.5mm(昭和 55 年 11 月)  
 ♪ 最小月 ♪ 55.5mm(昭和 55 年 12 月)  
 ♪ 最多日 ♪ mm(昭和 年 日)  
 最多3時間 ♪ mm(昭和 年 日 時~ 日 時)  
 最多1時間 ♪ mm(昭和 年 日 時)

(注) 欠測を含むものは、値を ( ) で括っている。













村 照 番 号	10		所 属 名		冲縄県 土木建築部河川課		水 系		与 那 川		該 当 河 川 名		与 那 川			
観 測 所 名	与 那		1/2.5万地形図名		与 那		所 在 地		国頭村字与那東方山地							
年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	最多日量 (月日)	雨 天 ≥0.5mm	日 数 ≥1.0mm
1955	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)	369	350	(295)	276	42	292	98	60	(1,782.0)			
1956	302.5	201.5	109	315.2	219.7	273.8	77.8	387.0	455.5	113.1	185.7	173.8	2,814.6			
1957	112.7	154.8	158.4	86.4	214.1	848.8	39.3	298.9	709.1	26.5	181.4	95.8	2,926.2			
1958	111.4	271.2	125.1	113.0	347.1	147.7	159.1	141.5	111.5	246.4	122.8	176.5	2,073.3			
1959	139.7	217.1	111.3	534.0	128.7	279.6	148.4	216.4	200.7	964.2	319.4	86.7	3,346.2			
1960	118.3	48.0	206.8	187.9	304.4	279.5	138.7	582.0	129.6	113.2	143.1	143.1	2,394.6			
1961	48.1	148.6	139.4	254.9	294.1	201.8	339.8	183.1	185.6	212.0	135.3	147.6	2,317.3			
1962	166.5	104.6	314.2	170.3	318.1	238.2	307.4	200.8	202.0	222.8	533.2	(86.8)	(2,864.9)			
1963	56.9	24.5	69.0	102.6	46.0	113.3	100.2	278.9	225.3	161.1	140.7	385.9	1,704.4			
1964	241.6	149.8	82.5	52.1	433.4	52.4	231.5	32.7	102.7	139.8	60.7	212.7	1,791.9			
1965	116.2	151.7	91.5	175.8	409.4	596.9	56.9	335.3	248.8	139.2	159.5	67.8	2,549.0			
1966	217.7	140.8	147.9	242.3	678.7	306.6	180.5	277.9	392.9	25.3	194.9	291.6	3,096.1			
1967	43.6	99.0	57.0	129.1	189.4	462.0	29.7	261.1	61.4	380.8	94.8	144.3	1,952.2			
1968	88.1	211.7	253.5	111.4	172.2	347.3	150.8	396.2	124.5	64.6	76.3	96.4	2,093.0			
1969	225	180	201	88	623	904	148	421	168	818	170	41	3,987.0			
1970	175	71	261	167	373	283	421	412	259	240	198	295	3,155.0			
1971	94	35	69	143	127	124	41	386	184	246	492	318	2,259.0			
1972	300	268	54	(136)	(511)	(358)	793	166	72	21	188	227	3,094.0			
1973	198	181	80	(52)	315	340	459	297	320	179	64	(欠)	(2,485.0)			
1974	(欠)	(欠)	(欠)	192	280	323	181	372	362	385	128	170	(2,393.0)			
1975	190	284	197	261	227	582	442	335	90	(419)	(110)	(134)	3,271.0			
1976	(34)	107	146	123	347	329	(391)	(122)	(345)	(271)	(251)	(113)	2,579.0	9月9日 233.0	143日	143日
1977	(245)	101	108	(68.5)	(150.5)	259.5	(187.5)	(84)	292.5	92	192.5	173.5	(1,954.5)	6月14日 59.5	157日	144日
1978	135	115	250	229.5	457.5	230	346	611	286	(389)	505	167	3,721.0	10月13日 118.5	204日	175日
1979	169	147	249.5	289	333	230	169.5	200.5	332.5	316.5	257	68	2,761.5			
1980	(140)	1765	137	500.5	218.5	73.5	136.5	166.5	540.5	163	478	54.5	4,373.5	9月24日 174.5	194日	166日
1981	59.0	183.5	215.5	155.0	305.0	36.0	(261.5)	(117.0)	(90.5)	(279.5)	(168.5)	65.5	1,936.5	10月21日 196	167日	146日
1982	109.5	123.5	158.0	168.0	430.0	241.5	157.5	295.5	303.0	134.0	215.0	277.0	2,612.5	9月23日 248.0	179日	147日
1983	237.5	286.5	458.0	239.5	272.0	312.5	201.5	282.0	316.0	101.0	40.0	104.5	2,851.0	8月26日 163.5	194日	166日
1984	194.0	73.5	222.0	206.0	150.0	162.5	150.5	557.0	163.0	170.5	(178.5)	(98.0)	(2,325.0)	8月18日 298.5	202日	177日
総 計	4,268.3	5,844.3	4,671.6	5,493.0	9,243.8	9,283.4	6,741.6	8,694.3	7,315.6	7,325.5	6,081.3	4,502.0	79,464.7			
年 数	28	28	28	29	30	30	30	30	30	30	30	29				
平 均	152.4	208.7	166.8	189.4	308.1	309.4	224.7	289.8	243.9	244.2	202.7	155.2				

既往最多年降水量 4,373.5mm(昭和 55 年)  
 ♪ 最小年 ♪ 1,704.4mm(昭和3 38 年)  
 ♪ 最多月 ♪ 964.2mm(昭和 34 年 10 月)  
 ♪ 最小月 ♪ 21.0mm(昭和4 47 年 10 月)  
 ♪ 最多日 ♪ mm(昭和 年 日)  
 最多3時間 ♪ mm(昭和 年 日 時~ 日 時)  
 最多1時間 ♪ mm(昭和 年 日 時)

(注) 欠測を含むものは、値を( )で括っている。

対照番号	11	所属名	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	水系	安波川	該当河川名	安波川
観測所名	安波	1/2.5万地形図名	安波	所在地	国頭村字安波		

年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年	最多日量 (月日)	雨天日数	
															≥0.5mm	≥1.0mm
1971	122	52	36	107	63	189	8	309	177	192	432	323	2,010.0			
1972	163	242	59	124	442	351	629	145	74	27	159	168	2,583.0			
1973	(欠)	(欠)	268	382	447	417	286	364	128	60	52	(欠)	(2,404.0)			
1974	66	167	136	247	332	(353)	117	465	329	509	123	126	(2,970.0)			
1975	226	229	274	221	287	571	345	222	66	322	94	114	(2,971.0)	6月18日 195.0	176日	176日
1976	24	(117)	(119)	131	263	439	442	62	361	302	185	62	(2,507.0)	9月9日 198.0	141日	141日
1977	289	78	97	63	93	429	116	79	274	101	153	256	(2,028.0)	12月10日 104.0	149日	149日
1978	110	103	375	314	372	358	366	(529)	311	520	52	192	(3,602.0)	10月14日 194.0	187日	187日
1979	154	(188)	(327)	282	463	183	160	147	442	228	355	74	3,003.0	9月27日 223.0	173日	173日
1980	179	208	138	513	221	104	116	113	511	145	580	48	2,876.0	9月10日 265.0	181日	181日
1981	59	143	250	221	377	82	86	(87)	(78)	221	118	67	1,789.0	10月21日 178.0	130日	130日
1982	100.0	153.0	229.0	(欠)	(欠)	(欠)	5	月	観	測	終	了				
総計	1,492.0	1,680.0	2,308.0	2,605.0	3,360.0	3,476.0	2,671.0	2,522.0	2,751.0	2,677.0	2,303.0	1,430.0	28,743.0			
年数	11	11	12	11	11	11	11	11	11	11	11	10				
平均	135.6	152.7	192.3	236.8	305.5	316.0	242.8	229.3	250.1	238.8	209.4	143.0				

既往最多年降水量 3,602.0mm(昭和 53 年)  
 ♪ 最小年 ♪ 1,789.0mm(昭和 56 年)  
 ♪ 最多月 ♪ 629.0mm(昭和 47 年 7 月)  
 ♪ 最小月 ♪ 8.0mm(昭和 46 年 7 月)  
 ♪ 最多日 ♪ mm(昭和 年 日)  
 最多3時間 ♪ mm(昭和 年 日 時～ 日 時)  
 最多1時間 ♪ mm(昭和 年 日 時)

(注) 欠測を含むものは、値を ( ) で括っている。



村 照 番 号	13	所 属 名	筑泉台 (地域気象観測所)	水 系	安 波 川	該 当 河 川 名	安 波 川
観 測 所 名	与 那 朝 岳	1/2.5万地形図名	辺 土 名	所 在 地	国領村字奥間与那朝岳		

年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	最 多 日 量 (月 日)	雨 天 日 数	
															≥0.5mm	≥1.0mm
1959	197.5	271.1	63.1	662.9	171.0	390.3	222.7	263.2	197.0	1206.1	534.5	130.1	4,310.5			
1960	159.8	36.5	259.9	258.1	343.2	254.7	(133.4)	594.9	133.6	53.0	168.6	181.6	2,577.3			
1961	101.7	230.8	205.7	223.2	449.8	333.8	446.5	217.9	263.9	280.9	226.2	207.9	3,188.3			
1962	190.7	148.2	391.4	266.5	352.3	249.3	266.6	183.5	300.5	307.3	666.2	137.5	3,460.0			
1963	88.6	74.7	115.2	57.0	68.3	137.7	103.5	284.3	198.3	203.5	155.2	248.1	1,734.4			
1964	299.1	176.6	128.9	78.1	656.8	699.1	231.7	274.4	126.2	157.1	79.7	321.6	3,229.3			
1965	142.7	202.1	157.8	197.5	529.8	734.5	34.5	427.0	333.7	180.1	279.3	182.1	3,401.1			
1966	368.3	179.9	218.3	378.5	802.2	392.1	191.0	399.5	506.5	29.7	182.4	369.3	4,017.7			
1967	78.6	185.4	101.1	226.0	251.2	615.4	94.6	308.7	82.9	479.9	119.0	189.7	2,731.6			
1968	157.5	255.7	313.0	136.0	140.4	319.4	162.2	408.8	144.6	64.0	101.3	117.2	2,320.1			
1969	244	223	291	131	762	962	144	375	154	767	197	60	4,310.0			
1970	248	105	353	231	441	279	406	449	238	239	274	413	3,676.0			
1971	(164)	73	100	200	175	169	76	435	180	265	709	408	2,954.0			
1972	249	280	41	143	702	393	875	177	95	44	209	228	3,436.0			
1973	274	197	110	285	336	395	(欠)	(欠)	410	178	102	97	(2,384.0)			
1974	90	194	188	272	326	327	193	459	248	590	160	229	3,276.0			
1975	215	301	292	246	306	558	387	340	149	485	159	184	3,622.0			
1976	52	114	185	150	359	420	390	116	367	286	303	126	2,868.0			
1977	289	130	144	93	126	267	162	84	190	86	224	218	2,013.0			
1978	156	(104)	321	286	504	317	447	757	327	583	98	206	4,106.0			
1979	207	195	285	322	449	272	208	238	393	377	371	89	3,406.0			
1980	224	256	175	594	280	69	168	192	727	164	566	84	3,499.0			
1981	82	183	237	232	352	58	268	143	121	363	(欠)	891	2,930.0			
1982	143	159	196	242	482	288	205	344	344	221	289	369	3,282.0			
1983	294	371	551	341	326	345	256	323	297	100	57	127	3,388.0			
1984	276	137	279	375	276	223	106	744	189	213	256	149	3,223.0			
1																
総 計	4,991.5	4,784.0	5,702.4	6,626.8	9,967.0	9,468.3	6,177.7	8,538.2	6,716.2	7,921.7	6,486.4	5,963.1	83,343.3			
年 数	26	26	26	26	26	26	25	25	26	26	25	26				
平 均	192.0	184.0	219.3	254.9	383.3	364.2	247.1	341.5	258.3	304.7	259.5	229.4				

既往最多年降水量 4,310.5mm(昭和 34 年)  
 ◇ 最小年 ◇ 1,734.4mm(昭和 38 年)  
 ◇ 最多月 ◇ 1,206.1mm(昭和 34 年 10 月)  
 ◇ 最小月 ◇ 41.0mm(昭和 47 年 3 月)  
 ◇ 最多日 ◇ mm(昭和 年 日)  
 最多3時間 ◇ mm(昭和 年 日 時~ 日 時)  
 最多1時間 ◇ mm(昭和 年 日 時)

(注) 欠測を含むものは、値を( )で括っている。





対照番号	16	所属名	沖縄総合事務局 北部ダム事務局	水系	田嘉里川	該当河川名	田嘉里川
観測所名	田嘉里	1/2.5万地形図名	辺土名	所在地	大宜味村字田嘉里1679-24		

年 (西暦年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年	最多日数 (月日)	雨天日数	
															≥0.5mm	≥1.0mm
1976	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)	(299.5)	133.0	426.0	264.0	163.0	93.0	(1,378.5)			
1977	200.5	98.5	115.5	85.5	124.0	324.5	156.0	90.0	280.5	51.5	244.5	171.0	1,942.0	11月17日 123.0	160日	142日
1978	126.0	128.5	294.0	309.0	425.5	228.5	491.0	816.5	363.5	487.5	44.5	176.0	3,890.5	10月14日 142.5	204日	170日
1979	170.0	134.0	259.0	312.0	294.0	217.5	141.5	232.0	305.0	332.0	234.5	85.0	2,716.5	9月27日 149.0	191日	161日
1980	203.0	150.0	150.5	483.5	259.5	54.0	117.0	151.5	373.0	157.0	414.0	67.0	2,580.0	9月10日 184.5	191日	168日
1981	(65.0)	(156.0)	(246.0)	184.0	280.5	46.5	295.0	112.5	76.0	(263.5)	132.5	77.0	(1,934.5)	10月21日 199.5	162日	143日
1982	104.5	120.0	112.0	139.0	415.0	238.5	107.5	261.0	305.0	130.0	236.5	(286.5)	(2,455.5)	9月23日 252.5	171日	150日
1983	221.0	246.0	467.5	306.0	291.5	365.0	246.5	279.0	245.0	79.0	19.0	23.0	2,788.5	8月26日 167.0	185日	157日
1984	172.5	72.0	240.0	223.0	162.5	210.0	71.0	656.5	269.0	94.0	191.0	112.5	2,474.0	8月19日 347.0	199日	170日
総計	1,262.5	1,105.0	1,884.5	2,042.0	2,252.5	1,684.5	1,925.0	2,732.0	2,643.0	1,858.5	1,679.5	1,091.0	22,160.0			
年数	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9				
平均	157.8	138.1	235.6	255.3	281.6	210.6	213.9	303.6	293.7	206.5	186.6	121.2				

既往最多年降水量 3,890.5mm(昭和 53 年)  
 ♪ 最小年 ♪ 1,378.5mm(昭和 51 年)  
 ♪ 最多月 ♪ 656.5mm(昭和 59 年 8 月)  
 ♪ 最小月 ♪ 19.0mm(昭和 58 年 11 月)  
 ♪ 最多日 ♪ mm(昭和 年 日)  
 最多3時間 ♪ mm(昭和 年 日 時— 日 時)  
 最多1時間 ♪ mm(昭和 年 日 時)

(注) 欠測を含むものは、値を( )で括っている。











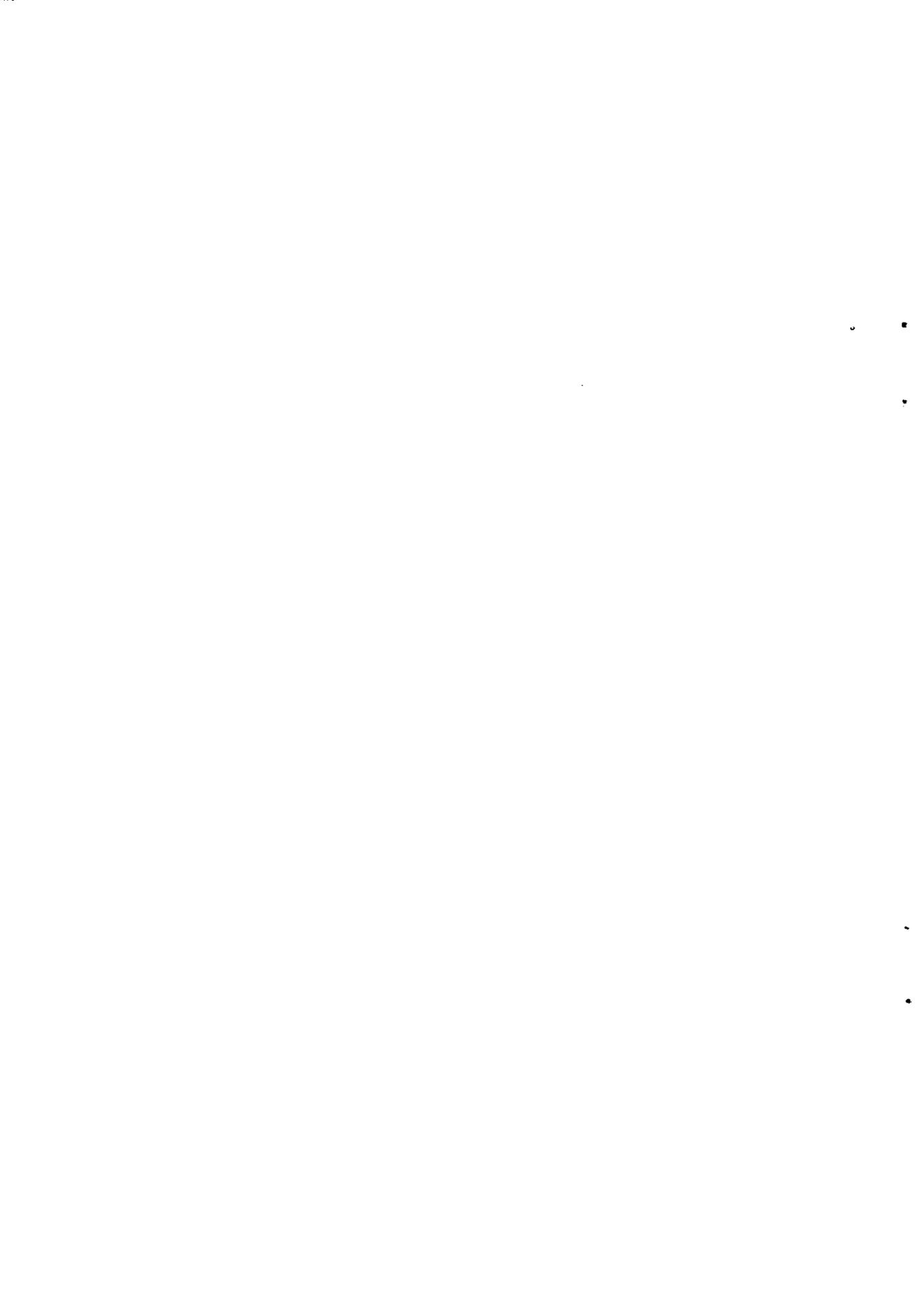










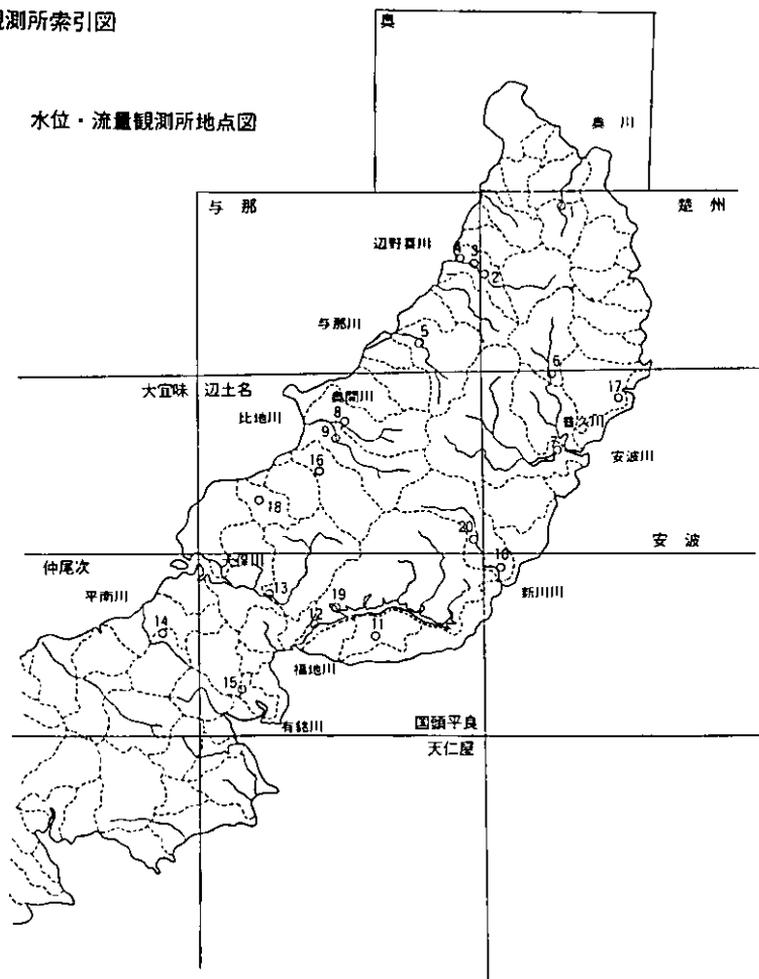


## II 水位流量資料

II-1 水位流量観測所（所属別）総括表

地域別 所属別	地域別					調査地域		
	沖縄本島	宮古	八重山	その他 離島	合計	2級河川	その他河川	合計
沖縄総合事務局 北部ダム事務所	16	0	0	0	16	10	1	11
沖縄総合事務局 農林水産部	43	9	0	2	54	4	4	8
沖縄県土木建設部	11	0	0	0	11	1	0	1
沖縄総合事務局 八重山宮古農林開発事務所		4	8	0	12	0	0	0
宮良川水利事務所（他2）	1	0	4	0	5	0	0	0
合計	71	13	12	2	38	15	5	20

II-2 水位観測所索引図



II-3 水位・流量観測所一覽表

対照 番号	2.5万分1 地形図名	所 属 名	観測所名	水 系 名	第 一 次 支 派 川 名	該 当 河 川 名	所 在 地			観測測器 の 種 類
							市 部	町 村	字 番 地	
1	楚 洲	沖縄総合事務局 農 林 水 産 部	奥 川	奥 川		奥 川	国頭村	字奥		FL-460B型 フロート式 (小笠原)
2	・	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	辺野喜川 (上)	辺野喜川		辺野喜川	国頭村	字辺野喜橋より3.1km上流		水研62型 フロート式 (中浅測器)
3	与 那	沖縄総合事務局 農 林 水 産 部	辺野喜川	辺野喜川		辺野喜川	国頭村	辺野喜東方山地		FL-460B型 フロート式 (小笠原)
4	・	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	辺野喜川 (河口)	辺野喜川		辺野喜川	国頭村	字辺野喜橋より700m上流		水研62型 フロート式 (中浅測器)
5	・	沖縄総合事務局 農 林 水 産 部	与 那 川	与 那 川		与 那 川	国頭村	字与那琉大演習林近く		FL-460B型 フロート式 (小笠原)
6	安 波	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	普 久 川	安 波 川		普 久 川	国頭村	字普久橋脇		水研62型 フロート式 (中浅測器)
7	・	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	安 波 川	安 波 川		安 波 川	国頭村	安波橋より600m上流		・
8	辺 土 名	沖縄総合事務局 農 林 水 産 部	奥 間 川	比 地 川		奥 間 川	国頭村	字比地水揚場附近		FL-460B型 フロート式 (小笠原)
9	・	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	比 地 川	比 地 川		比 地 川	国頭村	字比地		水研62型 フロート式 (中浅測器)
10	高 江	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	高 江 橋	新 川 川		新 川 川	東村	字高江新川原134番地		・
11	国頭・平良	・	古 島 川	古 島 川		古 島 川	東村	字いのかま西方山地		FL-460B型 フロート式 (小笠原)
12	・	・	川 田	福 地 川		福 地 川	東村	字川田		・
13	・	・	大 保 川	大 保 川		大 保 川	東村	企業局ポンプ場より600m上流		水研62型 フロート式 (中浅測器)
14	仲 尾 次	沖縄総合事務局 農 林 水 産 部	平 南 川	平 南 川		平 南 川	名護市	平南揚水場300m上流		FL-460B型 フロート式 (小笠原)
15	国頭・平良	・	慶 佐 次 川	慶 佐 次 川		慶 佐 次 川	東村	字慶佐次西方山地		・
16	辺 土 名	沖 縄 県 水 道 部 河 川 課	田 嘉 里 川	田 嘉 里 川		田 嘉 里 川	国頭村	字田嘉里19-2		・
17	安 波	沖縄総合事務局 農 林 水 産 部 土 地 改 良 課	ウ イ ス 川	幸 地 川		幸 地 川	国頭村	字安田		・
18	辺 土 名	・	大 宜 味 鏡 波 川	鏡 波 川		鏡 波 川	大宜味村	字鏡波		・
19	国頭・平良	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	福 地 ダム	福 地 川		福 地 川	東村	字川田		・
20	辺 土 名	・	新 川 ダム	新 川 川		新 川 川	東村	字高江新川原		・

観測区分及び時刻				河口又は合流点よりの距離 km	流域面積 km <sup>2</sup>	水位標の高 m	観測開始年月日	観測資料保存状況		備考
水位測定時	実流量観測の範囲							期間年	場所	
	低水時	全水位	高水時							
毎時		○		3.80	4.77	6	S48. 5. 2	12	沖縄総合事務局 農林水産部 土地改良課	1)
＊		○		4.47	8.41	147	S48. 5. 1	12	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	2)
＊		○		2.15	10.50	18	S48. 5. 9	7	沖縄総合事務局 農林水産部 土地改良課	1)
＊		○		0.70	11.81	5	S51. 5. 1	8	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	2)
＊		○		1.95	9.42	8	S48. 5. 2	10	沖縄総合事務局 農林水産部 土地改良課	1)
＊		○		58.20	9.00	113	S48. 5. 1	6	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	2)
＊		○		1.85	23.86	5	S48. 5. 1	7	＊	＊
＊		○		2.05	6.21	8	S48. 5. 10	10	沖縄総合事務局 農林水産部 土地改良課	1)
＊		○		2.87	8.88	10	S45. 6. 27	8	沖縄総合事務局 北部ダム事務所	2)
＊		○		0.85	8.86	0.85	S48. 4. 10	5	＊	＊
＊		○		4.15	3.43	38	S54. 4. 20	6	＊	1)
＊		○		2.17		6			＊	＊
＊		○		5.10	14.88	8	S49. 4. 1	6	＊	2)
＊		○		2.12	6.07	2		10	沖縄総合事務局 農林水産部 土地改良課	1)
＊		○		2.32	6.01	8	S48. 5. 12	8	＊	＊
＊		○		1.42	6.18	68	S50. 4. 1	5	沖縄県土木建築部 河川課	3)
＊		○		2.59			S56	3	沖縄総合事務局 農林水産部 土地改良課	1)
＊		○		3.71			S56	3	＊	＊
＊		○		32.00			S58. 12	1	沖縄総合事務局 北部ダム統合管理 事務所資料	4)
＊		○		7.40			S58. 7	1	＊	＊

1) 河川開発調査水文観測報告書 2) 沖縄北部水位流量雨量年表 3) 水文観測業務報告書 4) 北部ダム総監事務所資料





対照番号	3	所属名	沖縄総合事務局 森林水産部	水系	辺野喜川	該当河川名 及び流域面積	10.50km <sup>2</sup>
観測所名	辺野喜川	1/2.5万地形図名	与那那	所在地	国頭村辺野喜東方山地		

年 (西暦年)	流量 ml/sec(水位 cm)							年総量 ×10 <sup>6</sup> ml	比流量 ml/sec/100km <sup>2</sup>							流出高 cm
	最大	洪水	平水	低水	濁水	最小	年平均		最大	洪水	平水	低水	濁水	最小	年平均	
昭和47年(1972)																
・48年(1973)	資料が整理されていない(月別水位資料はあり)															
・49年(1974)																
・50年(1975)	65.49	0.98	0.61	0.39	0.17	0.14	0.65	23.57	633.37	9.48	5.90	3.77	1.64	1.35	6.29	(10.34) 2,279.5
・51年(1976)	74.13	0.63	0.36	0.22	0.14	0.10	0.69	25.21	706.00	6.00	3.43	2.10	1.33	0.95	6.57	(10.50) 2,400.9
・52年(1977)	15.51	0.45	0.23	0.16	0.10	0.07	0.40	13.97	147.71	4.29	2.19	1.52	0.95	0.67	3.81	(10.50) 1,330.5
・53年(1978)	74.40	1.19	0.70	0.47	0.30	0.25	1.08	39.76	708.57	11.33	6.67	4.48	2.86	2.38	10.28	(10.50) 3,786.7
・54年(1979)	36.23	0.98	0.66	0.40	0.30	0.25	0.93	33.94	345.05	9.33	6.29	3.81	2.86	2.38	8.86	(10.50) 3,232.4
・55年(1980)	71.20	0.72	0.43	0.28	0.15	0.10	0.76	26.89	678.10	6.86	4.10	2.67	1.43	0.95	7.24	(10.50) 2,560.9
・56年(1981)	23.40	0.43	0.28	0.16	0.00	0.02	0.42	14.32	222.86	4.10	2.67	1.52	0.00	0.19	4.00	(10.50) 1,363.8
・57年(1982)			観	測	中	止										
既往合計	360.36	5.38	3.27	2.08	1.16	0.93	4.93	177.66	3,441.66	51.39	31.25	19.87	11.07	18.87	47.05	16,954.7
調査年数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
既往平均	51.48	0.77	0.47	0.30	0.11	0.13	0.70	25.38	491.67	7.34	4.46	2.28	1.58	1.27	6.72	2,422.1

( ) 中の数値は水位を表わす





















対照番号	15	所属名	沖縄総合事務局 農林水産部	水系	慶佐次川	該当河川名 及び流域面積	6.01km <sup>2</sup>
観測所名	慶佐次川	1/2.5万地形図名	園頭・平良	所在地	東村字慶佐次西方山地		

年 (西暦年)	流量 m <sup>3</sup> /sec(水位 cm)							年総量 ×10 <sup>4</sup> m <sup>3</sup>	比流量(m <sup>3</sup> /sec/100km <sup>2</sup> )							流出高 mm
	最大	昼水	平水	低水	濁水	最小	年平均		最大	昼水	平水	低水	濁水	最小	年平均	
昭和47年(1972)																
※48年(1973)	観測開始(月別観測資料はあり)															
※49年(1974)																
※50年(1975)	26.50	0.16	0.10	0.07	(-)	0.04	0.15	5.06	481.82	2.91	1.82	1.27	(-)	0.73	2.73	(5.50) 988.3
※51年(1976)	18.97	0.09	0.06	0.04	(-)	0.17	0.31	9.68	370.51	1.76	1.17	0.78	(-)	3.32	6.05	(5.12) 1,890.6
※52年(1977)	9.36	0.14	0.09	0.06	0.02	0.00	0.17	5.56	182.81	2.73	1.76	1.17	0.39	0.00	3.32	(5.12) 1,085.9
※53年(1978)	6.61	0.32	0.24	0.20	0.15	0.13	0.32	10.95	129.10	6.25	4.69	3.91	2.93	2.54	6.25	(5.12) 2,138.7
※54年(1979)			観測中止													
※55年(1980)								55年9月以降観測開始								
※56年(1981)	7.36	0.06	0.04	0.02	0.01	0.00	0.06	2.13	151.44	1.23	0.82	0.41	0.21	0.00	1.23	(4.86) 416.0
※57年(1982)	9.15	0.20	0.10	0.02	0.01	0.01	0.12	4.06	152.22	3.33	1.66	0.33	0.17	0.17	2.00	(6.01) 675.5
※58年(1983)	38.28	0.21	0.12	0.05	0.03	0.03	0.16	5.84	636.94	3.49	2.00	0.83	0.50	0.50	2.66	(6.01) 971.7
※59年(1984)	26.47	0.09	0.06	0.04	0.01	0.00	0.13	3.02	440.43	1.50	1.00	0.67	0.17	0.00	2.16	(6.01) 502.5
既往合計	142.7	1.27	0.81	0.50	0.23	0.38	1.42	46.30	2,545.27	23.20	14.92	9.37	4.37	7.26	26.40	8,669.2
調査年数	8	8	8	8	6	8	8	8	8	8	8	8	6	8	8	8
既往平均	17.8	0.16	0.10	0.06	0.04	0.00	0.18	5.79	318.16	2.90	1.87	1.17	0.73	0.91	3.30	866.9

( ) の中の数値は水位を表わす









Ⅲ-3 水質調査地点一覧表

対照 番号	2.5万分1 地形図名	調査地点名	水系名	該当 河川名	所 在 地	河口又は 合流点よ りの距離km	観測 関係	採水所名
1	国頭・平良	福地川河口	福地川	福地川	国頭村字川田	0.8	年6回	沖縄県環境保健部
5	〃	福地ダム	〃	〃	〃	3.7	〃	〃
7	〃	ダム中央	〃	〃	国頭村字宮城	7.1	〃	〃
4	〃	福地ダム	〃	〃	国頭村字川田	3.8	年10回	北部ダム統合管理事務所
6	〃	〃	〃	〃	国頭村字宮城	7.1	〃	〃
8	〃	〃	〃	〃	国頭村字高江	9.0	〃	〃
3	〃	福地ダム(下流)	〃	〃	国頭村字川田	3.2	〃	〃
2	〃	〃	〃	〃	〃	2.4	〃	〃
9	高江	新川川下流の高江橋	新川川	新川川	国頭村字高江下流の高江橋	0.8	年6回	沖縄県環境保健部
12	辺土名	新川ダム	〃	〃	国頭村字高江原	4.1	〃	〃
11	〃	〃	〃	〃	〃	3.6	年10回	北部ダム統合管理事務所
13	〃	〃	〃	〃	〃	5.2	〃	〃
14	〃	〃	〃	〃	〃	5.3	〃	〃
10	〃	新川川(ダム下流)	〃	〃	〃	2.9	〃	〃
15	安波	安波大橋	安波川	安波川	国頭村字安波下流の安波大橋	0.9	年6回	沖縄県環境保健部
16	〃	安波中学校後方	〃	〃	安波中学校後方	2.0	〃	〃
18	〃	安波ダム(ダムサイト)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原	3.8	年10回	北部ダム統合管理事務所
20	〃	〃(ダム上流)	〃	〃	〃	6.2	〃	〃
19	〃	〃(床川)	〃	(床川)	〃 床川下流	4.9	〃	〃
17	〃	〃(下流)	〃	(安波川)	国頭村字安波川安波ダム下流	3.4	〃	〃
21	安波	御拝橋	安波川	普及川	国頭村字安波御拝橋	0.9	年6回	沖縄県環境保健部
22	〃	御拝橋上流の沢	〃	〃	国頭村字安波御拝橋上流の沢	2.4	〃	〃
24	〃	普及川ダム(ダムサイト)	〃	〃	国頭村字安田原道原	3.8	年12回	北部ダム統合管理事務所
25	楚洲	〃(上流)	〃	〃	〃	6.9	〃	〃
23	安波	普及川ダム下流	〃	〃	〃	3.6	〃	〃
26	与那	辺野喜橋	辺野喜川	辺野喜川	国頭村字辺野喜	0.2	年6回	沖縄県環境保健部
27	〃	水位計設地点	〃	〃	〃	0.7	〃	〃
28	楚洲	ダム建設計画地点	〃	〃	国頭村字辺野喜大川山	3.1	〃	〃



Ⅲ-4 水質分析資料(生活環境項目)

対照 番号	2.5万分1 地形図名	所 属 名	調 査 地 点 名	水 系 名	該 河 川 名	当 所 在 地	環境基準 類 型
1	国頭・平良	沖 縄 県	福地川河口	福地川	福地川	国頭村字川田	—
5	〃	〃	福地ダム	〃	〃	〃	A
7	〃	〃	ダム中央	〃	〃	国頭村字宮城	A
4	〃	沖縄総合事務局	福地ダム(表層)	〃	〃	国頭村字川田	A
〃	〃	〃	〃(中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃(深層)	〃	〃	〃	A
6	〃	〃	〃(表層)	〃	〃	国頭村字宮城	A
〃	〃	〃	〃(中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃(深層)	〃	〃	〃	A
8	〃	〃	〃	〃	〃	国頭村字高江	A
3	〃	〃	〃	〃	〃	国頭村字川田	A
2	〃	〃	福地川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
9	高江	沖 縄 県	新川下流の高江橋	新川川	新川川	国頭村字高江下流の高江橋	A
12	辺土名	〃	新川ダム	〃	〃	国頭村字高江原	A
11	〃	沖縄総合事務局	〃(表層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃(中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃(深層)	〃	〃	〃	A
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
10	〃	〃	新川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
15	安波	沖 縄 県	安波大橋	安波川	安波川	国頭村字安波川下流の安波大橋	B
16	〃	〃	安波中学校後方	〃	〃	国頭村字安波小中学校後方	A
18	〃	沖縄総合事務局	安波ダム(表層)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原	A
〃	〃	〃	〃(中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃(深層)	〃	〃	〃	A
20	〃	〃	安波ダム上流	〃	〃	〃	A
19	〃	〃	〃床川	〃	〃	〃	A
17	〃	〃	安波川(ダム下流)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原安波ダム下流	A
21	安波	沖 縄 県	御拝橋	安波川	普及川	国頭村字安波御拝橋	B
22	〃	〃	御拝橋上流の沢	〃	〃	国頭村字安波御拝橋上流の沢	A
24	〃	沖縄総合事務局	普及川ダム(表層)	〃	〃	国頭村字安田原道原	A
〃	〃	〃	〃(中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃(深層)	〃	〃	〃	A
25	楚洲	〃	〃上流	〃	〃	〃	A
23	安波	〃	〃下流	〃	〃	〃	A
26	与那	沖 縄 県	辺野喜橋	辺野喜川	辺野喜川	国頭村字辺野喜	A
27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
28	楚洲	〃	〃	〃	〃	国頭村字辺野喜大川山	A

PH							DO ppm						
53	54	55	56	57	58	59	53	54	55	56	57	58	59
7.2~8.0	7.2~7.8	7.5~7.7	7.6~8.5	7.8~8.6	7.1~8.7	8.1~8.7	7.1	7.6	8.5	9.5	8.8	8.9	8.5
7.0~7.8	7.1~7.7	7.1~8.1	7.0~8.1	6.7~8.4	6.9~7.8	7.1~7.6	7.5	8.5	8.8	8.0	7.8	7.9	8.0
7.0~8.0	7.0~8.0	6.7~8.3	7.1~8.2	6.8~8.0	7.0~7.6	7.2~7.5	7.6	8.8	8.4	8.5	8.7	8.1	8.0
					6.9~7.8	7.1~8.0						7.9	8.0
					6.3~7.9	6.8~7.2						6.0	6.5
					6.4~7.5	6.7~7.4						3.7	3.4
					7.0~7.6	7.1~7.5						8.1	8.0
					6.3~7.4	6.5~7.2						5.4	5.8
					6.3~7.3	6.7~7.4						3.0	2.1
					7.0~8.1	7.0~7.7						9.0	8.0
					7.1~8.7	7.3~8.4						9.0	9.3
						6.5~7.3							6.4
7.7~8.4	7.8~8.1	7.8~8.4	8.0~8.6	7.5~8.4	7.5~8.2	7.7~8.3	8.9	9.8	10.0	9.6	9.2	9.0	8.9
7.2~8.4	7.0~7.5	7.1~7.8	6.9~8.1	6.6~7.4	6.5~7.4	6.7~7.4	8.5	8.5	8.5	8.4	8.2	8.1	7.7
					6.5~7.4	6.7~7.5						8.1	7.6
					6.1~7.2	6.3~7.3						5.1	5.1
					6.2~7.1	6.1~7.2						2.9	1.8
					6.7~7.6	6.9~8.4						8.5	9.0
					7.1~7.6	7.1~8.3						9.6	9.1
					7.6~8.2	—						9.0	—
7.4~8.3	7.0~8.2	7.5~8.3	7.3~7.8	7.5~8.1	7.5~8.2	7.6~8.3	8.7	8.5	9.0	7.6	7.8	7.9	7.5
7.7~8.2	7.5~8.1	8.0~8.6	7.5~9.0	7.7~8.2	7.3~9.0	7.8~8.9	9.0	9.4	10.0	9.3	8.3	9.7	9.2
					6.6~7.7	7.0~8.1						7.5	8.4
					6.4~7.2	6.7~7.1						5.5	5.2
					6.4~7.0	6.5~7.0						2.6	1.8
					7.1~7.8	6.8~7.9						9.2	9.2
					7.0~7.4	7.0~7.5						9.3	8.9
					7.4~8.7	7.1~7.9						9.5	8.9
7.5~8.3	7.4~7.9	7.6~8.3	7.7~8.2	7.6~7.9	7.4~7.9	7.7~7.9	8.6	9.7	9.4	8.9	8.2	8.8	8.3
7.6~8.0	7.4~8.0	7.8~8.4	7.9~8.5	7.5~8.0	7.5~7.9	7.7~8.2	8.8	10.0	9.7	9.3	8.6	9.1	8.6
					6.8~7.8	7.1~8.1						8.1	8.7
					6.4~7.1	6.3~7.6						5.2	4.9
					6.3~7.0	6.5~7.5						2.7	1.5
					7.0~8.5	7.5~8.1						9.6	9.0
					7.0~7.8	7.6~8.2						9.1	7.7
					7.1~8.1	7.6~8.1			9.1	8.4	7.7	8.5	7.9
		7.1~7.9	7.2~8.0	7.5~8.0	8.1~9.0	7.9~8.5			9.4	9.1	8.2	9.5	8.9
		7.0~8.0	7.0~9.0	7.5~7.9	7.1~7.6	7.4~7.7			9.7	9.4	8.6	9.1	8.3
		7.0~8.1	7.2~7.4	7.3~7.9									

対照 番号	2.5万分1 地形図名	所 属 名	調 査 地 点 名	水 系 名	該 河 川 名	当 所 在 地	環境基準 類 型
1	国頭・平良	沖 縄 県	福 地 川 河 口	福 地 川	福 地 川	国頭村字川田	—
5	〃	〃	福 地 ダム	〃	〃	〃	A
7	〃	〃	ダ ム 中 央	〃	〃	国頭村字宮城	A
4	〃	沖縄総合事務局	福 地 ダム(表層)	〃	〃	国頭村字川田	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
6	〃	〃	〃 (表層)	〃	〃	国頭村字宮城	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
8	〃	〃	〃	〃	〃	国頭村字高江	A
3	〃	〃	〃	〃	〃	国頭村字川田	A
2	〃	〃	福 地 川 ダム 下 流	〃	〃	〃	A
9	高 江	沖 縄 県	新 川 下 流 の 高 江 橋	新 川 川	新 川 川	国頭村字高江下流の高江橋	A
12	辺 土 名		新 川 ダ ム	〃	〃	国頭村字高江原	A
11	〃	沖縄総合事務局	〃 (表層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
10	〃	〃	新 川 川 (ダ ム 下 流)	〃	〃	〃	A
15	安 波	沖 縄 県	安 波 大 橋	安 波 川	安 波 川	国頭村字安波下流の安波大橋	B
16	〃	〃	安 波 中 学 校 後 方	〃	〃	国頭村安波小中学校後方	A
18	〃	沖縄総合事務局	安 波 ダ ム (表層)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
20	〃	〃	安 波 ダ ム 上 流	〃	〃	〃	A
19	〃	〃	〃 床 川	〃	〃	国頭村字安波床川下流	A
17	〃	〃	安 波 川 (ダ ム 下 流)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原安波ダム下流	A
21	安 波	沖 縄 県	御 拝 橋	安 波 川	普 久 川	国頭村字安波御拝橋	B
22	〃	〃	御 拝 橋 上 流 の 沢	〃	〃	国頭村字安波御拝橋上流の沢	A
24	〃	沖縄総合事務局	普 久 川 ダ ム (表層)	〃	〃	国頭村字安田原道原	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
25	楚 洲	〃	〃 上 流	〃	〃	〃	A
23	安 波	〃	〃 下 流	〃	〃	〃	A
26	与 那	沖 縄 県	辺 野 喜 橋	辺 野 喜 川	辺 野 喜 川	国頭村字辺野喜	A
25	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
28	楚 洲	〃	〃	〃	〃	国頭村字辺野喜大山	A



対照 番号	2.5万分1 地形図名	所 属 名	調 査 地 点 名	水 系 名	該 河 川 名	当 所 在 地	環 境 基 準 類 型
1	国頭-平良	沖 縄 県	福 地 川 河 口	福 地 川	福 地 川	国頭村字川田	—
5	〃	〃	福 地 ダム	〃	〃	〃	A
7	〃	〃	ダ ム 中 央	〃	〃	国頭村字宮城	A
4	〃	沖縄総合事務局	福 地 ダム(表層)	〃	〃	国頭村字川田	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
6	〃	〃	〃 (表層)	〃	〃	国頭村字宮城	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
8	〃	〃	〃	〃	〃	国頭村字高江	A
3	〃	〃	〃	〃	〃	国頭村字川田	A
2	〃	〃	福地川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
9	高 江	沖 縄 県	新川下流の高江橋	新 川 川	新 川 川	国頭村字高江下流の高江橋	A
12	辺 土 名	〃	新 川 ダ ム	〃	〃	国頭村字高江原	A
11	〃	沖縄総合事務局	〃 (表層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
10	〃	〃	新川川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
15	安 波	沖 縄 県	安 波 大 橋	安 波 川	安 波 川	国頭村字安波下流の安波大橋	B
16	〃	〃	安波中学校後方	〃	〃	国頭村字安波小中学校後方	A
18	〃	沖縄総合事務局	安 波 ダ ム(表層)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
20	〃	〃	〃 (上流)	〃	〃	〃	A
19	〃	〃	〃 床川	〃	〃	〃 床川下流	A
17	〃	〃	安波川(ダム下流)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原安波ダム下流	A
21	安 波	沖 縄 県	御 拝 橋	安 波 川	普 久 川	国頭村字安波御拝橋	B
22	〃	〃	御拝橋上流の沢	〃	〃	国頭村字安波御拝橋上流の沢	A
24	〃	沖縄総合事務局	普久川ダム(表層)	〃	〃	国頭村字安田原道原	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
25	楚 洲	〃	〃 上流	〃	〃	〃	A
23	安 波	〃	〃 下流	〃	〃	〃	A
26	与 那	沖 縄 県	辺 野 喜 橋	辺 野 喜 川	辺 野 喜 川	国頭村字辺野喜	A
27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
28	楚 洲	〃	〃	〃	〃	国頭村字辺野喜大川山	A

SSppm							大腸菌群数 (MPN/100ml)						
53	54	55	56	57	58	59	53	54	55	56	57	58	59
32	20	9	20	81	220	11	$2.1 \times 10^3$	$1.4 \times 10^3$	$3.4 \times 10^2$	$1.3 \times 10^3$	$1.3 \times 10^3$	$1.1 \times 10^3$	$3.1 \times 10^2$
2	2	2	2	2	1	1	$7.7 \times 10^2$	$3.0 \times 10$	$2.3 \times 10$	$4.2 \times 10$	$1.8 \times 10^2$	$2.6 \times 10$	$2.4 \times 10$
2	2	3	3	2	2	1	$1.2 \times 10^3$	$2.9 \times 10$	$1.6 \times 10^2$	$1.1 \times 10^2$	$4.3 \times 10^2$	$2.7 \times 10$	$3.1 \times 10$
					1.1	1.1						$2.5 \times 10$	$2.5 \times 10$
					1.3	1.1						$2.3 \times 10$	$2.2 \times 10$
					3.8	2.8						$2.6 \times 10$	4
					1.5	1.0						$2.6 \times 10$	$2.2 \times 10$
					2.1	2.1						$4.6 \times 10$	$8.6 \times 10$
					6.5	11.5						$4.6 \times 10$	$1.1 \times 10$
					2.0	2.8						$5.1 \times 10$	$1.2 \times 10$
					222.8	3.8						$1.1 \times 10^3$	$4.1 \times 10^2$
						1.2							7
4	2	6	1	4	1	3	$1.7 \times 10^3$	$5.5 \times 10^2$	$1.0 \times 10^3$	$1.1 \times 10^3$	$1.9 \times 10^3$	$4.3 \times 10^2$	$1.5 \times 10^3$
4	5	12	3	4	3	3	$1.5 \times 10^3$	$4.8 \times 10^2$	$1.8 \times 10^3$	$1.8 \times 10^2$	$3.0 \times 10^2$	$1.2 \times 10^2$	$3.7 \times 10^2$
					2.8	2.4						$1.2 \times 10^2$	$2.1 \times 10^2$
					3.8	4.2						$1.6 \times 10^2$	$1.2 \times 10^2$
					23.6	15.1						$9.0 \times 10$	$7.2 \times 10$
					3.0	1.5						$9.7 \times 10$	$5.0 \times 10^2$
					0.4	4.5						$2.8 \times 10^2$	$3.7 \times 10^2$
					1.0	—						$4.3 \times 10^2$	—
9	5	27	17	48	9	3	$2.7 \times 10^4$	$3.6 \times 10^3$	$2.3 \times 10^3$	$6.8 \times 10^3$	$9.9 \times 10^3$	$1.2 \times 10^3$	$1.5 \times 10^3$
7	2	40	18	35	2	3	$1.3 \times 10^4$	$2.1 \times 10^3$	$1.7 \times 10^3$	$3.4 \times 10^3$	$7.4 \times 10^3$	$1.0 \times 10^3$	$3.7 \times 10^2$
					3.5	2.2						$7.7 \times 10^2$	$6.8 \times 10$
					5.7	2.2						$4.8 \times 10^2$	$7.7 \times 10$
					35.7	41.7						$1.6 \times 10^2$	$7.5 \times 10$
					2.7	0.4						$6.9 \times 10^2$	$7.7 \times 10$
					2.5	4.6						$5.3 \times 10^2$	$9.5 \times 10^2$
					8.0	3.3						$1.9 \times 10^3$	$1.2 \times 10^2$
4	6	3	6	5	2	4	$3.8 \times 10^3$	$6.3 \times 10^2$	$3.9 \times 10^2$	$1.9 \times 10^3$	$1.6 \times 10^2$	$1.0 \times 10^3$	$2.9 \times 10^3$
2	2	2	2	3	2	3	$1.8 \times 10^3$	$6.8 \times 10^2$	$3.9 \times 10^3$	$2.9 \times 10^2$	$7.6 \times 10$	$2.4 \times 10^2$	$4.6 \times 10^2$
					3.5	3.8						$1.8 \times 10^3$	$1.6 \times 10^2$
					3.6	5.7						$2.6 \times 10^2$	$1.3 \times 10^2$
					22.9	18.7						$1.3 \times 10^2$	$3.7 \times 10$
					22.5	4.9						$4.5 \times 10^3$	$9.8 \times 10^2$
					23.4	1.4						$4.2 \times 10^3$	$4.2 \times 10^2$
		1	36	61	13	9			$2.3 \times 10^3$	$9.4 \times 10^3$	$9.7 \times 10^2$	$1.3 \times 10^4$	$3.4 \times 10^3$
		1	51	15	21	6			$1.4 \times 10^2$	$1.1 \times 10^3$	$1.1 \times 10^2$	$2.5 \times 10^3$	$1.6 \times 10^3$
		1	1	3	9	4			$1.2 \times 10^3$	$2.8 \times 10^2$	$6.7 \times 10$	$4.0 \times 10^4$	$5.8 \times 10^3$

対照 番号	2.5万分1 地形図名	所 属 名	調 査 地 点 名	水 系 名	該 河 川 名	当 所 在 地	環 境 基 準 類 型
1	国頭・平良	沖 縄 県	福 地 川 河 口	福 地 川	福 地 川	国頭村字川田	—
5	〃	〃	福 地 ダ ム	〃	〃	〃	A
7	〃	〃	ダ ム 中 央	〃	〃	国頭村字宮城	A
4	〃	沖縄総合事務局	福 地 ダ ム (表 層)	〃	〃	国頭村字川田	A
〃	〃	〃	〃 (中 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深 層)	〃	〃	〃	A
6	〃	〃	〃 (表 層)	〃	〃	国頭村字宮城	A
〃	〃	〃	〃 (中 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深 層)	〃	〃	〃	A
8	〃	〃	〃	〃	〃	国頭村字高江	A
3	〃	〃	〃 (下 流)	〃	〃	国頭村字川田	A
2	〃	〃	福地川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
9	高 江	沖 縄 県	新川下流の高江橋	新 川 川	新 川 川	国頭村字高江下流の高江橋	A
2	辺 土 名	〃	新 川 ダ ム	〃	〃	国頭村字高江原	A
11	〃	沖縄総合事務局	〃 (表 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (中 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深 層)	〃	〃	〃	A
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
10	〃	〃	新川川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
15	安 波	沖 縄 県	安 波 大 橋	安 波 川	安 波 川	国頭村字安波下流の安波大橋	B
16	〃	〃	安波中学校後方	〃	〃	国頭村字安波小中学校後方	A
18	〃	沖縄総合事務局	安 波 ダ ム (表 層)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原	A
〃	〃	〃	〃 (中 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深 層)	〃	〃	〃	A
20	〃	〃	〃 (上 流)	〃	〃	〃	A
19	〃	〃	〃 (床 川)	〃	〃	〃 床川下流	A
17	〃	〃	安波川(ダム下流)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原安波ダム下流	A
21	安 波	沖 縄 県	御 拝 橋	安 波 川	普 久 川	国頭村字安波御拝橋	B
22	〃	〃	御拝橋上流の沢	〃	〃	国頭村字安波御拝橋上流の沢	A
24	〃	沖縄総合事務局	普久川ダム(表層)	〃	〃	国頭村字安田原道原	A
〃	〃	〃	〃 (中 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深 層)	〃	〃	〃	A
25	楚 洲	〃	〃 (上 流)	〃	〃	〃	A
23	安 波	〃	〃 (下 流)	〃	〃	〃	A
26	与 那	沖 縄 県	辺 野 喜 橋	辺 野 喜 川	辺 野 喜 川	国頭村字辺野喜	A
27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
28	楚 洲	〃	〃	〃	〃	国頭村字辺野喜大川山	A



対照 番号	2.5万分1 地形図名	所 属 名	調 査 地 点 名	水 系 名	該 当 河 川 名	所 在 地	環境基準 類 型
1	国頭・平良	沖 縄 県	福 地 川 河 口	福 地 川	福 地 川	国頭村字川田	—
5	〃	〃	福 地 ダ ム	〃	〃	〃	A
7	〃	〃	ダ ム 中 央	〃	〃	国頭村字宮城	A
4	〃	沖縄総合事務局	福 地 ダ ム (表層)	〃	〃	国頭村字川田	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
6	〃	〃	〃 (表層)	〃	〃	国頭村字宮城	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
8	〃	〃	〃	〃	〃	国頭村字高江	A
3	〃	〃	〃 (下流)	〃	〃	国頭村字川田	A
2	〃	〃	福地川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
9	高 江	沖 縄 県	新川下流の高江橋	新 川 川	新 川 川	国頭村字高江下流の高江橋	A
2	辺 土 名	〃	新 川 ダ ム	〃	〃	国頭村字高江原	A
11	〃	沖縄総合事務局	〃 (表層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
10	〃	〃	新川川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
15	安 波	沖 縄 県	安 波 大 橋	安 波 川	安 波 川	国頭村字安波下流の安波大橋	B
16	〃	〃	安波中学校後方	〃	〃	国頭村安波小中学校後方	A
18	〃	沖縄総合事務局	安 波 ダ ム (表層)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
20	〃	〃	安 波 ダ ム 上 流	〃	〃	〃	A
19	〃	〃	〃 床川	〃	〃	〃 床川下流	A
17	〃	〃	安波川(ダム下流)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原安波ダム下流	A
21	安 波	沖 縄 県	御 拝 橋	安 波 川	普 久 川	国頭村字安波御拝橋	B
22	〃	〃	御拝橋上流の沢	〃	〃	国頭村字安波御拝橋上流の沢	A
24	〃	沖縄総合事務局	普久川ダム(表層)	〃	〃	国頭村字安田原道原	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
25	楚 洲	〃	〃 上流	〃	〃	〃	A
23	安 波	〃	〃 下流	〃	〃	〃	A
26	与 那	沖 縄 県	辺 野 喜 橋	辺 野 喜 川	辺 野 喜 川	国頭村字辺野喜	A
27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
28	楚 洲	〃	〃	〃	〃	国頭村字辺野喜大川山	A



対照 番号	2.5万分1 地形図名	所 属 名	調 査 地 点 名	水 系 名	該 河 川 名	当 所 在 地	環境基準 類 型
1	国頭・平良	沖 縄 県	福 地 川 河 口	福 地 川	福 地 川	国頭村字川田	—
5	*	*	福 地 ダム	*	*	*	A
7	*	*	ダム 中 央	*	*	国頭村字宮城	A
4	*	沖縄総合事務局	福 地 ダム(表層)	*	*	国頭村字川田	A
*	*	*	* (中層)	*	*	*	A
*	*	*	* (深層)	*	*	*	A
6	*	*	* (表層)	*	*	国頭村字宮城	A
*	*	*	* (中層)	*	*	*	A
*	*	*	* (深層)	*	*	*	A
8	*	*	*	*	*	国頭村字高江	A
3	*	*	* (下流)	*	*	国頭村字川田	A
2	*	*	福地川(ダム下流)	*	*	*	
9	高 江	沖 縄 県	新川下流の高江橋	新 川 川	新 川 川	国頭村字高江下流の高江橋	B
2	辺 土 名	*	新 川 ダム	*	*	国頭村字高江原	A
11	*	沖縄総合事務局	* (表層)	*	*	*	A
*	*	*	* (中層)	*	*	*	A
*	*	*	* (深層)	*	*	*	A
13	*	*	*	*	*	*	A
14	*	*	*	*	*	*	A
10	*	*	新川川(ダム下流)	*	*	*	A
15	安 波	沖 縄 県	安 波 大 橋	安 波 川	安 波 川	国頭村字安波下流の安波大橋	B
16	*	*	安波中学校後方	*	*	国頭村安波中学校後方	A
18	*	沖縄総合事務局	安波ダム(表層)	*	*	国頭村字安波川瀬原	A
*	*	*	* (中層)	*	*	*	A
*	*	*	* (深層)	*	*	*	A
20	*	*	安波ダム上流	*	*	*	A
19	*	*	* 床川	*	*	* 床川下流	A
17	*	*	安波川(ダム下流)	*	*	国頭村字安波川瀬原安波ダム下流	A
21	安 波	沖 縄 県	御 拝 橋	安 波 川	普 久 川	国頭村字安波御拝橋	B
22	*	*	御拝橋上流の沢	*	*	国頭村字安波御拝橋上流の沢	A
24	*	沖縄総合事務局	普久川ダム(表層)	*	*	国頭村字安田原道原	A
*	*	*	* (中層)	*	*	*	A
*	*	*	* (深層)	*	*	*	A
25	楚 洲	*	* 上流	*	*	*	A
23	安 波	*	* 下流	*	*	*	A
26	与 那	沖 縄 県	辺 野 喜 橋	辺 野 喜 川	辺 野 喜 川	国頭村字辺野喜	A
27	*	*	*	*	*	*	A
28	楚 洲	*	*	*	*	国頭村字辺野喜大川山	A

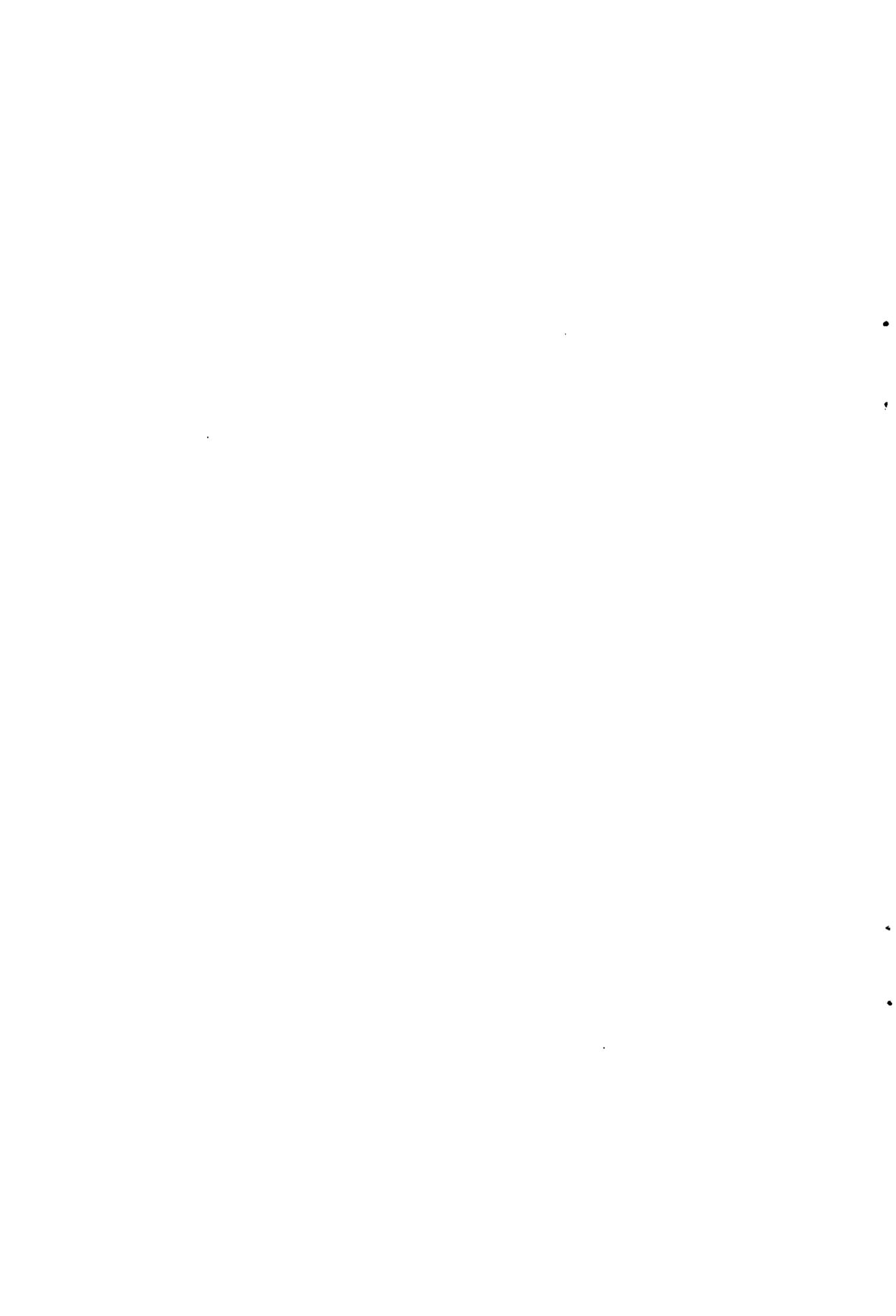


対照 番号	2.5万分1 地形図名	所 属 名	調 査 地 点 名	水 系 名	該 河 川 名	当 所 在 地	環 境 基 準 類 型
1	国頭・平良	沖 縄 県	福 地 川 河 口	福 地 川	福 地 川	国頭村字川田	—
5	〃	〃	福 地 ダ ム	〃	〃	〃	A
7	〃	〃	ダ ム 中 央	〃	〃	国頭村字宮城	A
4	〃	沖縄総合事務局	福 地 ダ ム (表 層)	〃	〃	国頭村字川田	A
〃	〃	〃	〃 (中 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深 層)	〃	〃	〃	A
6	〃	〃	〃 (表 層)	〃	〃	国頭村字宮城	A
〃	〃	〃	〃 (中 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深 層)	〃	〃	〃	A
8	〃	〃	〃	〃	〃	国頭村字高江	A
3	〃	〃	〃 (下 流)	〃	〃	国頭村字川田	A
2	〃	〃	福地川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
9	高 江	沖 縄 県	新川下流高江橋	新 川 川	新 川 川	国頭村字高江下流の高江橋	B
2	辺 土 名	〃	新 川 ダ ム	〃	〃	国頭村字高江原	A
11	〃	沖縄総合事務局	〃 (表 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (中 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深 層)	〃	〃	〃	A
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
10	〃	〃	新川川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
15	安 波	沖 縄 県	安 波 大 橋	安 波 川	安 波 川	国頭村字安波下流の安波大橋	B
16	〃	〃	安波中学校後方	〃	〃	国頭村安波小中学校後方	A
18	〃	沖縄総合事務局	安 波 ダ ム (表 層)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原	A
〃	〃	〃	〃 (中 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深 層)	〃	〃	〃	A
20	〃	〃	安 波 ダ ム 上 流	〃	〃	〃	A
19	〃	〃	〃 床 川	〃	〃	〃 床川下流	A
17	〃	〃	安波川(ダム下流)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原安波ダム下流	A
21	安 波	沖 縄 県	御 拝 橋	安 波 川	普 久 川	国頭村字安波御拝橋	B
22	〃	〃	御拝橋上流の沢	〃	〃	国頭村字安波御拝橋上流の沢	A
24	〃	沖縄総合事務局	普久川ダム(表層)	〃	〃	国頭村字安田原道原	A
〃	〃	〃	〃 (中 層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深 層)	〃	〃	〃	A
25	楚 洲	〃	〃 上 流	〃	〃	〃	A
23	安 波	〃	普久川ダム下流	〃	〃	〃	A
26	与 那	沖 縄 県	辺 野 喜 橋	辺 野 喜 川	辺 野 喜 川	国頭村字辺野喜	A
27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
28	楚 洲	〃	〃	〃	〃	国頭村字辺野喜大川山	A



対照 番号	2.5万分1 地形図名	所 属 名	調 査 地 点 名	水 系 名	該 河 川 名	当 所 在 地	環境基準 類 型
1	国頭・平良	沖 縄 県	福 地 川 河 口	福 地 川	福 地 川	国頭村字川田	—
5	〃	〃	福 地 ダ ム	〃	〃	〃	A
7	〃	〃	ダ ム 中 央	〃	〃	国頭村字宮城	A
4	〃	沖縄総合事務局	福 地 ダ ム(表層)	〃	〃	国頭村字川田	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
6	〃	〃	福 地 ダ ム(表層)	〃	〃	国頭村字宮城	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
8	〃	〃	〃	〃	〃	国頭村字高江	A
3	〃	〃	〃 (下流)	〃	〃	国頭村字川田	A
2	〃	〃	福地川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
9	高 江	沖 縄 県	新川下流高江橋	新 川 川	新 川 川	国頭村字高江下流の高江橋	B
2	辺 土 名	〃	新 川 ダ ム	〃	〃	国頭村字高江原	A
11	〃	沖縄総合事務局	〃 (表層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	A
10	〃	〃	新川川(ダム下流)	〃	〃	〃	A
15	安 波	沖 縄 県	安 波 大 橋	安 波 川	安 波 川	国頭村字安波下流の安波大橋	B
16	〃	〃	安波中学校後方	〃	〃	国頭村安波小中学校後方	A
18	〃	沖縄総合事務局	安 波 ダ ム(表層)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
20	〃	〃	安 波 ダ ム 上 流	〃	〃	〃	A
19	〃	〃	〃 床川	〃	〃	〃 床川下流	A
17	〃	〃	安波川(ダム下流)	〃	〃	国頭村字安波川瀬原安波ダム下流	A
21	安 波	沖 縄 県	御 拝 橋	安 波 川	普 久 川	国頭村字安波御拝橋	B
22	〃	〃	御拝橋上流の沢	〃	〃	国頭村字安波御拝橋上流の沢	A
24	〃	沖縄総合事務局	普久川ダム(表層)	〃	〃	国頭村字安田原道原	A
〃	〃	〃	〃 (中層)	〃	〃	〃	A
〃	〃	〃	〃 (深層)	〃	〃	〃	A
25	楚 洲	〃	〃 上流	〃	〃	〃	A
23	安 波	〃	普久川ダム下流	〃	〃	〃	A
26	与 那	沖 縄 県	辺 野 喜 橋	辺 野 喜 川	辺 野 喜 川	国頭村字辺野喜	A
27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
28	楚 洲	〃	〃	〃	〃	〃	





# Ⅳ 取水口、排水口資料

## Ⅳ 1-1 農業用取水口（取水方法・河川別）総括表

※頭首工は取水堰に含める。

河川別	取水方法別		取水堰によるかんがい		自然取水によるかんがい		ポンプによるかんがい		樋門・樋管によるかんがい		その他（砂防ダム・埋渠）		計	
	ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)
主要二級河川	与那川	2											2	
	辺野喜川	1											1	
	安波川	1											1	
	比地川	7	35						0				7	35
	奥間川	3	156										3	156
	奥川	1	8				1	16					1	24
	田嘉里川	3	26	2									2	26
	大保川	2					1						3	4.3
	新川川						2	36.8					2	36.8
	右銘川	1	38										1	38
計	21	263	2			4	37.8	0				27	300.8	
その他河川	宇良川			1									1	
	佐手川	1											1	
	宇嘉川	1	5										1	5
	武見川						1	97					1	97
	外畑田川	1	39										1	39
		2									1		2	
	慶佐次川	1	42										1	42
	宇出那覇川	1	19										1	19
計	6		2							2		11		

N1-2 農業用水口一覽表

国頭村2級河川

対照番号	2.5万分1 地形図名	水系名	第1次 支派川名	該当河川名	用水名称	管理者の名称	管 理 閉体面積	かんがい面積
Yn -1	与 那	与 那 川		与 那 川	かんがい	沖縄県知事	ha	9.0 ha
Yn -2	◇	◇		◇	◇	—		
Be -1	◇	辺野喜川		辺野喜川	◇	国 頭 村		15.0
Aha -1	安 波	安 波 川		安 波 川	◇	安 波 区		
Hi -1	辺土名	比地川		比地川	◇	国頭養蠶場	—	—
Hi -2	◇	◇		◇	◇	不 明		
Hi -3	◇	◇		◇	◇	奥間地区 土地改良組合	22	22
Hi -4	◇	◇		◇	◇	◇		
Hi -5	◇	◇		◇	◇	◇		
Hi -6	◇	◇		◇	◇	◇	13	13
Hi -7	◇	◇		◇	◇	◇		
Okm -1	◇	◇		奥間川	◇	奥間地区 土地改良組合		
Okm -2	◇	◇		◇	◇	◇	156	156
Okm -3	◇	◇		◇	◇	◇		
Ok -1	楚 洲	奥 川		奥 川	◇	奥 区	8	8
Ok -2	◇	◇		◇	◇	◇	16	16

国頭村その他河川農業用水取水口

ura -1	辺土名	宇良川		宇良川				
sat -1	◇	佐手川		佐手川				
uka -1	◇	宇嘉川		宇嘉川	かんがい		5	5
tke -1	楚 洲	武見川		大兼久川	◇		97	97
yuh -1	奥				◇			
yuh -2	◇				◇			
yuh -3	◇				◇			
yuh -4	◇				◇			
kay -1	◇				◇			
sos -1	楚 洲	楚洲川		楚洲川	◇		181	14.6
ibu -1	◇	伊部川		伊部川	◇		40	32

(許) 許可水利権 (法) 法定水利権 (屈) 届出慣行水利権 (慣) 慣行水利権

取水量 $m^3/sec$		取水設備		取水期間	備考
最大	常時	水利権水量	施設の種類		
0.0414			コンクリート取水堰	開水路 W=23.50m	年間 (屈)
0.0234			〃	開水路 W=11.0 m	〃 現在使用されていない (屈)
0.015			〃	H = 0.60m W=30.20m	〃 (屈)
			〃	H = 1.50m W = 4.90m	〃 現在使用されていない (屈)
0.0098	0.0050		取水堰	H=13.0 m W = 0.50m	〃 現在使用されていない (停止) (屈)
0.1157	0.0050		ポンプ	W = 0.25m W = 0.50m	〃 ポンプ 取水パイプφ0.20 (慣)
0.010	0.0052		取水堰	H = 3.00m W=11.05m	〃 自然流下 (屈)
			ポンプ		〃 (屈)
0.013	0.0052		取水堰	H = 2.00m W=12.50m	〃 (屈)
			ポンプ		〃 (屈)
			ポンプ		〃 (屈)
0.065	0.065		コンクリート取水堰		〃 (屈)
			〃		〃 (屈)
			〃		〃 (屈)
	0.036		取水堰自然流下		〃 (慣)
	0.015		取水堰ポンプ場水		〃 (慣)

			砂防ダムからの 自然取水		年間	使用されていない (慣)
0.0030			取水堰		〃	自然流下 (慣)
			取水堰		〃	〃 (慣)
			ポンプ		〃	〃 (慣)
					〃	
					〃	
					〃	
					〃	
			取水堰・ポンプ		〃	
			〃		〃	

大宜味村2級河川農業用水取水口

村照番号	2.5万分1 地形図名	水系名	第1次 支派川名	該当河川名	用水名称	管理者の名称	管 理 団体面積	かんがい面積
Tk -1	辺土名	田嘉里川		田嘉里川	かんがい	田嘉里区	ha 26	ha 26
Tk -2	〃	〃		〃	〃	〃		
Tk -3	〃	〃		〃	〃	〃		
Tk -4	〃	〃		〃	〃	〃		
Tk -5	〃	〃		〃	〃	〃		
Ti -1	国頭・平良	大保川		大保川	養豚用水 及びかんがい	大宜味村合 大養豚組合		豚約1,000頭 かんがい面積 約10ha
Ti -2	〃	〃		〃	かんがい	押川区		
Ti -3	国頭・平良	〃		〃	〃	大保区	4.3	4.3

大宜味村その他河川農業用水取水

so -1	辺土名	外堀田川		外堀田川	かんがい	喜如嘉区	39	39
hei -3	仲尾次	平南川		アガカ川	〃	江洲区	45	45
hei -2	〃	〃		平南川				
hei -1	〃	〃		〃				
hei -4	〃	〃		〃	肥培かんがい 雑飲用水			

東村2級河川農業用水取水口

Ar -1	辺土名	新川川		新川川	かんがい		21.8	21.8
Ar -2	高江	〃		新川川	〃		15.0	15.0
Am -1	仲尾次	右銘川		右銘川	〃		38.0	38.0

東村その他河川農業用水取水口

ge -1	国頭・平良	慶佐次川		慶佐次川	かんがい		42.0	42.0
ge -2	〃	〃		〃	肥培かんがい 雑飲用水			
ge -3	〃	〃		〃	〃			
ge -4	〃	〃		〃	〃			
ud -1	〃	宇出那覇川		宇出那覇川	かんがい		19.0	19.0

取水量 $m^3/sec$			取水設備		取水期間	備考
最大	常時	水利権水量	施設の種類	規模		
0.006			取水堰自然流下		年間	⑧
0.001			自然取水		〃	⑧
0.001			取水堰		〃	使用されていない ⑧
			ヒューム管自然流下	$\phi 0.70$	〃	〃 ⑧
			自然取水 (ヒューム管)	〃	〃	〃 ⑧
0.006	0.003		ポンプ		〃	⑧
0.0005			〃		〃	⑧
			頭首工		〃	計画中 ⑧

0.012			取水堰		年間	
0.015			土砂溜堰	江洲ため池 ポンプ揚水	〃	⑧
			取水堰		〃	⑧
			〃		〃	

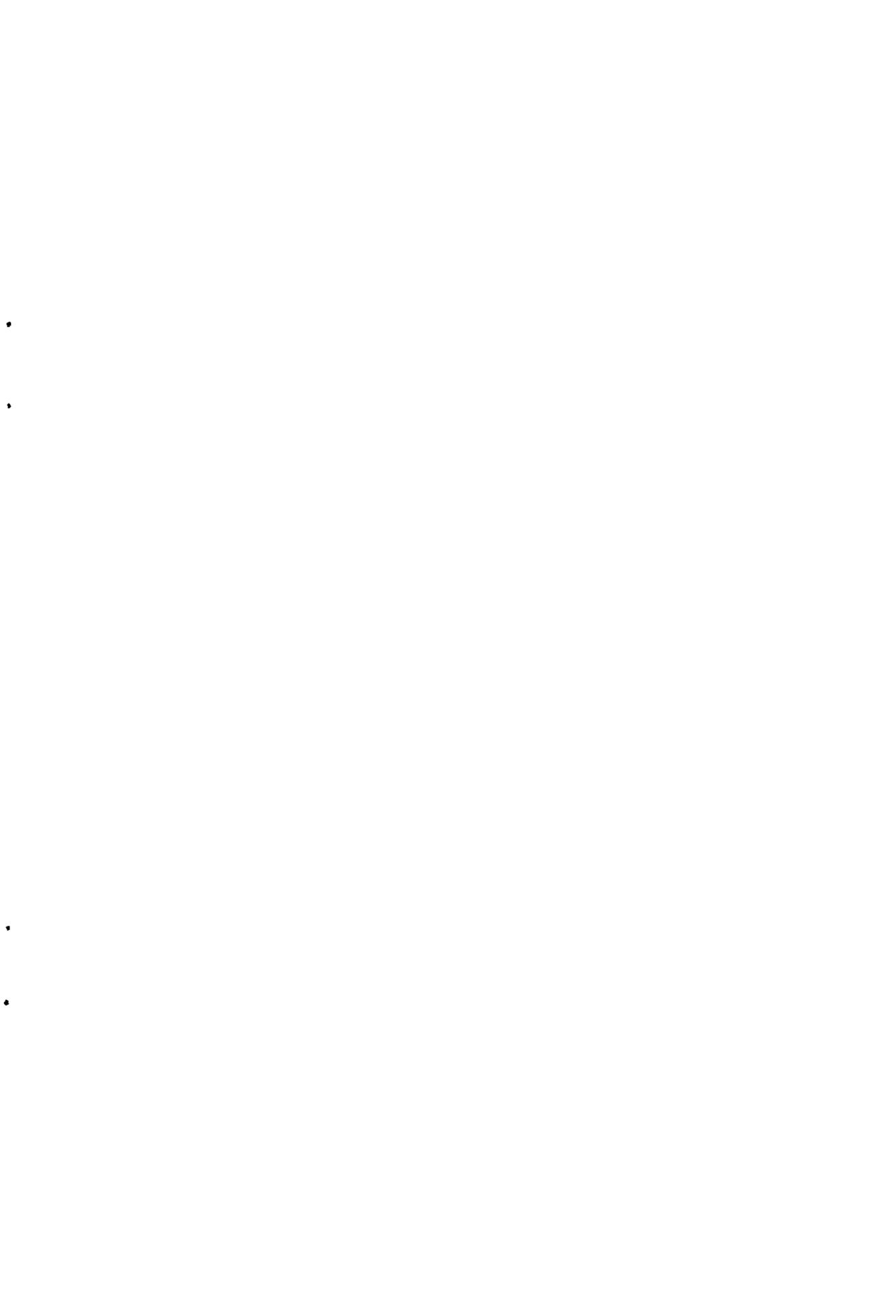
0.017			取水堰揚水ポンプ	$\phi=0.15$ コンクリート $1.5 \times 2.0m$	年間	⑧
0.010			〃	$\phi=0.45$ セメントプロ ック堰	〃	⑧
0.012			取水堰	自然流下 $\phi=0.75$	〃	⑧

0.020			取水堰	自然流下 $\phi=0.75$	年間	⑧
0.015			〃	〃	〃	⑧

M 1-3 生活・農業用排水口（排水方法別・河川別）総括表

主要2級12河川

排水方法別 河川別	自然排水			ポンプによる排水			樋門・樋管による排水			合計		
	ヶ所	全流域面積 km <sup>2</sup>	計画排水量 m <sup>3</sup> /sec	ヶ所	全流域面積 km <sup>2</sup>	計画排水量 m <sup>3</sup> /sec	ヶ所	全流域面積 km <sup>2</sup>	計画排水量 m <sup>3</sup> /sec	ヶ所	全流域面積 km <sup>2</sup>	計画排水量 m <sup>3</sup> /sec
与那川	21	11.99								21	11.99	
辺野喜川	18	13.18								18	13.18	
安波川	22	42.09								22	42.09	
普久川	5	17.00								5	17.00	
比地川	15	18.81								15	18.81	
奥間川	7	6.75								7	6.75	
奥川	8	10.88								8	10.88	
福地川	16	36.00								16	36.00	
新用川	7	11.31								7	11.31	
有銘川	31	3.33								31	3.33	
大保川	60	23.64								60	23.64	
田喜里川	22	8.91								22	8.91	
計	232	203.89								232	203.89	



IV-1-4 農業用生活用排水口一覽表

国 頭

对照番号	2.5万分1 地形図名	水 系 名	第 1 次 支派川名	該 当 河 川 名	排 水 名 称	位 置
Yn - 1	与 那	与 那 川		与 那 川	排水口(本1)	字与那明地356番地地先
Yn - 2	〃	〃		〃	〃(本2)	〃 355番地地先
Yn - 3	〃	〃		〃	〃(本3)	字与那大袋1343番地地先
Yn - 4	〃	〃		〃	〃(本4)	〃 1339-2番地
Yn - 5	〃	〃		〃	〃(本5)	〃 1338-3番地
Yn - 6	〃	〃		〃	〃(本6)	〃 1338-1番地
Yn - 7	〃	〃		〃	〃(本7)	〃 1258番地
Yn - 8	〃	〃		〃	〃(本8)	〃 1258番地
Yn - 9	〃	〃		〃	〃(本9)	〃 1256番地
Yn -10	〃	〃		〃	〃(本10)	〃 1255番地
Yn -11	〃	〃		〃	〃(本11)	〃 1250-1番地地先
Yn -12	〃	〃		〃	〃(本12)	字与那明地281番地地先
Yn -13	〃	〃		〃	〃(本13)	〃 275番地地先
Yn -14	〃	〃		〃	〃(本14)	字与那仲福地1046-1番地地先
Yn -15	〃	〃		〃	〃(本15)	〃 〃 1045-1番地
Yn -16	〃	〃		〃	〃(本16)	〃 〃 1036番地
Yn -17	〃	〃		〃	排水口(本-17)	字与那九年田616番地地先
Yn -18	〃	〃		〃	〃(本-18)	〃 〃 619番地地先
Yn -19	〃	〃		〃	〃(本-19)	〃 〃 647番地
Yn -20	〃	〃		〃	〃(本-20)	〃 〃 731-2番地
Yn -21	〃	〃		〃	〃(本-21)	左岸字与那1660-68番地
Be - 5	与 那	辺野喜川		辺野喜川	17排水路(支-1)	字辺野喜辺奈原214-1番地地先
Be - 6	〃	〃		〃	19排水路(支-2)	〃 〃 209番地地先
Be - 8	〃	〃		〃	22排水路(支-3)	〃 〃 134番地地先
Be -10	〃	〃		〃	39排水路(支-4)	〃 〃 235-1番地地先
Be - 1	〃	〃		〃	11排水路(支-5)	字辺野喜嶋井原1539番地
Be - 2	〃	〃		〃	14排水路(支-6)	〃 〃 1537番地
Be -13	〃	〃		〃	36排水路(支-7)	字辺野喜80番地地先
Be - 3	〃	〃		〃	21排水口(本-1)	字辺野喜14-2番地
Be - 4	〃	〃		〃	20排水口(本-2)	〃 42-2番地地先
Be - 7	〃	〃		〃	32排水口(本-3)	〃 126-2番地地先

管理者の名称	受益農地面積 ha	支配面積 ha	計画排水量 cf/sec	排水設備		当排水口が 受ける用水の 番号・名称	排水期間
				施設の種類	規模		
不明	—	—	—	自然排水	コンクリート造 H=32cm W=32cm		年間
〃	—	—	—	〃	コンクリート造 H=95cm W=80cm		〃
〃	—	—	—	〃	コンクリート造 H=34cm W=35cm		〃
〃	—	—	—	〃	ヒューム管φ=30cm		〃
〃	—	—	—	〃	ヒューム管φ48cm		〃
〃	—	—	—	〃	コンクリート造 H=30cm W=30cm		〃
〃	—	—	—	〃	ヒューム管φ=40cm		〃
〃	—	—	—	〃	φ=35cm		〃
〃	—	—	—	〃	φ=35cm		〃
〃	—	—	—	〃	φ=45cm		〃
〃	—	—	—	〃	φ=60cm		〃
〃	—	—	—	〃	φ=30cm		〃
〃	—	—	—	〃	φ=30cm		〃
〃	—	—	—	〃	φ=20cm		〃
〃	—	—	—	〃	コンクリート造 H=45cm W=46cm		〃
〃	—	—	—	〃	コンクリート造 H=24cm W=26cm		〃
〃	—	—	—	〃	ヒューム管φ=60cm		〃
〃	—	—	—	〃	φ=60cm		〃
〃	—	—	—	〃	φ=100cm		〃
〃	—	—	—	〃	φ=60cm		〃
〃	—	—	—	〃	H=110cm W=140cm		〃
—	—	—	—	自然排水	間知ブロック H=170cm W=150cm L=375cm		年間
—	—	—	—	〃	割石積 H=160cm W=150cm L=7,700cm		〃
—	—	—	—	〃	コンクリート H=150cm W=200cm L=10,730cm		〃
—	—	—	—	〃	間知ブロック H=220cm W=150cm L=460cm		〃
—	—	—	—	〃	間知ブロック H=140cm W=140cm L=950cm		〃
—	—	—	—	〃	間知ブロック H=90cm W=60cm L=950cm		〃
—	—	—	—	〃	コンクリート H=125cm W=150cm L=850cm		〃
—	—	—	—	〃	ヒューム管 φ=30cm L=380cm		〃
—	—	—	—	〃	ヒューム管 φ=30cm L=400cm		〃
—	—	—	—	〃	ヒューム管 φ=30cm L=650cm		〃

国 頭

对照番号	2.5万分1 地形図名	水 系 名	第 1 次 支派川名	該 当 河 川 名	排 水 名 称	位 置
Be - 9	与 那	辺野喜川		辺野喜川	33排水口(本-4)	字辺野喜辺野喜125番地地先
Be -16	〃	〃		〃	30排水口(本-5)	字辺野喜辺野喜原187-2番地地先
Be -17	〃	〃		〃	26排水口(本-6)	〃 〃 149番地地先
Be -11	〃	〃		〃	16排水口(本-7)	〃 〃 189番地地先
Be -12	〃	〃		〃	24排水口(本-8)	〃 〃 127番地地先
Be -14	〃	〃		〃	40排水口(本-9)	〃 〃 235-2番地地先
Be -15	〃	〃		〃	10排水口(本-10)	字辺野喜場井原1538-2番地
Be -18	〃	〃		〃	35排水口(本-11)	字辺野喜辺野喜120番地地先
Aha - 2	安 波	安波川		安波川	排水口(本-1)	字安波1447番地
Aha - 1	〃	〃		〃	〃 (本-2)	〃 1919番地
Aha - 3	〃	〃		〃	〃 (本-3)	〃 1696-2番地
Aha - 4	〃	〃		〃	〃 (本-4)	〃 1778番地
Aha - 5	〃	〃		〃	〃 (本-5)	〃 175番地
Aha - 6	〃	〃		〃	〃 (本-6)	〃 5番地
Aha - 7	〃	〃		〃	〃 (本-7)	〃 1番地
Aha - 9	〃	〃		〃	〃 (本-8)	〃 107番地
Aha - 8	〃	〃		〃	〃 (本-9)	〃 274-1番地
Aha -11	〃	〃		〃	〃 (本-10)	〃 103番地
Aha -10	〃	〃		〃	〃 (本-11)	〃 277-2番地
Aha -12	〃	〃		〃	〃 (本-12)	〃 80番地
Aha -13	〃	〃		〃	〃 (本-13)	〃 75番地
Aha -14	〃	〃		〃	〃 (本-14)	〃 70番地
Aha -15	〃	〃		〃	〃 (本-15)	〃 930番地
Aha -16	〃	〃		〃	〃 (本-16)	〃 534番地
Aha -17	〃	〃		〃	〃 (本-17)	〃 533番地
Aha -18	〃	〃		〃	〃 (本-18)	〃 513-1番地
Aha -19	〃	〃		〃	〃 (本-19)	〃 469番地
Aha -20	〃	〃		〃	〃 (本-20)	〃 460番地
Aha -21	〃	〃		〃	〃 (本-21)	〃 590番地
Aha -22	〃	〃		〃	〃 (本-22)	〃 833-2番地

管理者の名称	受益農地面積 ha	支配面積 ha	計画排水量 m <sup>3</sup> /acc	排水設備		当排水口が 受ける用水の 番号・名称	排水期間
				施設の種類の	規 模		
—	—	—	—	自然排水	ビューム管 φ=30cm L=700cm		年 間
—	—	—	—	〃	ビューム管 φ=30cm L=970cm		〃
—	—	—	—	〃	ビューム管 φ=50cm L=880cm		〃
—	—	—	—	〃	コンクリートH=125cm W=150cm L=850cm		〃
—	—	—	—	〃	コンクリートH=150cm W=110cm L=500cm		〃
—	—	—	—	〃	コンクリートH=175cm W=150cm L=600cm		〃
—	—	—	—	〃	コンクリート H=130cm W=140cm		〃
—	—	—	—	〃	コンクリートH=150cm W=150cm L=620cm		〃
—	—	—	—				
国 頭 村	—	—	—	自然排水	ビューム管φ=60cm		年 間
〃	—	—	—	〃	〃 φ=60cm		〃
〃	—	—	—	〃	〃 φ=60cm		〃
沖 縄 県	—	—	—	〃	〃 φ=40cm		〃
国 頭 村	—	—	—	〃	コンクリート B=45cm H=60cm		〃
〃	—	—	—	〃	ビューム管φ=60cm		〃
〃	—	—	—	〃	〃 φ=60cm		〃
〃	—	—	—	〃	〃 φ=90cm		〃
沖 縄 県	—	—	—	〃	〃 φ=40cm		〃
国 頭 村	—	—	—	〃	〃 φ=40cm		〃
〃	—	—	—	〃	〃 φ=60cm		〃
〃	—	—	—	〃	コンクリート H=25cm B=25cm		〃
〃	—	—	—	〃	石積造 B=55cm H=50cm		〃
〃	—	—	—	〃	石積造 B=100cm W=60cm H=100cm		〃
〃	—	—	—	〃	石積造 H=80cm W=100cm		〃
〃	—	—	—	〃	コンクリート B=100cm H=100cm		〃
〃	—	—	—	〃	ビューム管φ=80cm		〃
沖 縄 県	—	—	—	〃	コンクリートB=70cm B=50cm H=40cm		〃
国 頭 村	—	—	—	〃	ビニールパイプ2本 φ=145cm		〃
〃	—	—	—	〃	コンクリート B=30cm H=30cm		〃
沖 縄 県	—	—	—	〃	ビューム管φ=60cm		〃
国 頭 村	—	—	—	〃	〃 φ=60cm		〃
—	—	—	—				

国 頭

対照番号	2.5万分1 地形図名	水 系 名	第 1 次 支派川名	該 当 河 川 名	排 水 名 称	位 置
Fu - 2	安 波	葺久川		葺久川	排水口(本-1)	字安波前田原188-2番地
Fu - 1	〃	〃		〃	〃(本-2)	
Fu - 3	〃	〃		〃	〃(本-3)	字安波葺久原1749-2番地
Fu - 4	〃	〃		〃	〃(本-4)	字安波川瀬原1301-10番地
Fu - 5	〃	〃		〃	〃(本-5)	字安田道原1478番地
Hi - 1	辺土名	比地川		比地川	排水口(本-1)	字奥間大葦久原1410-2番地
Hi - 3	〃	〃		〃	〃(本-2)	〃 〃 1435-4番地
Hi - 6	〃	〃		〃	〃(本-3)	字奥間大謝原1716-2番地
Hi -10	〃	〃		〃	〃(本-4)	字比地蔵前329番地
Hi -11	〃	〃		〃	〃(本-5)	字比地長根459-2番地
Hi - 2	〃	〃		〃	〃(本-6)	字半地半地原202-2番地
Hi - 4	〃	〃		〃	〃(本-7)	〃 203-1番地
Hi - 5	〃	〃		〃	〃(本-8)	〃 206-1番地
Hi - 7	〃	〃		〃	〃(本-9)	〃 211-2番地
Hi - 8	〃	〃		〃	〃(本-10)	字比地長根376-2番地
Hi - 9	〃	〃		〃	〃(本-11)	〃 412-2番地
Hi -12	〃	〃		〃	〃(本-12)	〃 423-2番地
Hi -13	〃	〃		〃	〃(本-13)	字比地蔵前362-2番地
Hi -15	〃	〃		〃	〃(本-14)	字比地比地原168-2番地
Hi -14	〃	〃		〃	〃(本-15)	字比地長根原467-1番地
Okm- 3	辺土名	比地川		奥間川	排水口(本-1)	字比地堀川268番地
Okm- 4	〃	〃		〃	〃(本-2)	字比地蔵前318-1番地
Okm- 2	〃	〃		〃	〃(本-3)	〃 314-2番地
Okm- 1	〃	〃		〃	〃(本-4)	字比地堀川260番地
Okm- 5	〃	〃		〃	〃(本-5)	字奥大保謝名原2012番地
Okm- 6	〃	〃		〃	〃(本-6)	〃 〃 2013番地
Okm- 7	〃	〃		〃	〃(本-7)	〃 〃 2015番地
Ok - 1	奥	奥川		奥川	排水口(本-1)	字奥478番地
Ok - 2	〃	〃		〃	〃(本-2)	〃 1369-2番地

管理者の名称	受益農地面積 ha	支配面積 ha	計画排水量 m <sup>3</sup> /sec	排水設備		当排水口が 受ける用水の 番号・名称	排水期間
				施設の種類	規模		
-	-	-	-	自然排水	ボックスカルバート 190cm×160cm		年間
-	-	-	-	〃	ヒューム管φ=40cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=45cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=80cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=90cm		〃
-	-	-	-	自然排水	ボックスカルバート 125cm×125cm		年間
-	-	-	-	〃	ヒューム管φ=45cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=45cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=45cm		〃
-	-	-	-	〃	ボックスカルバート 130cm×130cm		〃
-	-	-	-	〃	ヒューム管φ=45cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=100cm		〃
-	-	-	-	〃	ボックスカルバート 130cm×150cm		〃
-	-	-	-	〃	ボックスカルバート		〃
-	-	-	-	〃	ヒューム管φ=30cm		年間
-	-	-	-	〃	〃 φ=35cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=60cm		〃
-	-	-	-	〃	ボックスカルバート 140cm×135cm		〃
-	-	-	-	〃	ヒューム管φ=50cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=80cm		〃
-	-	-	-	自然排水	ヒューム管φ=35cm		年間
-	-	-	-	〃	〃 φ=90cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=50cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=30cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=30cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=50cm		〃
-	-	-	-	〃	〃 φ=35cm		〃
-	-	-	-	自然排水			年間
-	-	-	-	〃	ヒューム管φ=80cm		〃





東

対照番号	2.5万分1 地形図名	水 系 名	第 1 次 支派川名	該 当 河 川 名	排 水 名 称	位 置
Fku-2	国頭・平良	福地川		福地川	排水口(本-1)	東村字川田304番地
Fku-4	〃	〃		〃	〃(本-2)	〃 310番地
Fku-3	〃	〃		〃	〃(本-3)	〃 333番地
Fku-5	〃	〃		〃	〃(本-4)	〃 331番地
Fku-5	〃	〃		〃	〃(本-5)	〃 328-2番地
Fku-6	〃	〃		〃	〃(本-6)	〃 232番地
Fku-7	〃	〃		〃	〃(本-7)	〃 232-21番地
Fku-8	〃	〃		〃	〃(本-8)	〃 275-1番地
Fku-9	〃	〃		〃	〃(本-9)	〃 1105-2番地
Fku-10	〃	〃		〃	〃(本-10)	〃 1105-2番地
Fku-11	〃	〃		〃	〃(本-11)	〃 1105-2番地
Fku-12	〃	〃		〃	〃(本-12)	〃 1105-2番地
Fku-13	〃	〃		〃	〃(本-13)	〃 1105-2番地
Fku-14	〃	〃		〃	〃(本-14)	〃 1105-387番地
Fku-15	〃	〃		〃	〃(本-15)	〃 1105-387番地
Fku-16	〃	〃		〃	〃(本-16)	東村字高江13林班・小班地先
Ar-1	高 江	新川川		新 川	排水口(本-1)	東村高江小字上新川原138-2番地
Ar-2	〃	〃		〃	〃(本-2)	〃 〃 138-1番地
Ar-3	〃	〃		〃	〃(本-3)	〃 〃 108番地
Ar-4	〃	〃		〃	〃(本-4)	東村高江園有林18林班地先
Ar-7	辺 止 名	〃		〃	〃(本-5)	〃
Ar-6	〃	〃		〃	〃(本-6)	〃
Ar-5	〃	〃		〃	〃(本-7)	東村高江小字高江原466-1番地
Am-1	国頭・平良	有銘川		有銘川	排水口(本-1)	東村字有銘35-2番地
Am-2	仲尾次	〃		〃	〃(本-2)	〃 28番地
Am-3	〃	〃		〃	〃(本-3)	〃 28番地
Am-4	〃	〃		〃	〃(本-4)	〃 28番地
Am-5	〃	〃		〃	〃(本-5)	〃 28番地
Am-6	〃	〃		〃	〃(本-6)	〃 28番地
Am-7	〃	〃		〃	〃(本-7)	〃 27-2番地

管理者の名称	受益農地面積 ha	支配面積 ha	計画排水量 m <sup>3</sup> /sec	排水設備		当排水口が 受ける用水の 番号・名称	排水期間
				施設の種類	規 模		
東 村 役 場				自然排水	ヒューム管φ=60cm		
◇				◇	◇ φ=50cm		
◇				◇	◇ φ=60cm		
◇				◇	◇ φ=60cm		
◇				◇	◇ φ=60cm		
◇				◇	コンクリート B=150cm H=150cm		
◇				◇			
◇				◇	ヒューム管φ=60cm		
◇				◇	コンクリート B=55cm H=60cm		
北部ダム事務所				◇	コンクリート B=60cm H=60cm		
◇				◇	コンクリート B=200cm H=100cm		
◇				◇	コンクリート B=100cm H=100cm		
◇				◇	コンクリート B=100cm H=100cm		
◇				◇	ヒューム管φ=30cm		
◇				◇	コンクリート B=110cm H=67cm		
◇				◇	ヒューム管φ=190cm		
				自然排水	ヒューム管φ=40cm		年 間
				◇	ボックスカルバート L=4,600cm		◇
				◇			◇
				◇			◇
				◇	ヒューム管φ=60cm		◇
				◇	◇ φ=30cm		◇
				◇	◇ φ=80cm		◇
				自然排水	ボックスカルバート		年 間
				◇	ヒューム管φ=30cm		◇
				◇	◇ φ=30cm		◇
				◇	◇ φ=30cm		◇
				◇	◇ φ=30cm		◇
				◇	◇ φ=45cm		◇
				◇			◇

東

対照番号	2.5万分1 地形図名	水系名	第1次 支派川名	該当 河川名	排水名称	位置
Am-8	仲尾次	有銘川		有銘川	排水口(本-8)	東村字有銘27-2番地
Am-10	*	*		*	(本-9)	* 27-3番地
Am-12	*	*		*	(本-10)	* 27-4番地
Am-13	*	*		*	(本-11)	* 27-4番地
Am-15	*	*		*	(本-12)	* 20番地
Am-16	*	*		*	(本-13)	* 20番地
Am-9	*	*		*	(本-14)	* 843-2番地
Am-11	*	*		*	(本-15)	* 840-2番地
Am-14	*	*		*	(本-16)	* 513-2番地
Am-18	*	*		*	(本-17)	* 192-1番地
Am-17	*	*		*	(本-18)	* 471-2番地
Am-19	*	*		*	(本-19)	* 466-2番地
Am-20	*	*		*	(本-20)	* 246-2番地
Am-21	*	*		*	(本-21)	* 246-2番地
Am-22	*	*		*	(本-22)	* 246-2番地
Am-23	*	*		*	(本-23)	* 249-1番地
Am-24	*	*		*	(本-24)	* 442番地
Am-25	*	*		*	(本-25)	* 303-2番地
Am-27	*	*		*	(本-26)	* 439-2番地
Am-29	*	*		*	(本-27)	* 334-2番地
Am-28	*	*		*	(本-28)	* 436-2番地
Am-31	*	*		*	(本-29)	* 407-4番地
Am-26	*	*		*	(本-30)	* 390-3番地
Am-30	*	*		*	(本-31)	* 345-2番地



大宜味

対照番号	2.5万分1 地形図名	水系名	第1次 支派川名	該当 河川名	排水名称	位 置
Ti - 1	仲尾次	大保川		大保川	排水口(本-1)	大宜味村字塩屋553番地
Ti - 2	〃	〃		〃	〃(本-2)	〃 540番地
Ti - 3	〃	〃		〃	〃(本-3)	〃 539番地
Ti - 4	〃	〃		〃	〃(本-4)	〃 538番地
Ti - 5	〃	〃		〃	〃(本-5)	〃 538番地
Ti - 6	大宜味	〃		〃	〃(本-6)	〃 504番地
Ti - 7	〃	〃		〃	〃(本-7)	〃 503番地
Ti - 8	〃	〃		〃	〃(本-8)	〃 370番地
Ti - 9	〃	〃		〃	〃(本-9)	〃 352番地
Ti -10	〃	〃		〃	〃(本-10)	〃 63番地
Ti -11	〃	〃		〃	〃(本-11)	〃 62-3番地
Ti -12	〃	〃		〃	〃(本-12)	〃 32番地
Ti -13	〃	〃		〃	〃(本-13)	大宜味村字屋吉1-2番地
Ti -14	〃	〃		〃	〃(本-14)	〃 264-2番地
Ti -15	〃	〃		〃	〃(本-15)	〃 269-2番地
Ti -16	〃	〃		〃	〃(本-16)	〃 271-2番地
Ti -17	仲尾次	〃		〃	〃(本-17)	大宜味村字田港278-3番地
Ti -18	〃	〃		〃	〃(本-18)	〃 281-1番地
Ti -19	〃	〃		〃	〃(本-19)	〃 286-2番地
Ti -20	〃	〃		〃	〃(本-20)	〃 304-1番地
Ti -21	〃	〃		〃	〃(本-21)	〃 312-2番地
Ti -22	〃	〃		〃	〃(本-22)	〃 334-2番地
Ti -23	〃	〃		〃	〃(本-23)	〃 3番地
Ti -24	〃	〃		〃	〃(本-24)	〃 7番地
Ti -25	〃	〃		〃	〃(本-25)	〃 69-2番地
Ti -26	〃	〃		〃	〃(本-26)	〃 337-2番地
Ti -27	〃	〃		〃	〃(本-27)	〃 337-2番地
Ti -28	〃	〃		〃	〃(本-28)	〃 538-2番地
Ti -29	〃	〃		〃	〃(本-29)	〃 548-2番地
Ti -30	〃	〃		〃	〃(本-30)	〃 549-2番地
Ti -31	〃	〃		〃	〃(本-31)	〃 577-2番地
Ti -32	〃	〃		〃	〃(本-32)	〃 579-2番地

管理者の名称	受益農地面積 ha	支配面積 ha	計画排水量 m <sup>3</sup> /acc	排水設備		当排水口が 受ける用水の 番号・名称	排水期間
				施設の種類	規模		
北部土木事務所				自然排水	ヒューム管φ=40cm		年間
◇				◇	◇ φ=20cm		◇
◇				◇	◇ φ=20cm		◇
◇				◇	30cm×30cm		◇
◇				◇	30cm×30cm		◇
◇				◇	ヒューム管φ=45cm		◇
◇				◇	150cm×150cm		◇
◇				◇	50cm×60cm		◇
◇				◇	65cm×90cm		◇
◇				◇	70cm×58cm		◇
◇				◇			◇
◇				◇	ヒューム管φ=40cm		◇
◇				◇	65cm×60cm		◇
◇				◇	150cm×305cm		◇
◇				◇	ヒューム管φ=80cm		◇
◇				◇	◇ φ=60cm		◇
◇				◇	◇ φ=45cm		◇
◇				◇	◇ φ=45cm		◇
◇				◇	◇ φ=45cm		◇
◇				◇	◇ φ=80cm		◇
◇				◇	◇ φ=60cm		◇
◇				◇	◇ φ=50cm		◇
◇				◇	◇ φ=50cm		◇
◇				◇	110cm×150cm		◇
◇				◇	ヒューム管φ=90cm		◇
◇				◇	◇ φ=50cm		◇
◇				◇	130cm×150cm		◇
◇				◇	ヒューム管φ=60cm		◇
◇				◇	◇ φ=60cm		◇
◇				◇	50cm×40cm		◇
◇				◇	80cm×60cm		◇
◇				◇	ヒューム管φ=60cm		◇

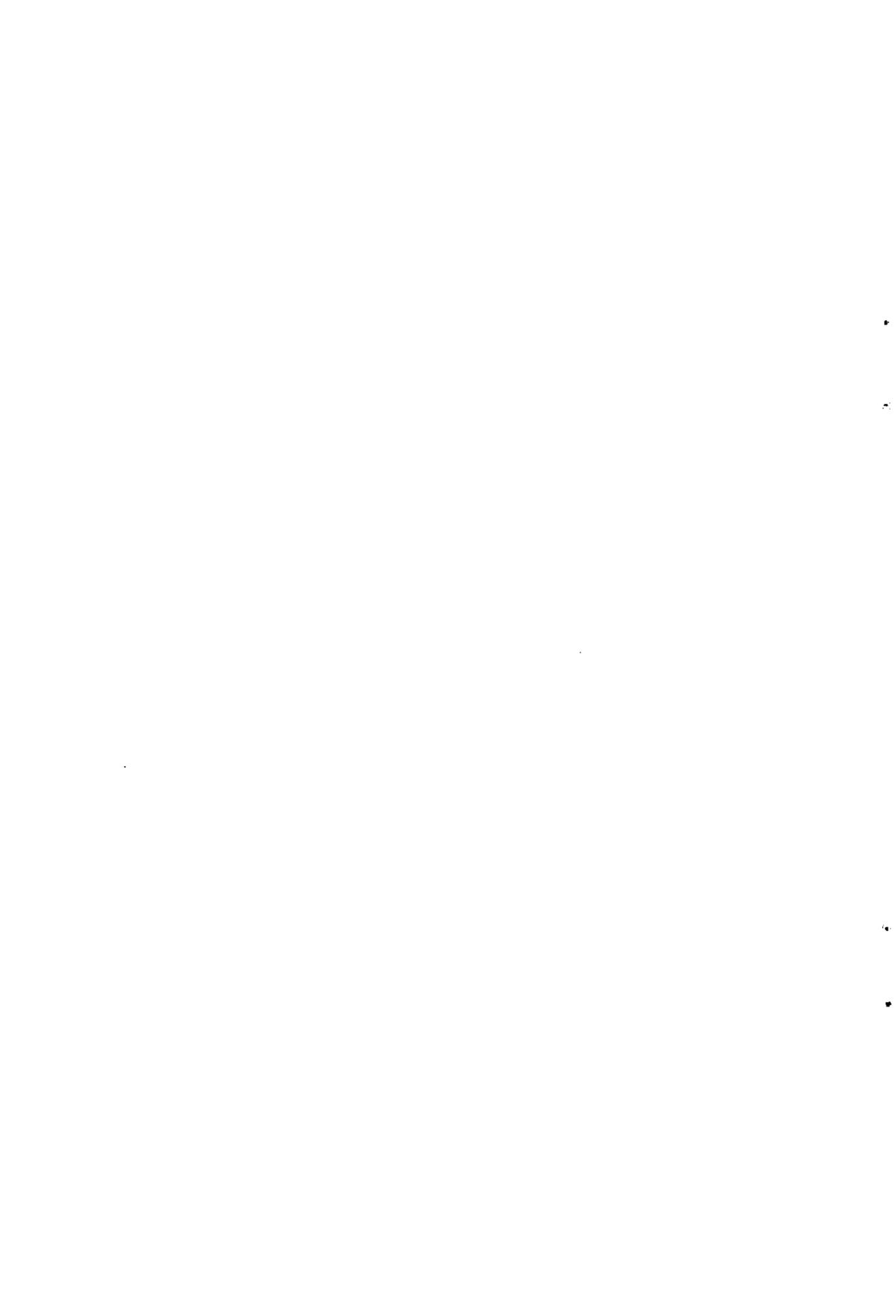
大宜味

对照番号	2.5万分1 地形図名	水系名	第1次 支派川名	該当 河川名	排水名称	位置
Ti -33	国頭・平良	大保川		大保川	排水口(本-33)	大宜味村字田港780-1番地
Ti -34	仲尾次	〃		〃	〃(本-34)	〃 611-2番地
Ti -35	〃	〃		〃	〃(本-35)	〃 615-1番地
Ti -36	国頭・平良	〃		〃	〃(本-36)	〃 698-2番地
Ti -37	〃	〃		〃	〃(本-37)	〃 699-2番地
Ti -38	〃	〃		〃	〃(本-38)	〃 748-2番地
Ti -40	〃	〃		〃	〃(本-39)	大宜味村字大保2-1番地
Ti -39	〃	〃		〃	〃(本-40)	大宜味村字白浜797-2番地
Ti -41	仲尾次	〃		〃	〃(本-41)	〃 786番地
Ti -42	〃	〃		〃	〃(本-42)	〃 743番地
Ti -43	〃	〃		〃	〃(本-43)	〃 743番地
Ti -44	〃	〃		〃	〃(本-44)	〃 654-2番地
Ti -45	〃	〃		〃	〃(本-45)	〃 654-2番地
Ti -46	〃	〃		〃	〃(本-46)	〃 605番地
Ti -47	〃	〃		〃	〃(本-47)	〃 350-6番地
Ti -48	〃	〃		〃	〃(本-48)	〃 157番地
Ti -49	〃	〃		〃	〃(本-49)	大宜味村字白浜146番地
Ti -50	〃	〃		〃	〃(本-50)	〃 144番地
Ti -51	〃	〃		〃	〃(本-51)	〃 134番地
Ti -52	〃	〃		〃	〃(本-52)	〃 33番地
Ti -53	〃	〃		〃	〃(本-53)	〃 25番地
Ti -54	〃	〃		〃	〃(本-54)	〃 24番地
Ti -55	〃	〃		〃	〃(本-55)	〃 11番地
Ti -56	〃	〃		〃	〃(本-56)	大宜味村字津波1番地
Ti -57	〃	〃		〃	〃(本-57)	大宜味村字宮城9-2番地
Ti -58	〃	〃		〃	〃(本-58)	〃 2番地
Ti -59	〃	〃		〃	〃(本-59)	〃 52-3番地
Ti -60	〃	〃		〃	〃(本-60)	〃 165番地
Tk - 1	辺土名	田嘉里川		田嘉里川	排水口(本-1)	大宜味村字田嘉里234番地
Tk - 2	〃	〃		〃	〃(本-2)	〃 967-1番地
Tk - 3	〃	〃		〃	〃(本-3)	〃 980番地

管理者の名称	受益農地面積 ha	支配面積 ha	計画排水量 m <sup>3</sup> /sec	排水設備		当排水口が 受ける用水の 番号・名称	排水期間
				施設の種類	規模		
北都土木事務所				自然排水	120cm×180cm		年間
◇				◇	70cm×60cm		◇
◇				◇	ヒューム管φ=40cm		◇
◇				◇	◇ φ=40cm		◇
◇				◇	◇ φ=40cm		◇
◇				◇	◇ φ=45cm		◇
◇				◇	◇ φ=130cm		◇
◇				◇	◇ φ=35cm		◇
◇				◇	◇ φ=40cm		◇
◇				◇	◇ φ=45cm		◇
◇				◇	◇ φ=30cm		◇
◇				◇	130cm×260cm		◇
◇				◇	ヒューム管φ=35cm		◇
◇				◇	◇ φ=60cm		◇
◇				◇	◇ φ=60cm		◇
◇				◇	65cm×60cm		◇
◇				◇	65cm×60cm		◇
◇				◇	60cm×65cm		◇
◇				◇	65cm×100cm		◇
◇				◇	ヒューム管φ=45cm		◇
◇				◇	70cm×60cm		◇
◇				◇	65cm×60cm		◇
◇				◇	ヒューム管φ=40cm		◇
◇				◇			◇
◇				◇	ヒューム管φ=45cm		◇
◇				◇	◇ φ=45cm		◇
◇				◇	130cm×110cm		◇
◇				◇	ヒューム管φ=30cm		◇
				自然排水	ボックスカルバート		年間
				◇	◇		◇
				◇	ヒューム管φ=70cm		◇







## Ⅳ 2 水道用取水口資料

### Ⅳ 2-1 水道用取水口 (使用事項別・河川別) 総括表

#### 主要 2 級河川

河川別	上水道		簡易水道		計	
	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	ヶ所	取水量 $m^3/sec$
与那川			1	0.0004	1	0.0004
辺野喜川			2	0.0070	2	0.0070
普久川			1	0.0009	1	0.0009
奥間川			4	0.0041	4	0.0041
奥川			1	0.0009	1	0.0009
大保川	1	0.1481			1	0.1481
田嘉里川			3	0.0056	3	0.0056
普久川			1	0.0009	1	0.0009
福地川(大泊川)			1	0.0005	1	0.0005
福地川(ダム取水口)			1	0.0149	1	0.0149
計	1	0.1481	15	0.0352	16	0.1833

#### その他河川

	上水道			簡易水道			計		
	河川数	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	河川数	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	河川数	ヶ所	取水量 $m^3/sec$
国頭村				10	10	0.0135	10	10	0.0135
大宜味村	1	1	0.1296	5	9	0.0283	6	10	0.1579
東村				0	0	0	0	0	
計	1	1	0.1296	15	19	0.0418	16	20	0.1714









大宜味村2級河川簡易水道取水口

対照番号	2.5万分1 地形図名	水系名	第1次 支派川名	該 当 河川名	取 水 地 点	事業者名 (工場名)	給水区域 (工場 所在地)
TK-2	辺土名	田嘉里川		田嘉里川	国頭村字浜	国頭村浜区	国頭村浜区
TK-3	〃	〃		〃	大宜味村字田嘉里	大宜味村区	大宜味村区
TK-4	〃	〃		〃	〃	〃	〃

大宜味村その他河川簡易水道取水口

s-2	辺土名	外堀田川		外堀田川	大宜味村字謝名城	大宜味村謝名城	大宜味村謝名城
so-3	〃	〃		〃	〃	〃	〃
so-4	〃	〃		〃	大宜味村字喜如嘉玉合原	大宜味村喜如嘉区	大宜味村喜如嘉区
so-5	〃	〃		〃	〃	〃	〃
nha-1	〃	鏡波川		鏡波川	大宜味村字鏡波前田原	鏡波区	鏡波区
nha-2	〃	〃		〃	〃	〃	〃
tka-1	仲尾次	渡海川		渡海川	大宜味村字津波	津波簡易域	津波簡易域
tka-2	〃	〃		〃	〃	〃	〃
hei-2	〃	平南川		平南川	〃	〃	〃
hei-3	〃	〃		〃	〃	〃	〃
ogn-1	大宜味	大兼久川		大兼久川	大宜味村字大兼区	〃	〃

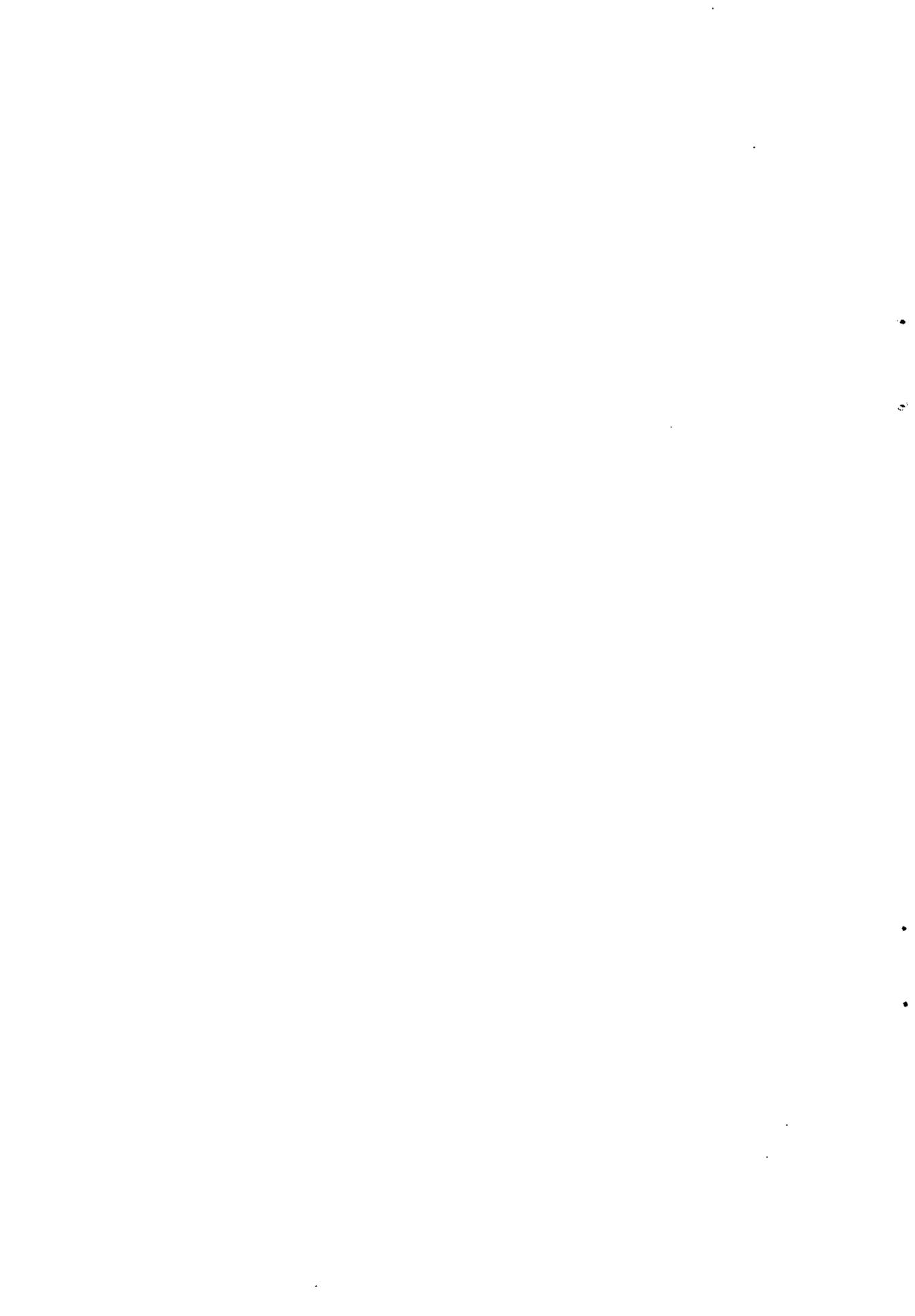
東村2級河川簡易取水口

os-1	国頭・平良	福地川		大沢川	東村字高江東	高江区	高江区
	〃	〃		福地川	福地ダム	宮城区	宮城・川田 平良・伊是名
Fku-1	〃	〃		〃	〃	右銘区	右銘区
	仲尾次	〃		〃	〃	慶佐次	慶佐次

主費使用事項	水利権者	取水量 $m^3/sec$			取水設備		備考
		最大	常時	水利権水量	施設の種類	規模	
簡易水道水源		0.0018	0.0013		取水堰		⑩
〃		0.0028			〃		⑩
〃		0.0028			〃		⑩

簡易水道水源		0.0015			取水堰			⑩
〃		0.0015			〃			⑩
〃		0.0015			自然取水			⑩
〃		0.0015			取水堰			⑩
〃		0.0006			自然取水			⑩
〃		0.0006			〃			⑩
〃		0.0018			〃			⑩
〃		0.0018			〃			⑩
〃		0.0116			自然取水	$\phi$ 20	取水計画あり 現在取水はしていない	⑩
〃		0.0107			自然取水	$\phi > 20$		⑩
〃		0.0021	0.0013		自然取水	$\phi > 25$		⑩

簡易水道水源		0.0005	0.0005		取水堰			⑩
〃		0.0149		0.02847	福地ダム			⑩
〃	国	0.0149		0.02847	取水口			⑩
〃								
〃								
〃								
〃								
〃								
〃								
〃								



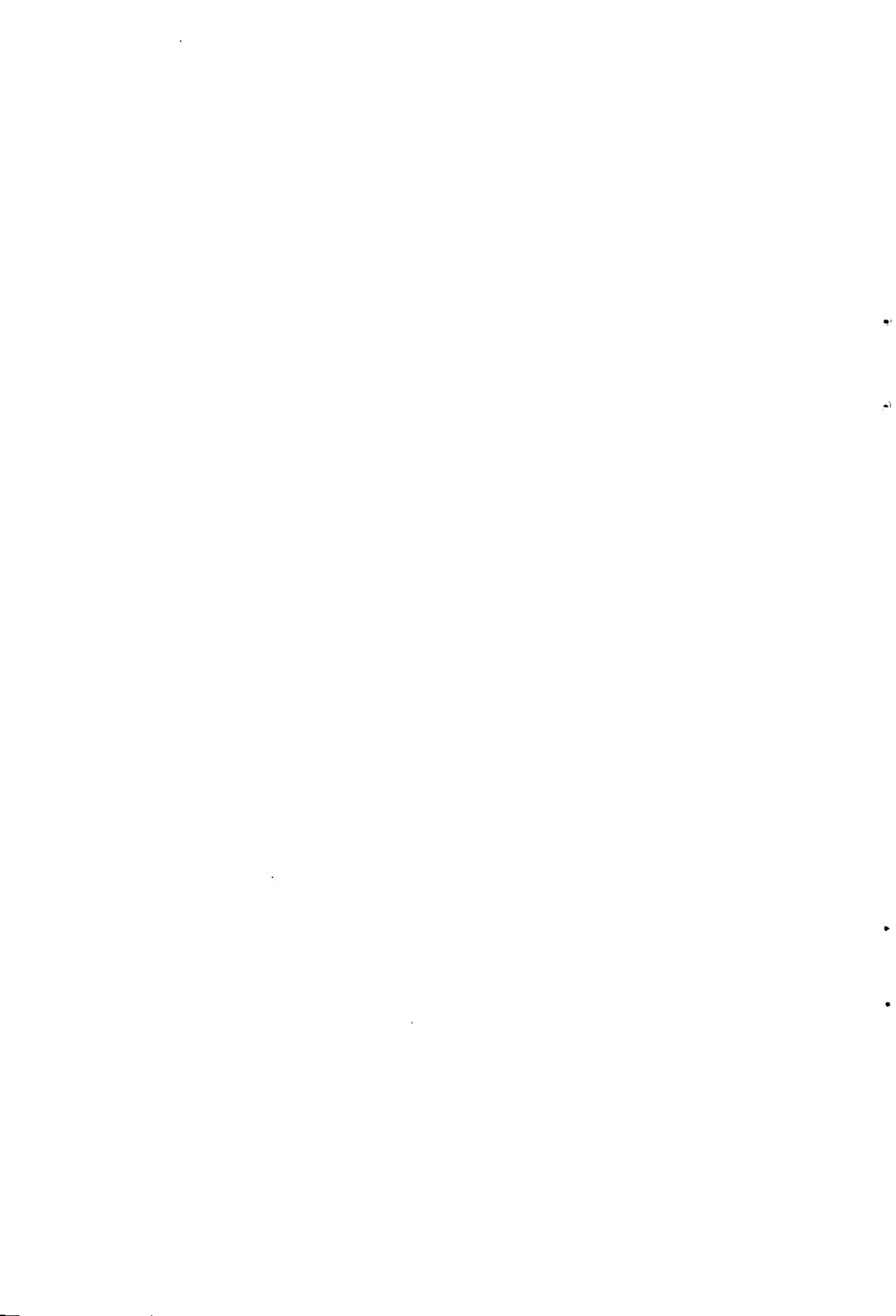
### IV 3 工業用取水口資料

#### IV 3-1 工業用取水口（取水方法別・河川別）総括表

取水方法別 河川別	堰による取水		ポンプによる取水		自然取水		計	
	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	ヶ所	取水量 $m^3/sec$
主要一級河川	辺野喜川				1	0.0017	1	0.0017
	比地川				1	0.0001	1	0.0001
	有銘川	1	0.0020				1	0.0020
	計	1	0.0020			2	0.0018	3
河その 川他	平良川				1	0.0023	1	0.0023







#### IV 4 その他（養鰻用水・雑用水）取水口資料

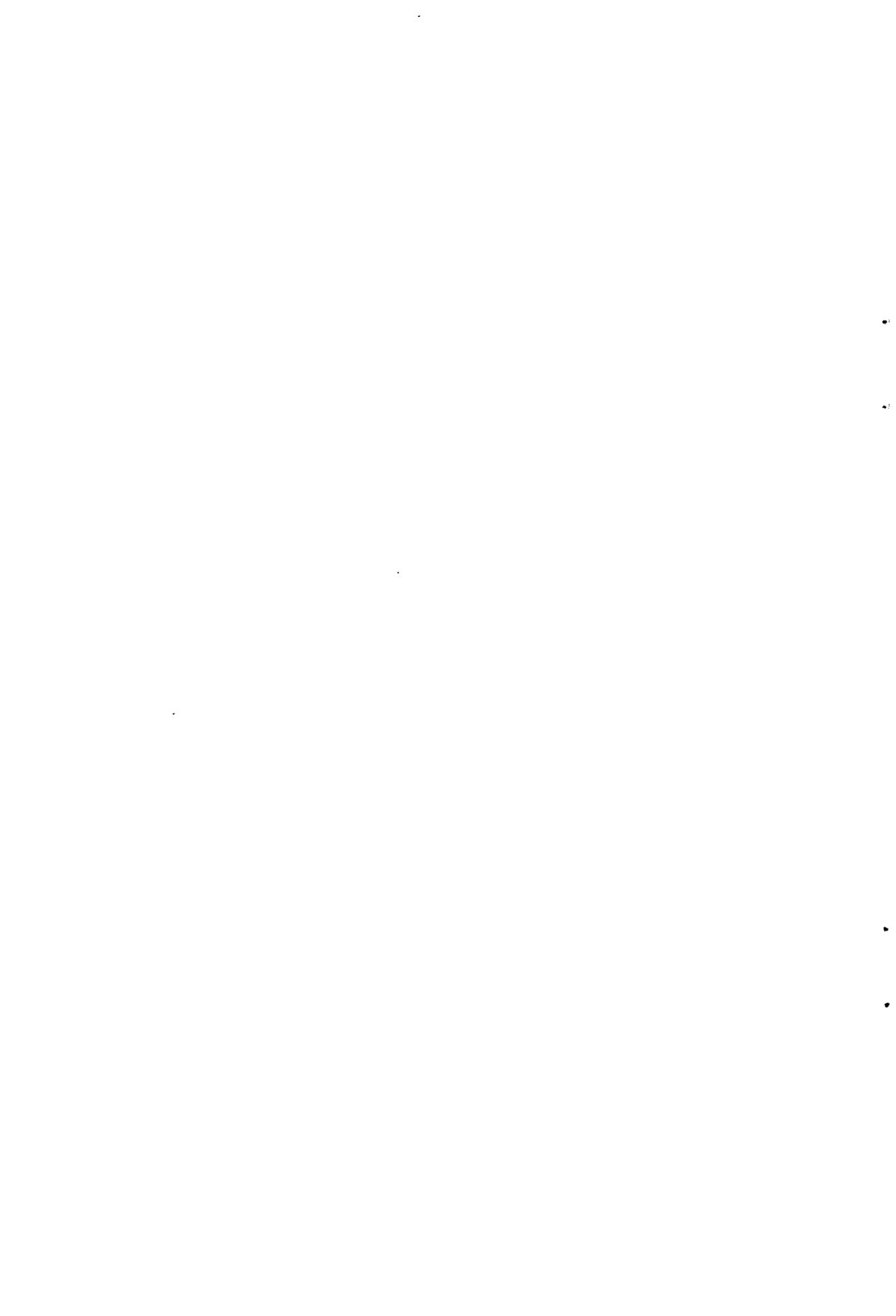
##### IV 4-1 その他（養鰻用水・雑生活用水）取水口（取水方法別・河川別）総括表

取水方法別 河川別	堰による取水		ポンプによる取水		自然取水		計	
	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	ヶ所	取水量 $m^3/sec$	ヶ所	取水量 $m^3/sec$
比地川	1	0.0010	1	0.0010	1	0.0080	3	0.0100
奥間川	1	0.0060					1	0.0060
田嘉里川					2	0.0050	2	0.0050
計	2	0.0070	1	0.0010	3	0.0130	6	0.0210

※頭首工は堰に含める







## V 主要井戸資料

### V-1-1 主要井戸（村別・用途別）総括表

	農 業 用 井 戸		水 道 用 井 戸		工 業 用 井 戸		そ の 他 の 井 戸		計	
	本数	揚水量 <sup>m<sup>3</sup></sup> /日	本数	揚水量 <sup>m<sup>3</sup></sup> /日	本数	揚水量 <sup>m<sup>3</sup></sup> /日	本数	揚水量 <sup>m<sup>3</sup></sup> /日	本数	揚水量 <sup>m<sup>3</sup></sup> /日
国頭村			1				21		22	
大宜見村			2		1		17		20	
東 村					3		6		9	
計			3		4		44		51	

### V-1-2 主要湧水（村別・用途別）総括表

	農 業 用 井 戸		水 道 用 井 戸		工 業 用 井 戸		そ の 他 の 井 戸		計	
	本数	揚水量 <sup>m<sup>3</sup></sup> /日	本数	揚水量 <sup>m<sup>3</sup></sup> /日	本数	揚水量 <sup>m<sup>3</sup></sup> /日	本数	揚水量 <sup>m<sup>3</sup></sup> /日	本数	揚水量 <sup>m<sup>3</sup></sup> /日
国頭村							24		24	
大宜見村			2		2		26		30	
東 村							6		6	
計			2		2		56		60	

※ 県内では水井戸台帳の作成がされていないので主要井戸を正確に把握することはかなり困難な状況である。  
 今回は沖縄水資源基礎調査(元資料)、各村役場、区、公民館、事務所、地域住民からのヒヤリング調査によって水井戸の確認調査を行った。  
 (期間 S 60年11月14日～11月18日)





























V-4-2 使用目的別湧水一覧表〔雑用井戸および拝井泉（旧集落井戸）〕

国頭村

対照番号	2.5万分1 地形図名	井戸の位置	所有者又は 管理者	用途	作井年月	深度	井径
Kn-1	辺土名	ハナラガー国頭村字浜	浜区	拝井泉	不明	0.60 <sup>m</sup>	1.2×8.0 <sup>m</sup>
Kn-2	〃	イリジアナガー国頭村字比地	比地区	〃	〃	0.80	1.8×0.9
Kn-3	〃	メージンジャナガー国頭村字比地	〃	〃	〃	0.70	1.5×0.8
Kn-4	〃	泉川国頭村字奥間	奥間区	〃	〃	0.75	—
Kn-5	〃	カネマンガー国頭村字奥間	〃	〃	〃	6.0	0.9
Kn-6	与那	国頭村字伊地	伊地区	〃	〃	0.7	2.0×1.2
Kn-7	〃	〃	〃	〃	〃	—	1.6×1.2
Kn-8	〃	アケチガー国頭村字与那	与那区	〃	〃	0.4	—
Kn-9	〃	シラーガー国頭村字与那	〃	〃	〃	0.3	—
Kn-10	〃	栄脚ガー国頭村字与那	〃	〃	〃	0.3	—
Kn-11	〃	御拝ガー国頭村字与那	〃	〃	〃	0.4	—
Kn-12	〃	ミートガー国頭村字謝敷	謝敷区	〃	〃	0.35	0.8×0.7
Kn-13	〃	ウイノハガー国頭村字謝敷	〃	〃	〃	0.4	1.3×0.7
Kn-14	〃	ユフルガー国頭村字謝敷	〃	〃	〃	0.45	2.4×1.2
Kn-15	〃	ソンジマナガー国頭村字謝敷	〃	〃	〃	0.35	2.1×1.2
Kn-16	〃	カミガー国頭村字字嘉	字嘉区	〃	〃	—	—
Kn-17	〃	ティンガー国頭村字字嘉	〃	雑用水 拝井泉	〃	—	—
Kn-18	奥	宜名真ヒージャガー国頭村字宜名真	宜名真区	拝井泉	〃	—	—
Kn-19	〃	ミンガー国頭村字辺戸	辺土区	〃	〃	0.4	2.0×1.2
Kn-20	〃	ウワガー国頭村字辺戸	〃	〃	〃	—	—
Kn-21	楚洲	国頭村字楚洲	楚洲区	〃	〃	1.5	2.0×1.2
Kn-22	安波	国頭村字安田伊部	安田区	〃	〃	0.7	1.5×1.2
Kn-23	〃	国頭村字安波	安波区	〃	〃	1.2	1.0×0.9
Kn-24	〃	〃	〃	〃	〃	1.0	1.2×1.2



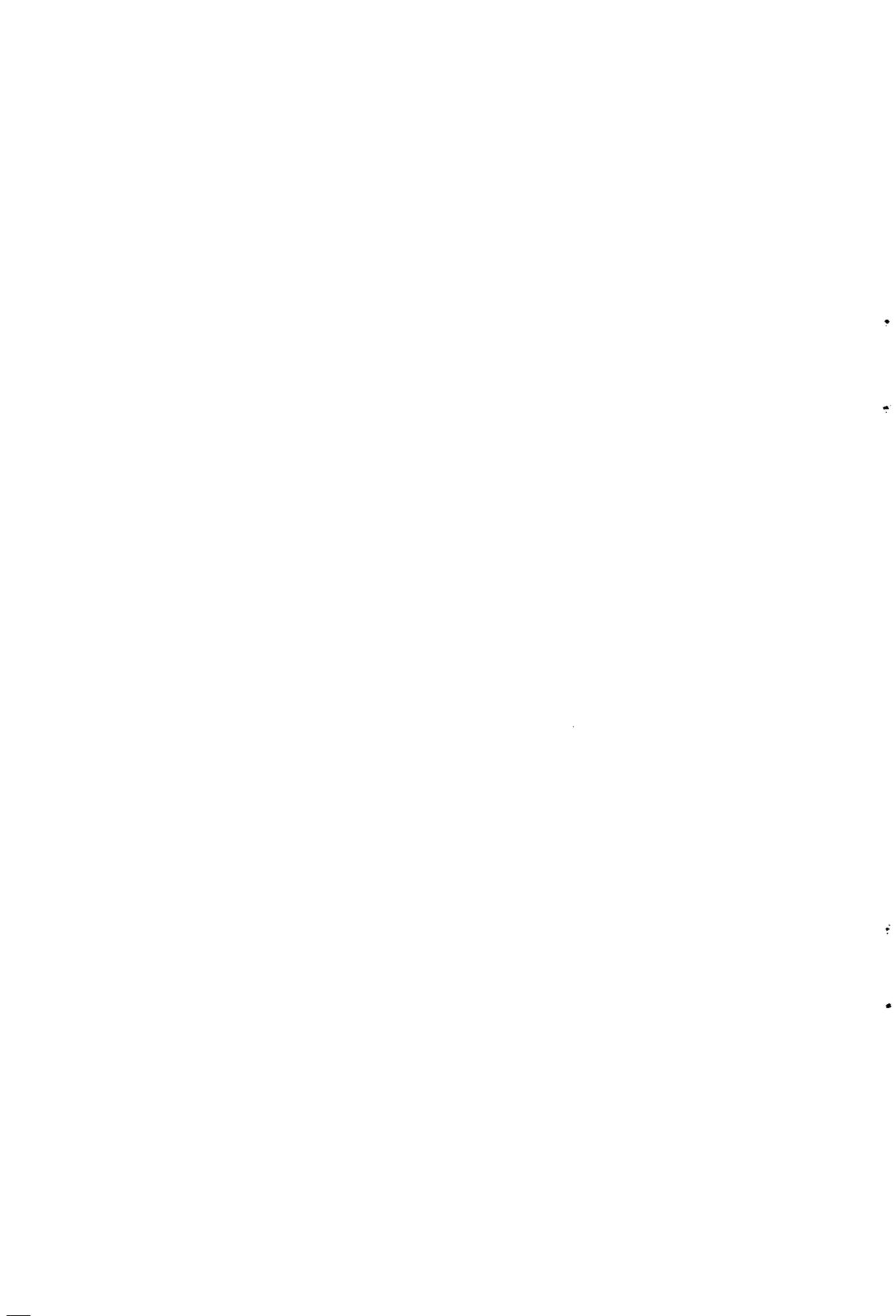
大宜味村

対照番号	2.5万分1 地形図名	井戸の位置	所有者又は 管理者	用途	作井年月	深 度	井 径
Og-1	辺 土 名	ウドンガー大宜味村字謝名城	謝 名 区	拝井泉	不 明	— <sup>m</sup>	0.7×0.4 <sup>m</sup>
Og-2	〃	ハタムンタガー大宜味村字謝名城	〃	〃	〃	0.6	1.8×1.2
Og-3	〃	テイラガー大宜味村字喜如嘉	喜 如 嘉 区	〃	〃	0.7	2.0×1.2
Og-4	〃	ミーガー大宜味村喜如嘉	〃	〃	〃	0.7	2.0×1.2
Og-5	大 宜 味	アナガー大宜味村大兼久	大 兼 久 区	〃	〃	—	
Og-6	〃	アナガー大宜味村字大宜味	大 宜 味 区	〃	〃	—	0.8
Og-7	〃	トウバルガー大宜味村字根路銘	根 路 銘 区	雑用水	〃	0.6	2.5×1.5
Og-8	〃	旧上原湧水大宜味村字上原	上 原 区	—	〃	—	—
Og-9	〃	メーガー大宜味村字塩屋	塩 屋 区	拝井泉	〃	1.20	1.0×0.9
Og-10	〃	ウワカガー大宜味村字塩屋	〃	〃	〃	0.95	1.2×1.0
Og-11	〃	クニクガー大宜味村字塩屋	〃	〃	〃	—	1.5×1.0
Og-12	〃	マンカガー大宜味村字塩屋塩屋屋古	屋 古 区	〃	〃	0.6	2.3×1.5
Og-13	〃	湧水-1大宜味村字塩屋屋古	〃	湧 泉	〃	—	—
Og-14	〃	湧水-2大宜味村字塩屋屋古	〃	〃	〃	—	—
Og-15	〃	メターガー大宜味村字塩屋屋古	〃	拝井泉	〃	0.5	2.0×1.0
Og-16	国頭・平良	湧水大宜味村字大保	大 保 区	雑用水	〃	0.6	1.5×1.0
Og-17	辺 土 名	ソーキジガー大宜味村字押川	照 塚 氏	生活用水	〃	—	—
Og-18	〃	ソエグムイ大宜味村字押川	徳 田 氏	雑用水	〃	—	—
Og-19	〃	ハンシーガー大宜味村字押川	不 明	〃	〃	—	—
Og-20	仲 尾 次	ビーグチガー大宜味村字田港	田 港 区	拝井泉	〃	—	—
Og-21	〃	メーダガー大宜味村字田港	〃	〃	〃	0.7	1.0×0.6
Og-22	〃	バナカジョウノガー大宜味村字田港	〃	〃	〃	0.4	1.0×0.6
Og-23	〃	ハンジャガー大宜味村字田港	〃	〃	〃	—	—
Og-24	国頭・平良	マグイ湧水大宜味村字田港	〃	簡易水道 水 源	〃	—	—
Og-25	仲 尾 次	ピンカガー大宜味村字白浜	白 浜 区		〃		
Og-26	〃	ヌルガー大宜味村字津波	津 波 区	拝井泉	〃	—	1.2×1.0









## VI 上水道及び簡易水道（専用水道を含む）資料

### VI-1 水道用水（事業別・主要項目別）総括表

	行政区城内 総人口	上水道			簡易水道			専用水道		
		箇所数	計画給水人口	現在給水人口	箇所数	計画給水人口	現在給水人口	箇所数	確認時給水人口	現在給水人口
国頭村	6,368				20	9,922	6,267			
大宜味村	3,486				9	7,023	3,282			
東村	2,209				4	3,385	2,204			
計	12,063	—	—	—	33	20,331	11,753	—	—	—
北部市町村	117,608	4	84,320	62,706	84	70,245	52,682	1	124	99
沖縄県	1,171,666	27	1,236,699	1,068,331	125	110,557	83,255	2	624	134

### VI-2 簡易水道用水総括表

市町村別	主 要 目 別 ヶ 所	計画給水区域 内の計画給水 人口 (人)	給水区域内の 現在人口 (a) (人)	給水区域内の 現在人口 (b) (人)	現況普及率 (b)/(a)%	日最大取水実績量		摘 要
						地下水(m <sup>3</sup> /D)	地表水(m <sup>3</sup> /D)	
国頭村	20	9,922	6,368	6,267	98.4	61	2,292	
大宜味村	9	7,023	3,312	3,282	99.1	—	1,199	
東村	4	3,385	2,209	2,204	99.8	—	1,350	
合 計	33	20,330	11,889	11,753	98.9	61	4,841	

水道概要昭和58年度  
沖縄県環境保健部環境衛生課

VI-3 簡易水道地区一覽表

对照番号	2.5万分1 地形図名	所在地	事業主 体者名 (地区)	計画目標年次	計 画		給水区域内 現在人口 (a)	現在給水 面積	現在給水 人口(b)
					給水区域 面積	給水人口			
1	辺土名	国頭村 浜	浜			620 <sup>人</sup>	446 <sup>人</sup>		443 <sup>人</sup>
2	〃	〃 半地	半地			300	172		172
3	〃	〃 比地	比地			250	164		164
4	〃	〃 鏡地	鏡地			375	323		323
5	〃	〃 奥間	奥間			610	544		544
6	〃	〃 桃原	桃原			500	323		323
7	〃	〃 辺土名	辺土名			2,442	1,724		1,724
8	与 辺土名	〃 宇良	宇良			280	127		127
9	与 那	〃 伊地	伊地			300	229		229
10	〃	〃 与那	与那			450	303		303
11	〃	〃 謝敷	謝敷			200	76		76
12	〃	〃 佐手	佐手			290	146		146
13	〃	〃 辺野喜	辺野喜			500	261		261
14	〃	〃 宇嘉	宇嘉			250	101		101
15	奥	〃 宜名真	宜名真			495	269		269
16	〃	〃 辺戸	辺戸			460	194		194
17	楚 奥洲	〃 奥	奥			550	267		242
18	楚 洲	〃 楚洲	楚洲			200	159		148
19	安波	〃 安田	安田			450	276		229
20	〃	〃 安波	安波			400	264		249
小計		20 地区				9,922	6,368		6,267
21	辺土名	大宜味村田嘉里	田嘉里			750	308		308
22	〃	〃 謝名城	謝名城			745	223		223
23	〃	〃 喜如嘉	喜如嘉			1,269	483		483
24	〃	〃 曉波	曉波			260	116		116
25	辺土名 大宜味	〃 大兼久	大兼久			474	198		198
26	大宜味	〃 大宜味	大宜味			301	125		95
27	〃	〃 根路銘	根路銘			194	142		142
28	〃	〃 上原	上原			350	85		85
29	仲尾次	〃 津波	津波			2,680	1,632		1,632
小計		9 地区				7,023	3,312		3,282
30	国頭・平良	東村 宮城	宮城			1,965	1,360		1,355

現況普及率 b/a×100	計画1人1日当たり 最大給水量	日最大給水能力		計画日最大取水量	日最大取水実績量		使用井戸本数		水利権 水量	備考
		認可済	現在 公称		地下水	地表水	深井戸	浅井戸		
99.3 %	361 t/d	m <sup>3</sup> /d	m <sup>3</sup> /d	223 m <sup>3</sup> /d	m <sup>3</sup> /d	159 m <sup>3</sup> /d	本	本	m <sup>3</sup> /sec	地表水
100	180			54	61					地下水
65.6	160			40		59				伏流水
86.1	360			135		116				*
89.2	359			219		195				*
64.6	180			90		116				地表水
70.6	400			977		689				*
45.4	382			107		48				*
76.3	350			105		80				*
67.3	400			180		45				*
38.3	390			78		29				*
50.3	379			110		55				*
52.2	330			165		86				*
40.4	300			75		30				*
54.3	400			198		108				*
42.2	200			92		78				*
90.6	400			220		97				*
93.1	200			40		52				*
83.0	389			175		89				*
94.3	400			160		100				*
98.4	347			3,443	61	2,292				
100	149			112		112				地表水
100	149			111		111				*
100	150			190		190				*
100	150			39		39				*
100	150			71		71				*
760	150			45		45				*
100	150			29		29				湧水
100	149			52		52				*
100	392			1,050		550				地表水
99.1	242			1,699		1,199				
99.6	475			934		934				地表水





## Ⅶ 工業用水使用状況資料

### Ⅶ-1 産業中分類別水源別用水量

沖縄県の工業 (工業統計調査S58年)

		報告のあった 事業所数	水源別用水量 (m <sup>3</sup> /日)						合計
			工業用水	上水道	地表水 伏流水 含む	井戸水	その他	間取水	
18-19	食料品製造業	58	1,078	4,774	44,191	10,294	2,138	20,624	83,099
20	織維工業	1	×	×	×	×	×	×	×
21	衣服その他織維製品製造業	6	0	26	0	0	0	0	26
22	木材・木製品製造業	5	0	24	167	52	0	0	243
23	家具・装飾品製造業	1	×	×	×	×	×	×	×
24	パルプ紙・紙加工品製造業	5	0	66	2,000	1,826	0	2,665	6,557
25	出版印刷関連連産業	9	0	124	0	0	0	0	124
26	化学工業	7	273	65	0	892	0	477	1,707
27	石油製品石炭製品製造業	3	5,042	305	0	0	0	224,700	230,047
28	ゴム製品製造業	—	0	0	0	0	0	0	0
29	なめしかわ同製品毛皮製造業	—	0	0	0	0	0	0	0
30	窯業・土石製品製造業	34	104	1,048	542	3,320	547	7,294	12,855
31	鉄鋼業	5	0	374	0	1,658	0	16,840	18,872
32	非鉄金属製造業	1	×	×	×	×	×	×	×
33	金属製品製造業	11	0	113	0	0	0	0	113
34	一般機械器具製造業	—	0	0	0	0	0	0	0
35	電気機械器具製造業	2	×	×	×	×	×	×	×
36	輸送用機械器具製造業	2	×	×	×	×	×	×	×
37	精密機械器具製造業	—	0	0	0	0	0	0	0
38	その他の製造業	6	0	22	0	0	0	0	22
18-1	バイン・アップル缶詰製造業	2	×	×	×	×	×	×	×
2	砂糖製造業	16	898	622	41,956	7,917	2,100	20,094	73,587
沖縄県合計		156	6,705	7,027	46,908	18,111	2,685	272,600	354,036

資料：沖縄県の工業  
(工業統計調査 S58年)

Ⅶ—2 村別事業所数・従業者数

沖縄県の工業（工業統計調査S 58年）

	従業者数10人以上		従業者数30人以上		合 計	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
国頭村	3	71	—	—	3	71
大宜味村	2	×	—	—	2	×
東 村	2	×	—	—	2	×
国頭郡計	23	541	4	192	27	733
沖縄 県	531	17,961	154	11,393	685	29,354

Ⅶ—3 従業者規模30人以上工業用水量

沖縄県の工業（工業統計調査S 58年）

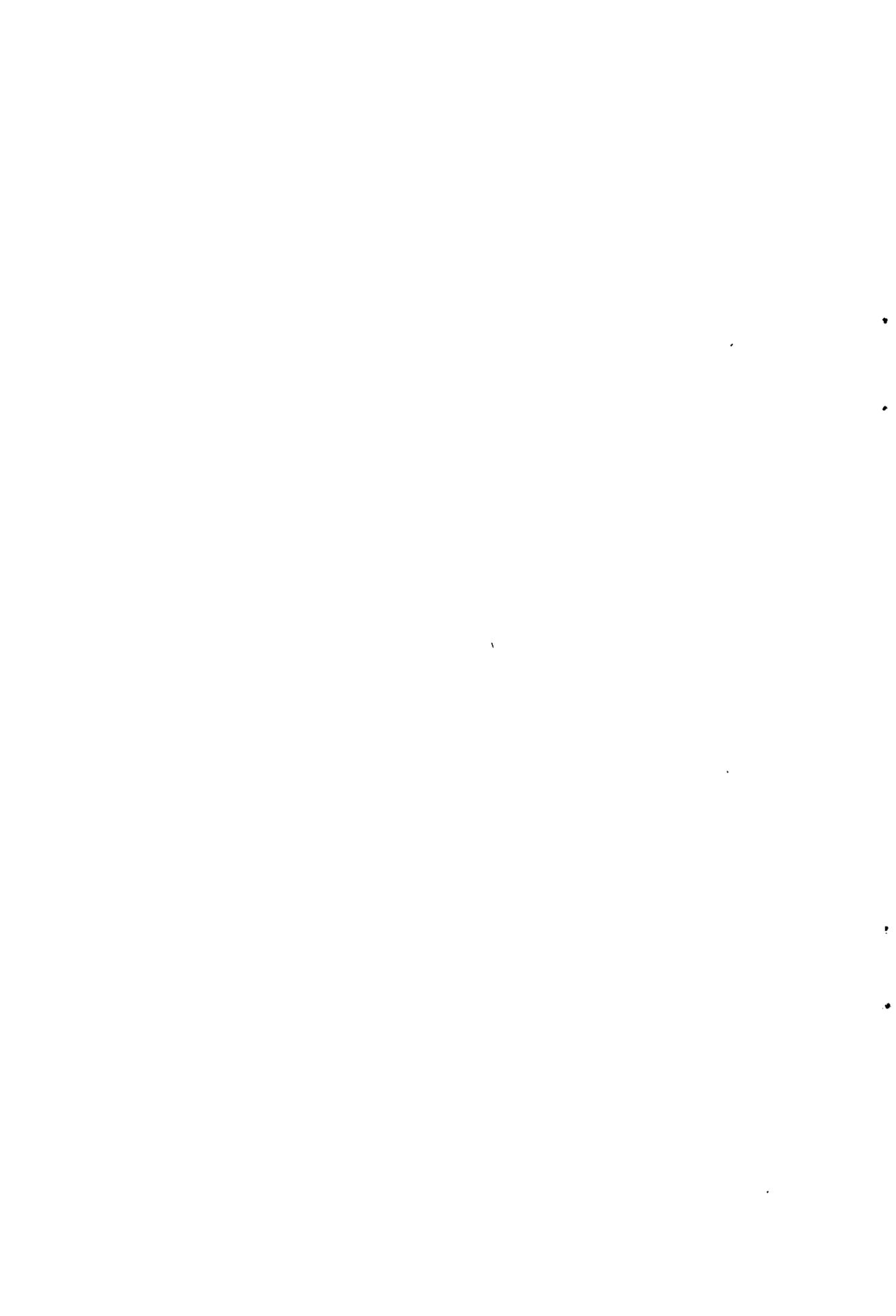
	事業所数	従業者数	用水量 $m^3$ /日	
			淡 水	海 水
国頭村				
大宜味村				
東 村				
国頭郡計	4	192	3,410	26,408
沖縄県計	154	11,393	354,036	302,086

Ⅶ-4 工業用水使用状況調査一覧表

市 郡 名	主要業種 (巾分類)	主費事業所名と事業所数	1日当たり淡水 (平均量)		
			工業用水道	地 表 水 (大流水を含む)	地下水
国 頭 村	30、窯業・土石製品製造業	北部生コン株式会社		150	
〃	24、パルプ紙・紙加工品製造業	国頭村森林組合チップ工場			
〃	30、窯業・土石製品・製造業	国場組北部半地砕石場		10	
小 計		3		160	
大 直 味 村	18- 9、食品品製造業	出喜里酒造所			
〃	18-1、パイン・アップル缶詰製造業	合同パイン大東工場		200	
小 計		2		200	
東 村	18-1、パイン・アップル缶詰製造業	南西食品東工場			200
〃	30、窯業・土石製品・製造業	東生コン工業株式会社			
小 計		2			200
合 計		7		360	200

1984年11月14～11月15日国頭3村の事業所の  
工業水実態調査を行った。(ヒアリング方式)

大) 実取水量 (m <sup>3</sup> /d)			地下水の使用井戸本数(本)		備 考
上水道	そ の 他 (回収水を含む)	合 計	浅 井 戸	深 井 戸	
		150			
5		5			
		10			
5		165			
20		20	非常用井戸1本		
		200			但し操業期間8月～5月の間
20		220	1本		
30		230	深度22m(2本)		
160		160		深度32m(1本)	井戸は非常時用
190		390			
215		775	3	1	



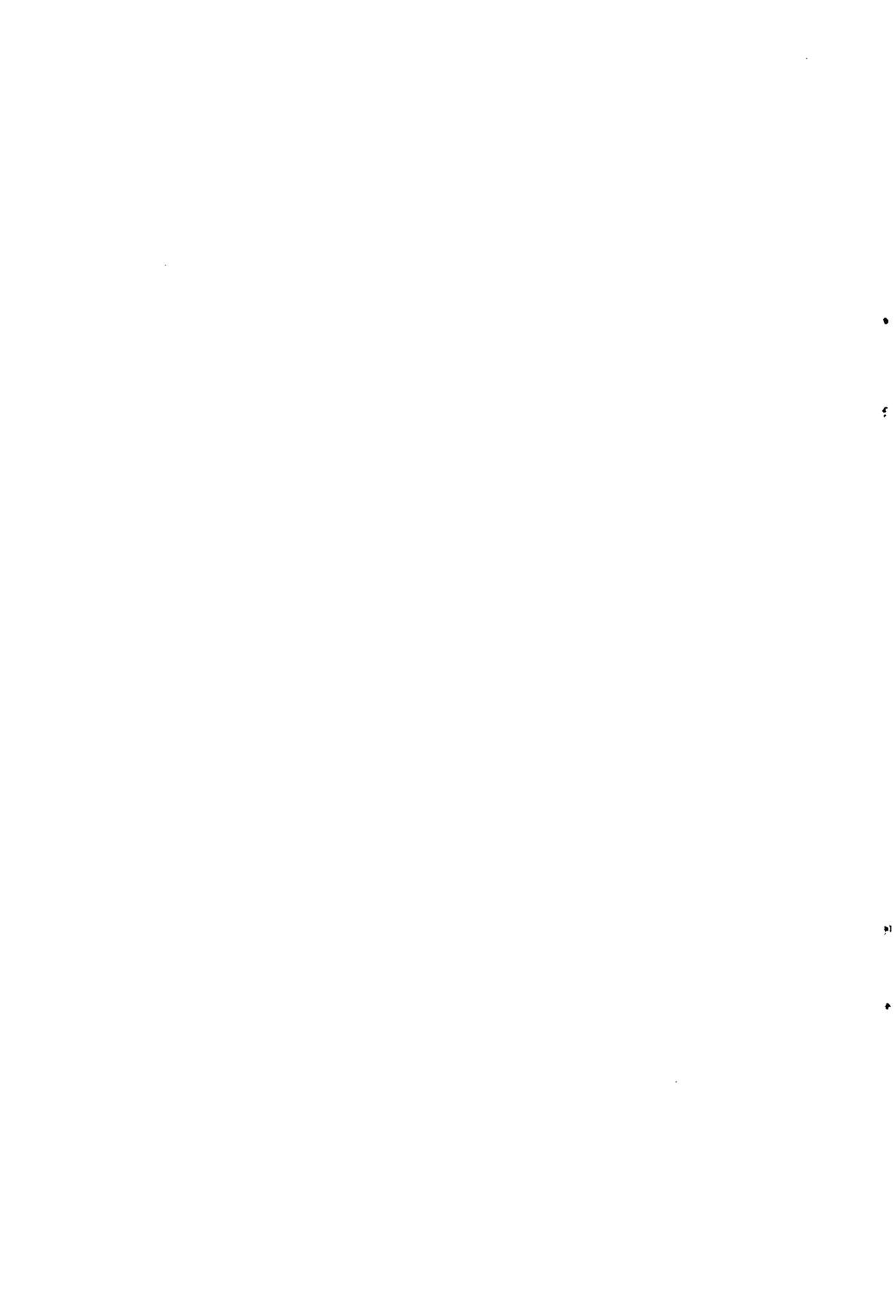
# Ⅷ ダム 資料

## Ⅷ-1 管理中及び建設中のダム

所 属 別	主要項目別 ダム数	経 済 効 果 別 ダ ム 数					備 考				
		水調整ダム	かんがいダム	発 電	上 水 道	工 業 用 水					
沖 縄 県 全 体	国の管理する ダム	8	7	3	最大 97,000m <sup>3</sup> /日	1	7	214,100m <sup>3</sup> /日	5	68,400m <sup>3</sup> /日	
	県の管理する ダム	5	1	2			3				
	市 町 村 の 管理するダム	2	2	1							
	合 計	15	10	6		1	10		5		
今 回 調 査 地 域	国の管理する ダム	5	5	1	最大 83,800m <sup>3</sup> /日	1	5	190,600m <sup>3</sup> /日	5	68,400m <sup>3</sup> /日	
	県の管理する ダム	0	0	0		0	0		0		
	市 町 村 の 管理するダム	0	0	0		0	0		0		
	合 計	5	5	1	最大 83,800m <sup>3</sup> /日	1	5	190,600m <sup>3</sup> /日	5	68,400m <sup>3</sup> /日	







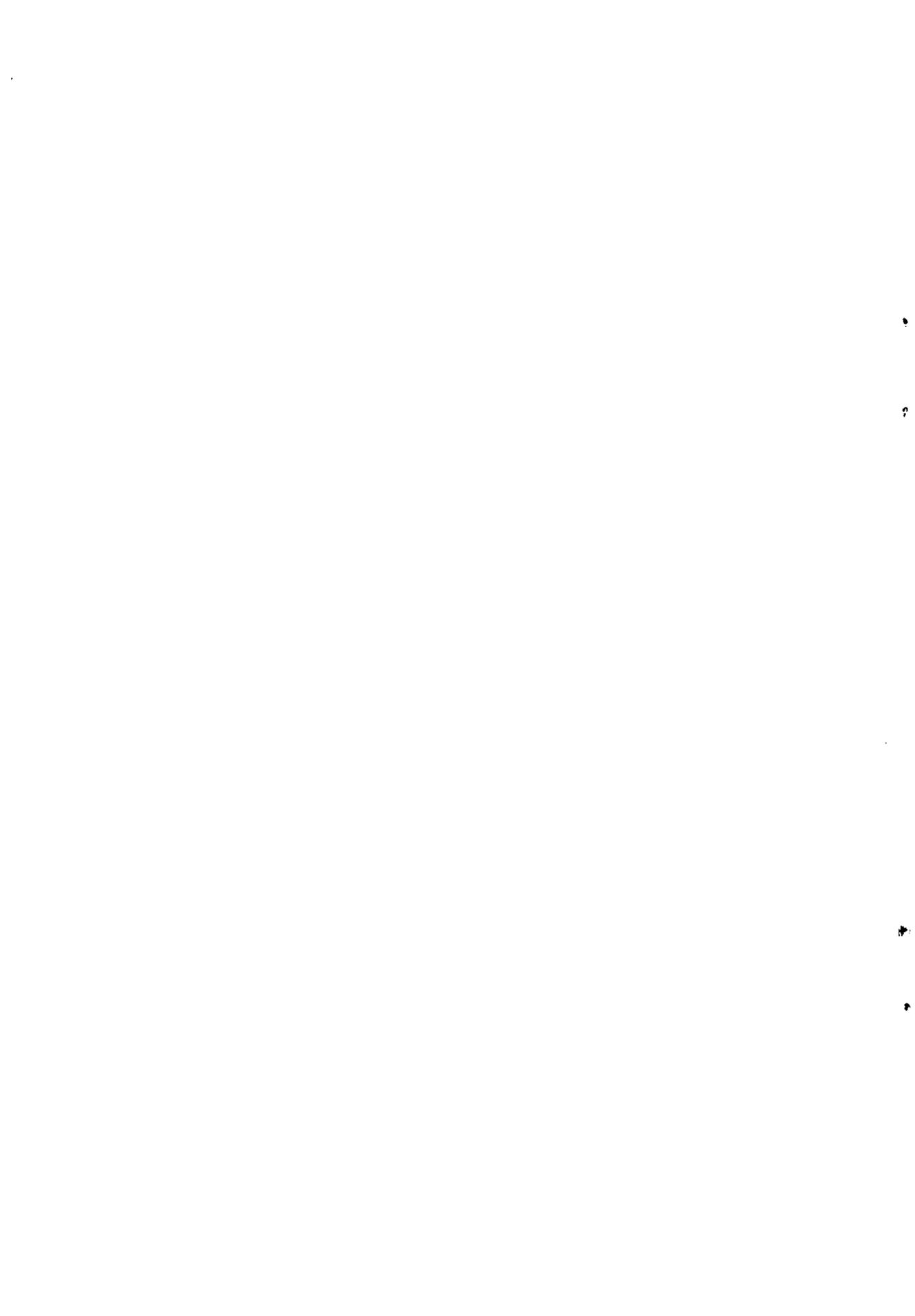
# 区水力発電所資料

## 区-1 水力発電所総括表

主要項目別 水系別	発電所数	形式分類			使用水量		発電力		年間発生 電力量MWH	企業者別の数
		ダム式	水路式	ダム 水路式	最 大 m <sup>3</sup> /sec	最 大 m <sup>3</sup> /sec	最 大 K W	常 時 M W H		
福地川	1			1	3.29	—	1,000	—	—	北部ダム 1 統合管理事務所
計				1	3.29	—	1,000	—	—	1







# X 溜池資料

## X-1 溜池総括表 (地域別) 総括表

資料溜池台帳かんがいダム一覧表

		農 業 用 溜 池			
		ヶ 所 数			
		100 以上 千㎡	千㎡ 以上	4 ㎡ 以下	合 計
沖 縄 県 全 域	沖縄本島	10	6	4	20
	宮古		1		1
	八重山	1	2		3
	その他離島	9	23	6	38
	計	20	32	10	62
四 登 地 域	国頭村	0	1	0	1
	大宜味村	0	0	0	0
	東村	0	0	0	0
	計	0	1	0	1





























## Ⅷ-2 資料の出典

### (I) 降水量資料

「沖縄北部水位雨量年表」(昭和49～59年)

沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部北部ダム事務所

「河川開発調査水文観測報告書」(昭和51～59年)

沖縄開発庁沖縄総合事務局農林水産部

「水文観測業務報告書」(昭和47～59年)

沖縄県土木建築部河川課・(財)日本気象協会沖縄支部

「降水量観測点測定資料」(昭和58年～)

沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部北部ダム統合管理事務所

「沖縄本島河川総合開発事業計画(図面)」

沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部北部ダム事務所

### (II) 水位・流量資料

「沖縄北部水位雨量年表」(昭和49～59年)

沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部北部ダム事務所

「河川開発調査水文観測報告書」(昭和51～59年)

沖縄開発庁沖縄総合事務局農林水産部

「水文観測業務報告書」(昭和47～59年)

沖縄県土木建築部河川課・(財)日本気象協会沖縄支部

「水位・流量観測点測定資料」(昭和58～59年)

沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部北部ダム統合管理事務所

「沖縄本島河川総合開発事業計画(図面)」

沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部北部ダム事務所

「沖縄県水文特性調査報告書」(昭和54年度～56年)

沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部河川課

### (III) 水質資料

「沖縄県における公共用水域の水質測定結果」

沖縄県環境保健部公害対策課

「沖縄県環境白書」

沖縄県環境保健部環境衛生課

「安波ダム水質・底質調査報告書」

沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部北部ダム統合管理事務所

「福地ダム水質・底質調査報告書」

沖繩開発庁沖繩総合事務局開発建設部北部ダム統合管理事務所

「新川ダム水質・底質調査報告書」

沖繩開発庁沖繩総合事務局開発建設部北部ダム統合管理事務所

「普久ダム水質・底質調査報告書」

沖繩開発庁沖繩総合事務局開発建設部北部ダム統合管理事務所

Ⅶ) 上水道及簡易水道資料

「水道概要」 沖繩県環境保健部環境衛生課

「簡易水道資料」 沖繩県環境保健部環境衛生課

「国頭村簡易水道資料」 国頭村建設課

「大宜味村広域簡易水道資料」 大宜味村建築課

「東村簡易水道資料」 東村経済課

Ⅷ) 工業用水使用状況資料

「沖繩県の工業(工業統計調査)」

Ⅹ) ダム資料

「沖繩のダム事業概要」

沖繩開発庁沖繩総合事務局開発建設部河川課

福地ダム(パンフ) 沖繩開発庁沖繩総合事務局開発建設部北部ダム統合管理事務所

新川ダム(パンフ) ”

普久ダム(パンフ) ”

安波ダム(パンフ) ”

辺野喜ダム(パンフ) ”

「土木建築部概要」 沖繩県土木建築部

Ⅴ) 取水口・排水口資料

河川現況台帳 沖繩県土木建築部河川課

河川水利台帳 ”

水利使用許可一覧表 沖繩県土木建築部河川課

「沖繩本島北部河川水利現況調査報告書(東系列)」 琉球政府・中央建設コンサルタント

「沖繩本島北部河川水利現況調査報告書(西系列)」 ”

「沖繩本島新規水源施設取水増量計画」 沖繩県企業局

「新規水源取水河川現況調査資料」 ”

国頭村水利使用許可一覧表 国頭村建設課

大宜味村水利利用状況(ヒヤリング) 大宜味村建設課

東村水利利用状況(ヒヤリング) 東村建設課

VI) 主要井戸資料

「沖繩水資源開発調査報告書」 逋産省工業技術院地質調査所

X) 水力発電所資料

「ダム管理用水水力発電設備工事計画書」

沖繩開発庁沖繩総合事務局開発建設部北部ダム統合管理事務所

XI) 溜池資料

「ため池一覧表」 沖繩県農林水産部農林建設課

「土地改良10年の歩み」 沖繩県農林水産部農林建設課・耕地課

XII) 河道横断の水門資料

「河川現況台帳」

XIV) 土地改良区資料

「沖繩県の土地改良」 沖繩県農林水産部農林建設課・耕地課

「土地改良10年の歩み」